秋田県文化財調査報告書第454集

智　者　鶴　遺　跡

－地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０１０・３

秋　田　県　教　育　委　員　会

秋田県文化財調査報告書第454集

智者鶴遺跡

２０１０・３

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7㎝、凝灰岩。

智（ち）者（しゃ）鶴（づる）遺跡

－地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０１０・３

秋田県教育委員会

序

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、県道をはじめとする道路の整備は、地域が活発に交流・連携する秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会ではこれら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線の建設に先立って、平成20・21年度に由利本荘市において実施した智者鶴遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。調査では、縄文時代後期前葉から晩期中葉までの土坑や配石遺構、掘立柱建物跡などが検出され、遺跡は縄文時代に営まれた集落跡と墓域跡であることが分かりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、御協力をいただきました由利地域振興局建設部、由利本荘市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成22年３月

秋田県教育委員会

教育長　根　岸　　均

例　言・凡　例

1　本報告書は、地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線に伴い、平成20・21(2008・2009)年度に行った智者鶴遺跡の発掘調査成果を収めたものである。

2　本報告書刊行以前に『年報』『発掘調査資料』などによって概要を公表しているが、内容に相違がある場合、本報告書をもって訂正したものとする。

3　発掘調査と整理作業においては、一部の業務を下記の機関に委託した。

水準測量および方眼杭設置：測地環境コンサルタント

空中撮影：エルディコンサルタント株式会社

石器実測・デジタルトレース：株式会社アルカ

土器実測・デジタルトレース：NPO法人歴史・環境・まちづくり

4　第５章「自然科学的分析」は、下記の各機関に分析を業務委託した成果報告である。

第１節　花粉分析、植物珪酸体分析、リン・カルシウム分析：パリノ・サーヴェイ株式会社

第２節　黒曜石製石器の産地推定：株式会社パレオ・ラボ

第３節　動物遺体同定：株式会社パレオ・ラボ

5　本書の原稿は、第１～３章、第４章第１・２節を加藤朋夏と加藤竜がそれぞれの調査担当年度分について執筆し、第４章第３節、第６章は加藤竜が執筆した。全体の編集は加藤竜が行った。

6　本書に使用した地図の原図は、国土地理院発行1/25,000地形図「大琴」「老方」「矢島」「羽後田代」ならびに秋田県由利地域振興局建設部提供の1/1,000工事用図面である。

7　挿図中の方位は、世界測地系平面直角座標第Ｘ系の座標北を示す。なお、磁北は座標北から西へ７°50′偏する。

8　土層注記などの土色の色調表記は、農林水産省水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版　標準土色帳』2003年版に準拠した。

9　遺構・遺物に使用した略記号は以下の通りである。

ＳＢ：掘立柱建物跡　ＳＫ：土坑　ＳＫＰ：柱穴様ピット　ＳＱ：配石遺構

ＲＰ：土器　ＲＱ・Ｓ：石器

10　遺跡基本層位にはローマ数字を、遺構内層位には算用数字を使用した。

11　遺構から出した礫石器類については、以下のように漢字１文字で省略して種別と分類を示した。

皿：石皿　砥：砥石　磨：磨・凹石類　礫：礫器　棒：石棒　硅：硅化木

12　掲載した遺物には挿図ごとに１からの通し番号を付した。また、同一個体と考えられる土器には、１ａ・１ｂのように数字と小文字アルファベットを合わせて表示した。

13　挿図に使用した網掛けについては、挿図毎に凡例を付した。

14　写真図版に掲載した遺物の縮尺は以下の通りである。

土器：約1/4　剥片石器類：約1/2　磨製石斧・打製石斧：約1/3　礫石器類：約1/4

土製品・石製品：約1/2

15　発掘調査および報告書作成にあたり、以下の方々からご指導・ご協力頂いた(五十音順、敬称略)。

大島直行　中村大　水戸部秀樹　八木勝枝

目　　次

序 …… i
例言・凡例 …… ii
目次 …… iii
挿図目次 …… iv
表目次 …… v
図版目次 …… vi

第１章　はじめに …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査要項 …… 1

第２章　遺跡の環境 …… 2
　第１節　遺跡の位置と立地 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 3

第３章　発掘調査の概要 …… 8
　第１節　遺跡の概観 …… 8
　第２節　調査の方法 …… 8
　第３節　調査の経過 …… 11
　第４節　整理作業の方法と経過 …… 13

第４章　調査の記録 …… 14
　第１節　基本層序 …… 14
　第２節　検出遺構と出土遺物 …… 17
　　１　土坑 …… 17
　　２　配石遺構 …… 33
　　３　掘立柱建物跡 …… 35
　　４　柱穴様ピット …… 35
　第３節　出土遺物 …… 60
　　１　縄文土器 …… 60
　　２　石器 …… 64
　　３　土製品 …… 71
　　４　石製品 …… 72

第５章　自然科学的分析 …… 118
　第１節　花粉分析、植物珪酸体分析、
　　リン・カルシウム分析 …… 118
　第２節　黒曜石製石器の産地推定 …… 123
　第３節　動物遺体同定 …… 127

第６章　まとめ …… 129

図版
報告書抄録
付図

挿図目次

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　地形区分図 …… 3
第３図　周辺遺跡位置図 …… 6
第４図　グリッド配置図 …… 9
第５図　基本土層図 …… 15
第６図　基本土層図作成地点 …… 15
第７図　遺構配置図 …… 16
第８図　土坑（１）　SK11・12・13a・14a・14b・15・24・30a・39a・43・71・83 …… 36
第９図　土坑（２）　SK53・54・56・57・58・62・67・70 …… 37
第10図　土坑（３）　SK85・88・89・129・130・156a・162・164・165・166・178 …… 38
第11図　土坑（４）　SK188・205・213・214・226・237・242・243・244・245・248・251 …… 39
第12図　土坑（５）　SK252・266・281・282・283・284・298　配石遺構（１）　SQ55・68・69・246・247 …… 40
第13図　配石遺構（２）　SQ52 …… 41
第14図　掘立柱建物跡　SB296・297 …… 42
第15図　柱穴様ピット …… 43
第16図　遺構内出土縄文土器（１） …… 51
第17図　遺構内出土縄文土器（２） …… 52
第18図　遺構内出土縄文土器（３） …… 53
第19図　遺構内出土縄文土器（４） …… 54
第20図　遺構内出土縄文土器（５）、土製品、剥片石器類（１） …… 55
第21図　遺構内出土剥片石器類（２） …… 56
第22図　遺構内出土剥片石器類（３）、礫石器類、石製品 …… 57
第23図　遺構外出土縄文土器（１）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢 …… 73
第24図　遺構外出土縄文土器（２）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢 …… 74
第25図　遺構外出土縄文土器（３）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢 …… 75
第26図　遺構外出土縄文土器（４）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢 …… 76
第27図　遺構外出土縄文土器（５）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢 …… 77
第28図　遺構外出土縄文土器（６）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢 …… 78
第29図　遺構外出土縄文土器（７）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢 …… 79
第30図　遺構外出土縄文土器（８）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢、浅鉢、壺 …… 80
第31図　遺構外出土縄文土器（９）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢 …… 81
第32図　遺構外出土縄文土器（10）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢 …… 82
第33図　遺構外出土縄文土器（11）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢 …… 83
第34図　遺構外出土縄文土器（12）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢 …… 84
第35図　遺構外出土縄文土器（13）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢 …… 85
第36図　遺構外出土縄文土器（14）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢 …… 86
第37図　遺構外出土縄文土器（15）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢 …… 87
第38図　遺構外出土縄文土器（16）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢 …… 88
第39図　遺構外出土縄文土器（17）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢 …… 89
第40図　遺構外出土縄文土器（18）　Ⅱ群（後期中葉）鉢、浅鉢 …… 90
第41図　遺構外出土縄文土器（19）　Ⅱ群（後期中葉）台付鉢、壺 …… 91
第42図　遺構外出土縄文土器（20）　Ⅱ群（後期中葉）壺、注口、単孔、蓋、多孔底、香炉 …… 92
第43図　遺構外出土縄文土器（21）　Ⅲ群（後期後葉）深鉢 …… 93
第44図　遺構外出土縄文土器（22）　Ⅲ群（後期後葉）鉢、壺、注口　Ⅳ群（晩期）深鉢 …… 94
第45図　遺構外出土縄文土器（23）　Ⅳ群（晩期）深鉢、鉢、浅鉢、壺、注口　Ⅴ群（小型土器） …… 95
第46図　遺構外出土剥片石器類（１）　石鏃、石錐、石匙、箆状石器 …… 96
第47図　遺構外出土剥片石器類（２）　楔形石器、嘴状石器、異形石器ほか、不定形石器 …… 97

第48図　遺構外出土剥片石器類（３）　不定形石器、残核 …… 98
第49図　遺構外出土剥片石器類（４）　残核 …… 99
第50図　遺構外出土礫石器類（１）　磨製石斧、打製石斧、石皿 …… 100
第51図　遺構外出土礫石器類（２）　石皿、砥石、磨・凹石類、敲石、礫器、石錘 …… 101
第52図　遺構外出土土製品・石製品 …… 102
第53図　遺構外出土縄文土器重量分布図 …… 104
第54図　遺構外出土縄文土器時期別分布図 …… 105
第55図　遺構外出土石器分布図（１）　剥片石器類、石鏃、石錐、石匙 …… 106
第56図　遺構外出土石器分布図（２）　箆状石器、楔形石器、異形石器ほか、不定形石器 …… 107
第57図　遺構外出土石器分布図（３）　剥片、残核、礫石器類、硅化木 …… 108
第58図　遺構外出土石器分布図（４）　磨製石斧、打製石斧、石皿、砥石 …… 109
第59図　遺構外出土石器分布図（５）　磨・凹石類、敲石、礫器、石錘 …… 110
第60図　遺構外出土土製品分布図　土偶、土製耳飾、土器片円盤、その他土製品 …… 111
第61図　遺構外出土石製品分布図　石棒、円盤状石製品、有孔石製品、その他石製品 …… 112
第62図　植物珪酸体群集 …… 120
第63図　花粉分析プレパラート内の状況・植物珪酸体 …… 122
第64図　黒曜石産地分布図（東日本） …… 124
第65図　黒曜石産地推定判別図（１） …… 126
第66図　黒曜石産地推定判別図（２） …… 126
第67図　智者鶴遺跡の動物遺体 …… 128
第68図　土坑長幅分散図 …… 129
第69図　遺構の時期別分布 …… 132
第70図　主要土器の出土層位 …… 134
付図１　遺構配置全体図
付図２　遺構配置・遺物分布図（１）
付図３　遺構配置・遺物分布図（２）
付図４　遺構配置・遺物分布図（３）

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧 …… 7
第２表　検出遺構一覧 …… 16
第３表　柱穴様ピット一覧（１） …… 44
第４表　柱穴様ピット一覧（２） …… 45
第５表　柱穴様ピット一覧（３） …… 46
第６表　遺構土層注記一覧（１）　土坑 …… 47
第７表　遺構土層注記一覧（２）　土坑・柱穴様ピット …… 48
第８表　遺構土層注記一覧（３）　柱穴様ピット …… 49
第９表　遺構土層注記一覧（４）　柱穴様ピット …… 50
第10表　遺構内出土土器・土製品一覧（１） …… 58
第11表　遺構内出土土器・土製品一覧（２） …… 59
第12表　遺構内出土石器・石製品一覧 …… 59
第13表　石器の器種別出土点数 …… 103
第14表　石器の分類別出土点数 …… 103
第15表　土製品の種別出土点数 …… 103
第16表　石製品の種別出土点数 …… 103
第17表　遺構外出土土器・土製品一覧（１） …… 113
第18表　遺構外出土土器・土製品一覧（２） …… 114
第19表　遺構外出土土器・土製品一覧（３） …… 115

第20表　遺構外出土土器・土製品一覧（４）…… 116
第21表　遺構外出土石器・石製品一覧 …… 117
第22表　花粉分析結果 …… 119
第23表　植物珪酸体分析結果 …… 119
第24表　リン・カルシウム分析結果 …… 120
第25表　黒曜石産地（東日本）の判別群名称 …… 124
第26表　分析対象資料および産地推定結果 …… 125
第27表　層位別の産地推定結果 …… 125
第28表　智者鶴遺跡の動物遺体 …… 127
第29表　掲載土器の時期別出土層位対応表 …… 133

図版目次

図版１　遺跡遠景・調査区全景
図版２　検出遺構（１）　土坑（SK11・12・13a・14a・14b・15・24・30a・39a・43・70・71・83）
図版３　検出遺構（２）　土坑（SK53・54・56・57）
図版４　検出遺構（３）　土坑（SK58・67・88・129・130・162）　配石遺構（SQ68）
図版５　検出遺構（４）　土坑（SK156a・164・165・166・188・205・213・214）
図版６　検出遺構（５）　土坑（SK237a・243・244・245・248・251・252・266・281）
図版７　検出遺構（６）　土坑（SK282・283・284・298）　配石遺構（SQ52）
図版８　検出遺構（７）　配石遺構（SQ52・55・246・247）
図版９　遺構内出土縄文土器（１）
図版10　遺構内出土縄文土器（２）
図版11　遺構内出土縄文土器（３）・土製品・剥片石器類（１）
図版12　遺構内出土剥片石器類（２）・礫石器類・石製品
図版13　遺構外出土縄文土器（１）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢
図版14　遺構外出土縄文土器（２）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢
図版15　遺構外出土縄文土器（３）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢
図版16　遺構外出土縄文土器（４）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢
図版17　遺構外出土縄文土器（５）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢、浅鉢、壺
図版18　遺構外出土縄文土器（６）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢
図版19　遺構外出土縄文土器（７）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢
図版20　遺構外出土縄文土器（８）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢
図版21　遺構外出土縄文土器（９）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢
図版22　遺構外出土縄文土器(10)　Ⅱ群（後期中葉）深鉢
図版23　遺構外出土縄文土器(11)　Ⅱ群（後期中葉）鉢、浅鉢、台付鉢、壺
図版24　遺構外出土縄文土器(12)　Ⅱ群（後期中葉）壺、注口、単孔、蓋、多孔底、香炉
図版25　遺構外出土縄文土器(13)　Ⅲ群（後期後葉）深鉢、鉢、壺、注口、香炉
図版26　遺構外出土縄文土器(14)　Ⅳ群（晩期）深鉢、鉢、浅鉢、壺、注口　Ⅴ群（小型土器）
図版27　遺構外出土石器（１）　剥片石器類
図版28　遺構外出土石器（２）　剥片石器類、磨製石斧、打製石斧
図版29　遺構外出土石器（３）　礫石器類
図版30　遺構外出土土製品・石製品

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線は、県道34号線の幅員狭小の解消を目的とし、平成19年から21年にかけて実施された。由利本荘市東由利黒渕字境田を起点として、黒渕字下田面を終点とする、事業延長1,355ｍの工事である。

事業計画区域内に周知の遺跡である智者鶴遺跡の範囲が含まれていることから、秋田県教育委員会は秋田県由利地域振興局建設部と今後の対応について協議し、2007（平成19）年に２度にわたって試掘による分布調査を実施した。その結果、県道より南西～西側の部分では遺物包含層および遺構面が保存されていることが確認されたため、この部分（約400㎡）を調査対象として、2008（平成20）年９月より秋田県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。

発掘調査と並行して市道石高線部分の遺跡の保存状態を調査したところ、道路敷設に伴う撹乱が遺構面まで達しておらず、遺物包含層も良好に保存されていることが判明した。この結果を受けて県教育委員会と由利地域振興局建設部で協議し、市道部分にあたる約64㎡についても発掘調査が必要と判断した。これについては2009（平成21）年６月に、埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。

第２節　調査要項

遺 跡 名 称　智者鶴遺跡（遺跡略号：６ＴＳＤ）
所　在　地　秋田県由利本荘市東由利黒渕字境田39－８・10、智者鶴47－3
遺 跡 状 況　水田・畑地・道路
調 査 期 間　平成20年９月１日～10月22日
　　平成21年６月１日～６月26日
調 査 面 積　334㎡（平成20年度270㎡・平成21年度64㎡）
調査主体者　秋田県教育委員会
調査担当者　平成20年度　加藤　朋夏（秋田県埋蔵文化財センター調査班文化財主任）
　　佐々木公法（秋田県埋蔵文化財センター調査班調査・研究員）
　　平成21年度　加藤　　竜（秋田県埋蔵文化財センター調査班文化財主任）
　　草薙裕太郎（秋田県埋蔵文化財センター調査班調査・研究員）
調査総務担当　平成20年度　千田　喜博（秋田県埋蔵文化財センター総務班主査）
　　高村知恵子（秋田県埋蔵文化財センター総務班主事）
　　平成21年度　久米　　保（秋田県埋蔵文化財センター総務班主査）
　　高村知恵子（秋田県埋蔵文化財センター総務班主任）
　　※担当者名・職名は発掘調査時のものである。
調査協力機関　秋田県由利地域振興局建設部　由利本荘市教育委員会

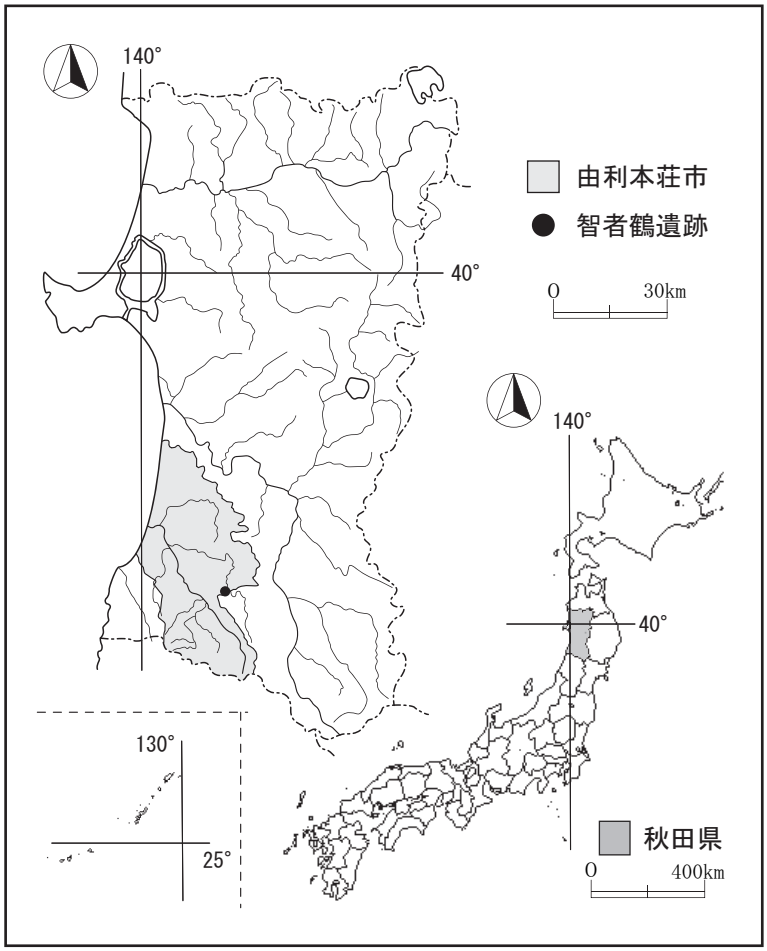
第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と立地

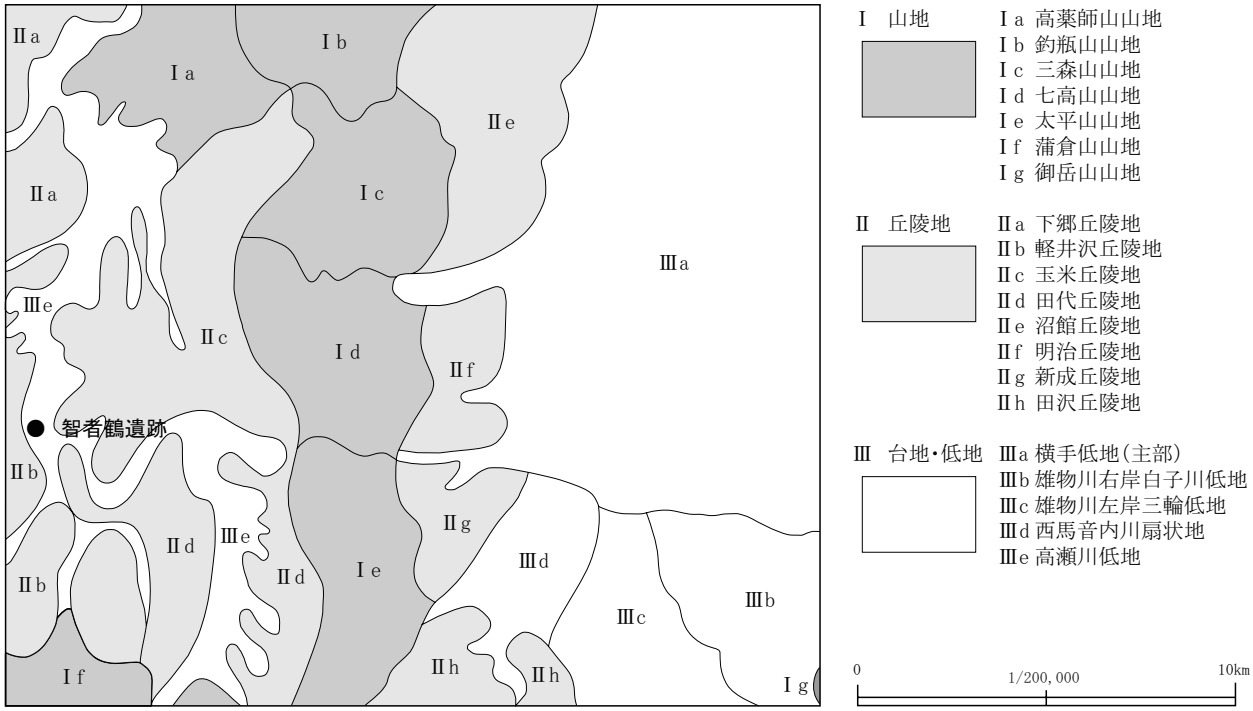
智者鶴遺跡は秋田県由利本荘市東由利黒渕に所在し、北緯39度14分09秒、東経140度15分21秒に位置する(第１図)。由利本荘市は秋田県の南西部にあり、日本海に面している。平成17年３月に本荘市と由利郡７町(矢島町・岩城町・由利町・西目町・鳥海町・東由利町・大内町)が広域合併し、現在の市域となった。秋田県内では秋田市・大仙市・湯沢市・横手市・雄勝郡羽後町と、また山形県の酒田市・飽海郡遊佐町・最上郡真室川町と接する。平成21年10月現在、人口85,898人、総面積は1,209.08㎢である。遺跡は由利本荘市の東部、旧東由利町管内にある。

遺跡のある地域は大きく見て出羽丘陵地東部にあたり、東側に中起伏山地が、西側に八塩山地が南北に連なり、両者の間には丘陵地と高瀬川低地などの河谷低地が分布する(第２図)。高瀬川低地を形成する石沢川(高瀬川)は蛇行しながら北流し、老方付近で強く屈曲して西に流路を変え、最終的に子吉川へ合流する。遺跡は石沢川左岸の河岸段丘上に立地し、標高は183～184ｍ、石沢川河床との比高は３～４ｍである。調査区は石沢川に向かって北西方向へ下る緩斜面地となっている。調査前の現況は水田・畑地および道路であった。

遺跡周辺に分布する表層地質は、石英安山岩質緑色凝灰岩を主体とする畑村層で構成されており、本層は硅化木を多く含んでいる。詳細は後述するが、遺跡内に多量の硅化木が持ち込まれている現象は、このような周辺の地質環境を反映している可能性が高い。



第１図　遺跡位置図



第２図　地形区分図

第２節　歴史的環境

智者鶴遺跡周辺では縄文時代から中世までの遺跡が確認されており、これらの大部分は石沢川流域の低地や丘陵地に立地している。遺跡の所在する黒渕地区には、狭隘な河谷低地でありながら多数の遺跡が確認されており、由利方面と雄勝方面を中継する重要な交通路として古くから利用されてきた。以下に発掘調査が実施された遺跡を中心として歴史的環境を概観する。なお、文中・挿図中・表中にある(43-1)などの表記は、『秋田県遺跡地図(由利地区版、湯沢・雄勝地区版)』に掲載された遺跡の地図番号と一致する(第３図、第１表)。図幅には主として石沢川中流域に分布する遺跡が含まれている。

図幅に含まれる縄文時代の遺跡は、前期から晩期にかけて計49遺跡が確認されており、これらのほとんどは石沢川両岸の河岸段丘もしくは沖積地上に立地し、山麓の緩斜面上に立地するものもわずかに認められる。

前期の遺跡としては笹山遺跡(43-7)・片符沢Ⅱ遺跡(43-9)・台山遺跡(43-16)がある。片符沢Ⅱ遺跡は八塩ダムから発する小川が石沢川に合流する手前の小規模な河岸段丘上に立地し、1979年に発掘調査が行われた。遺構は検出されなかったものの、前期を主体とする土器と石器が出土している。

中期の遺跡としては下松台遺跡(43-5)・野中遺跡(43-6)・向山遺跡(43-11)・台山遺跡・岩坂遺跡(43-21)・高薬師遺跡(43-23)・高橋山Ⅱ遺跡(67-78)がある。これらの遺跡について発掘調査は実施されていないが、八塩山東縁の水源地を供給源とする小川と石沢川が合流する河岸段丘上に立地する下松台遺跡では、農道工事の際に多量の土器が採取されており、中期初頭大木７a･b式を中心に円筒上層式に比定される土器も確認されている。高薬師遺跡は標高438.8mの高薬師山頂付近に立地していることから、通常の集落遺跡とは考えがたく、祭祀遺跡の可能性が指摘されている。

後期の遺跡としては今回調査した智者鶴遺跡(43-4)のほか、湯出野遺跡(43-①)・下松台遺跡・ボツメキ遺跡(43-3)・片符沢Ⅰ遺跡(43-8)・善徳遺跡(43-15)・橋脇遺跡(43-19)・宮ノ前Ⅰ遺跡(43-24)・三升刈遺跡(43-38)・ヨシヤチ遺跡(43-43)・長戸呂遺跡(67-70)があり、遺跡数は前・中期と比べて飛躍的に増加する。片符沢Ⅰ遺跡は石沢川左岸の低位段丘上に立地しており、1979年に発掘調査が実施された。土坑51基・土器埋設遺構１基が検出され、後期前・中葉の土器を主体に切目石錘などの石器や土偶などの土製品も出土している。土坑は円形もしくは楕円形を呈し、礫を多量に含むといった堆積状況や土製耳飾り・完形土器などの遺物出土状況から、その多くは土坑墓であると推測されている。ボツメキ遺跡は八塩山麓の傾斜変換点にあり、1975年に発掘調査が実施され、後期の土器および石器が少量出土した。なお、遺跡のすぐ近くには周辺地域で使用される上水道の供給源となるほど湧出量豊富な湧水点があり、これに関連する祭祀的な性格をもった遺跡である可能性も指摘されている。図幅には含まれていないが、船木地区にある男清水遺跡・女清水遺跡も、ボツメキ遺跡と同じく山麓の傾斜変換点にある湧水地点に隣接した遺跡で、狭い平坦面から土器・石器が採取されている。男清水遺跡の下方にある小田代遺跡では、耕地整理中に大形石棒が採取されている。

晩期の遺跡としては智者鶴遺跡のほか、湯出野遺跡・宮ノ前Ⅰ遺跡・三升刈遺跡・落合Ｂ遺跡(67-62)がある。湯出野遺跡は石沢川とその支流松沢川の合流点付近にあり、松沢川右岸の沖積地上に屈曲部に抱かれた形で立地している。1977年に圃場整備事業に伴い発掘調査が実施され、土坑墓103基・土器埋設遺構８基が検出され、多量の土器・石器が出土した。土坑墓は円形・小判形・隅丸長方形の平面形を呈し、ベンガラの散布が確認された例や、玉類・耳飾り・石鏃などの副葬品が出土した例も確認されている。８基検出された土器埋設遺構のうち５基の土器底部には小さな穿孔が認められ、乳幼児の棺と考えられている。遺物は遺跡中央部にある小規模な沢から多量に出土しており、土器は後期終末から晩期前葉が主体をなし、通常の剥片石器の他に土偶や岩偶、石棒や独鈷石なども数多く確認されている。遺跡はその重要性から土坑墓群が現地保存され、工事も遺物包含層に影響が出ない工法に切り替えられた。1978年に県史跡に指定されている。

弥生時代・古墳時代の遺跡は当地域で確認されていない。秋田県域の大部分について当て嵌まる現象と言えるが、山間部における当該期の遺跡確認例はわずかであり、平野部に生活拠点が移ったことを示すものと考えられる。

平安時代の遺跡としては、岩井堂遺跡(43-14)・宮ノ前Ⅰ遺跡がある。岩井堂遺跡は松沢川上流部の善徳地区にあり、杉苗の植林中に緩い斜面地から焼土と土師器の甑破片のみ出土している。土師器焼成窯の可能性も考えられるが、詳細は不明である。

中世の遺跡としては石沢川に沿う段丘上や丘陵地上に、水上館(43-10)・玉米館(43-13)・岩館Ⅰ遺跡(43-27)・根城館(43-34)・高館(43-36)・藁沢館(43-44)・薬師館(43-45)・杉沢館(67-69)・九十九沢館(67-81)・明神前館(67-101)・白鳥丹後十郎屋敷(67-103)などの館跡が確認されている。これらの館跡について発掘調査は実施されておらず、築城時期や構造などの諸様相は不明であるが、当地域は由利十二頭が列挙した由利地域と小野寺氏の領地下であった雄勝地域のちょうど境界部分に当たり、各勢力圏が拮抗する場であったと推測される。山間部ではあるが、多くの城館が構築される要素は十分であったと考えられる。

参考文献

秋田県農政部農地整備課『出羽丘陵開発実施計画地域　土地分類基本調査　浅舞』　1978(昭和53)年
秋田県農政部農地整備課『出羽丘陵開発実施計画地域　土地分類基本調査　矢島』　1982(昭和57)年
秋田県教育委員会『湯出野遺跡発掘調査概報』秋田県文化財調査報告書第53集　1978(昭和53)年
秋田県教育委員会『片符沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第72集　1980(昭和55)年
秋田県教育委員会『秋田県の中世城館』秋田県文化財調査報告書第86集　1981(昭和56)年
秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図(由利地区版)』　2001(平成13)年
秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図(湯沢・雄勝地区版)』　2005(平成17)年
秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第439集　2008(平成20)年
東由利町『東由利町史』　1988(平成元)年
東由利町教育委員会『ボツメキ遺跡緊急発掘調査報告書』　1977(昭和52)年

43-36
43-29
43-30
43-28
43-38
43-37
43-27
43-23
43-32
43-45
43-25
43-24
43-44
43-34
43-22
43-33
43-21
43-26
43-35
43-18
43-19
43-20
43-①
43-16
43-17
43-13
43-12
43-11
43-10
43-14
43-8
43-9
43-7
43-15
43-43
43-6
43-5
43-4
43-3
43-1
43-2
67-71
67-72
67-103
67-74
67-75
67-76
67-73
67-78
67-77
67-62
67-64
67-63
67-65
67-67
67-122
67-68
67-79
67-80
67-81
67-101
67-69
67-66
67-70
0
1/50,000
2km

第３図　周辺遺跡位置図

第１表　周辺遺跡一覧

地図番号	遺跡名	所在地	種別	遺構・遺物
（旧東由利町管内）				
43-①	湯出野	由利本荘市東由利老方字湯出野	遺物包含地	土坑・土器埋設遺構、縄文土器(後期・晩期)・石鏃・石錐・石匙・石槍・磨製石斧・打製石斧・凹石・異形石器・石棒・独鈷石・石冠・岩偶・土偶
43-1	周治谷地Ⅰ	由利本荘市東由利黒渕字周治谷地	遺物包含地	
43-2	周治谷地Ⅱ	由利本荘市東由利黒渕字周治谷地	遺物包含地	
43-3	ボツメキ	由利本荘市東由利黒渕字ボツメキ	遺物包含地	フラスコ状ピット、縄文土器(後期)
43-4	智者鶴	由利本荘市東由利黒渕字境田	遺物包含地	縄文土器片(晩期)・石鏃・石器片など
43-5	下松台	由利本荘市東由利黒渕字下松台	遺物包含地	縄文土器片(中期・後期)
43-6	野中	由利本荘市東由利黒渕字石田	遺物包含地	縄文土器片(中期)
43-7	笹山	由利本荘市東由利田代字笹山	遺物包含地	縄文土器片(前期)・石器片
43-8	片符沢Ⅰ	由利本荘市東由利田代字石高	遺物包含地	土坑墓・埋甕、縄文土器片(後期)・土偶・石鏃・石錐・石匙・石錘・石棒・石刀・石器片など
43-9	片符沢Ⅱ	由利本荘市東由利田代字片符沢	遺物包含地	縄文土器片(前期)・石鏃・石匙・石篦・石斧など
43-10	水上館	由利本荘市東由利館合字館ノ沢	館跡	空堀
43-11	向山	由利本荘市東由利館合字向田	遺物包含地	縄文土器片(中期)
43-12	五海保	由利本荘市東由利館合字片越	遺物包含地	
43-13	玉米館	由利本荘市東由利館合字館野	館跡	
43-14	岩井堂	由利本荘市東由利館合字岩井戸山	遺物包含地	土師器(甑)焼成窯、土師器(甑)
43-15	善徳	由利本荘市東由利館合字善徳	遺物包含地	縄文土器片(後期)
43-16	台山	由利本荘市東由利老方字台山	墳墓 遺物包含地	縄文土器片・石斧・石鏃・石匙など・土師器片・須恵器片
43-17	横山	由利本荘市東由利館合字横山	遺物包含地	石器片
43-18	養田館	由利本荘市東由利老方字養田館	館跡	空堀
43-19	橋脇	由利本荘市東由利老方字橋脇	遺物包含地	縄文土器片(後期)
43-20	鳥井坂	由利本荘市東由利老方字鳥井坂	遺物包含地	石器片
43-21	岩坂	由利本荘市東由利老方字西ノ浜	遺物包含地	縄文土器片(中期)・石器片
43-22	西ノ浜台地	由利本荘市東由利老方字西ノ浜	遺物包含地	石器片
43-23	高薬師	由利本荘市東由利老方字高薬師	遺物包含地	縄文土器片(中期)・石器片
43-24	宮ノ前Ⅰ	由利本荘市東由利法内字宮ノ前	遺物包含地	縄文土器片(後期・晩期)・石棒・石器片
43-25	宮ノ前Ⅱ	由利本荘市東由利法内字宮ノ前	遺物包含地	石器片
43-26	田子ノ沢	由利本荘市東由利蔵字田子ノ沢	遺物包含地	石器片
43-27	岩館Ⅰ	由利本荘市東由利蔵字岩館	館跡	土塁・水濠跡、縄文土器片・石器片
43-28	岩館Ⅱ	由利本荘市東由利蔵字岩館	遺物包含地	石器片
43-29	野田	由利本荘市東由利法内字野田	遺物包含地	石器片
43-30	十二ヶ台	由利本荘市東由利法内字十二ヶ台	遺物包含地	石器片
43-31	針ヶ台	由利本荘市東由利法内字上苗代沢	遺物包含地	石器片
43-32	坊主ヶ沢	由利本荘市東由利蔵字坊主ヶ沢	遺物包含地	石器片
43-33	根城	由利本荘市東由利蔵字根城	遺物包含地	石器片
43-34	根城館	由利本荘市東由利蔵字館の内	館跡	空堀・腰郭
43-35	幅野	由利本荘市東由利宿字幅野	遺物包含地	石器片
43-36	高館	由利本荘市東由利宿字高館	館跡	空堀
43-37	上ノ台	由利本荘市東由利宿字上ノ台	遺物包含地	石鏃
43-38	三升刈	由利本荘市東由利宿字ザラメキ	遺物包含地	縄文土器片(後期・晩期)・石器・女陰形石製品
43-43	ヨシヤチ	由利本荘市東由利田代字ヨシヤチ	遺物包含地	縄文土器片(後期)
43-44	藁沢館	由利本荘市東由利蔵字田子ノ沢	館跡	
43-45	薬師館	由利本荘市東由利蔵字新田	館跡	
（羽後町管内）				
67-62	落合Ｂ	雄勝郡羽後町軽井沢字七十刈沢	遺物包含地	縄文土器片(晩期)・石器・土偶
67-63	落合Ａ	雄勝郡羽後町軽井沢字七十刈沢	遺物包含地	縄文土器片・石器
67-64	釜石田	雄勝郡羽後町軽井沢字釜石田	遺物包含地	石器
67-65	岩瀬	雄勝郡羽後町軽井沢字釜石田山	遺物包含地	縄文土器片・石器
67-66	軽井沢山開拓	雄勝郡羽後町軽井沢字戸呂淵	遺物包含地	縄文土器片・石斧
67-67	向岩瀬	雄勝郡羽後町軽井沢字根小屋沢山	遺物包含地	縄文土器片・弥生土器片・石器
67-68	竜神淵	雄勝郡羽後町軽井沢字中杉沢山	遺物包含地	縄文土器片
67-69	杉沢館	雄勝郡羽後町軽井沢字下杉沢山	館跡	郭・空堀・竪堀・土塁
67-70	長戸呂	雄勝郡羽後町軽井沢字長戸呂	遺物包含地	配石遺構、縄文土器片(後期)・石皿・石斧・石棒・石冠・石錘・土師器片・須恵器片
67-71	判官沢山	雄勝郡羽後町上到米字判官沢山	遺物包含地	縄文土器片・石斧
67-72	唐松山	雄勝郡羽後町上到米字中古米沢山	遺物包含地	縄文土器片
67-73	源内沢	雄勝郡羽後町上到米字源内沢	遺物包含地	縄文土器片・石器
67-74	唐松山Ⅰ	雄勝郡羽後町上到米字唐松山	遺物包含地	縄文土器片
67-75	唐松山Ⅱ	雄勝郡羽後町上到米字唐松山	遺物包含地	縄文土器片
67-76	稲荷山	雄勝郡羽後町上到米字稲荷山	遺物包含地	縄文土器片
67-77	高橋	雄勝郡羽後町上到米字高橋	遺物包含地	縄文土器片
67-78	高橋山Ⅱ	雄勝郡羽後町上到米字高橋山	遺物包含地	縄文土器片(中期)、焼土遺構・土坑・溝跡
67-79	田麦山	雄勝郡羽後町上到米字田麦沢山	遺物包含地	縄文土器片・石篦
67-80	田麦沢	雄勝郡羽後町上到米字田麦沢	遺物包含地	縄文土器片・石篦
67-81	九十九沢館	雄勝郡羽後町上到米字九十九沢山	館跡	郭・空堀・土塁
67-101	明神前館	雄勝郡羽後町軽井沢字明神前	館跡	郭・堀切
67-103	白鳥丹後十郎屋敷	雄勝郡羽後町上到米字上野	館跡	
67-122	戸呂淵	雄勝郡羽後町軽井沢字戸呂淵	遺物包含地	縄文土器片

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

智者鶴遺跡は、由利本荘市東由利黒渕に所在し、子吉川水系石沢川の左岸段丘上に立地する。石沢川とは調査区北端から約20ｍと非常に近い位置関係にあり、調査区の標高は183～184ｍ、石沢川河床との比高は３～４ｍである。遺跡の現況は水田・畑地とこれらに挟まれた道路となっており、近年の造成によって一見平坦に見えるが、本来の地形は石沢川に向かって南から北へ下る緩斜面地であり、さらに南西側に小さな沢が複数入り込んだ複雑な地形面を形成していたと考えられる。

調査対象区域は県道羽後向田館合線に沿う幅約６ｍ、長さ約60ｍの道路拡幅部分で、調査区の形状は道路に沿ってカーブを描いている。発掘調査は２か年にわたり、平成20年には市道石高線を挟んだ水田と畑地を対象に、平成21年には市道直下の部分を対象に行った。なお調査の便宜上、平成20年度調査区の北側をＡ区、南側は段差部分を境に北西側をＢ区、南東側をＣ区、平成21年度調査区についてはＤ区と呼称することにした（第４図）。

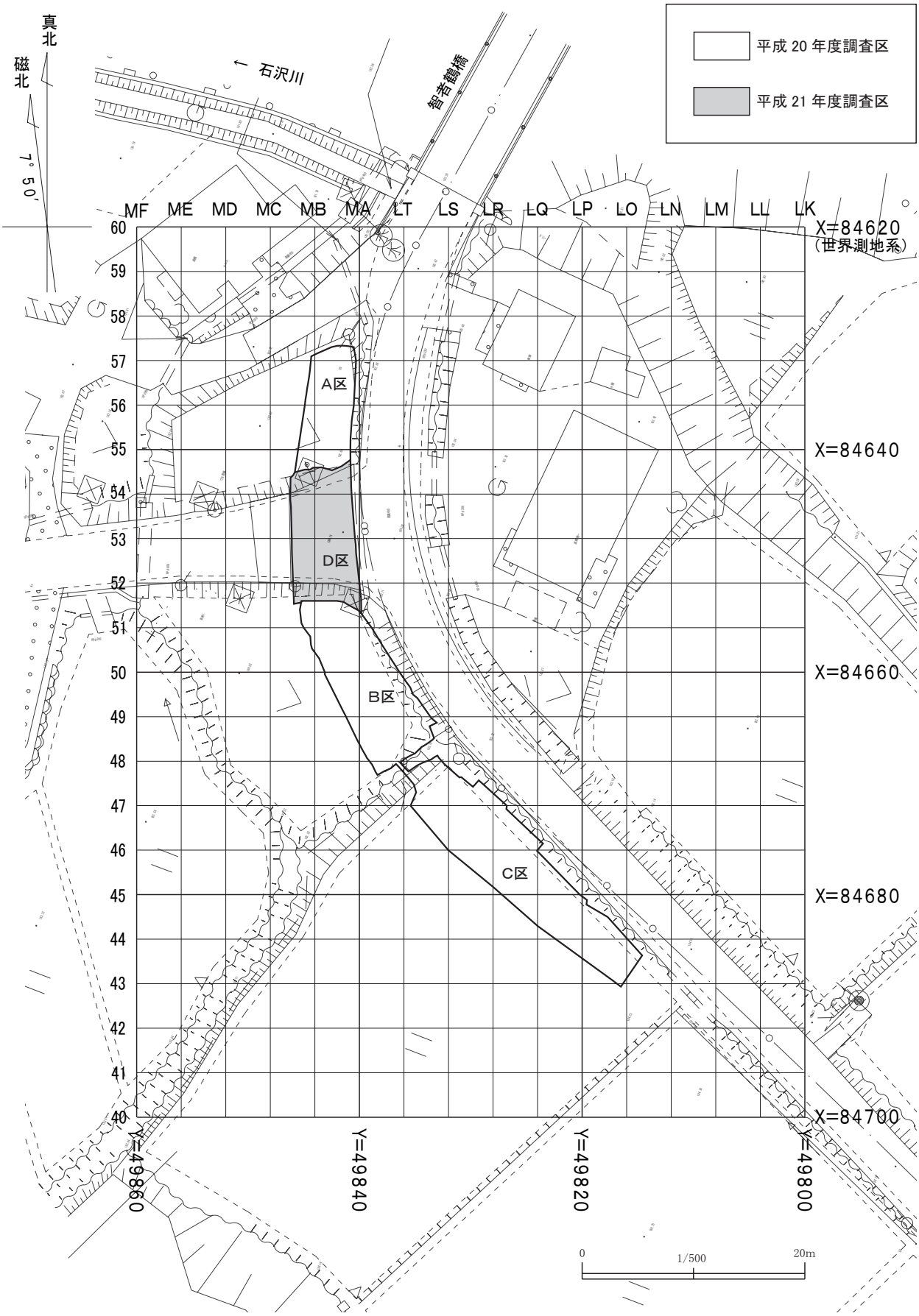
今回の調査では、縄文時代後・晩期の集落跡と墓地を検出した。遺構は掘立柱建物跡・土坑・配石遺構・柱穴様ピットで構成され、削平の著しい南東端を除き、ほぼ全域に分布している。各種遺構について正確な帰属時期を捉えることは困難であるが、傾向として掘立柱建物跡は晩期に、土坑は後期前・中葉を中心に一部後期後葉から晩期に、配石遺構は後期中葉に属するものと考えられる。遺物包含層中には後期前葉から晩期中葉までの遺物が多量に出土しており、その主体となるのは後期前・中葉で、後期後葉・晩期の遺物は少ない。遺物はわずかに窪む沢状地形の中から特に多く出土しており、このような窪んだ箇所に遺物を廃棄することによって、徐々に厚い包含層が形成されたものと推測される。なお遺物包含層は調査区中央部において良好に遺存していたが、調査区南東側半分（Ｃ区）および北端部では耕地の造成により地山まで削平され、残っていなかった。

遺跡の正確な範囲は不明であるが、尾根状に高くなっている現県道の直下には遺構がまだ残っている可能性が高く、南西側では、現在水路として使用されている調査区と平行した小さな沢に至るまで、水田や畑地の下に遺物包含層が確実に遺存している。

第２節　調査の方法

１　グリッドの設定方法

調査区には、世界測地系国家座標第Ｘ系に整合する任意の点（Ｘ＝－84660.000　Ｙ＝－49840.000）を原点として、Ｘ軸・Ｙ軸の方向に４ｍ間隔の方眼を設定した（第４図）。原点を通る南北Ｘ軸方向の線をMA、同じく東西Ｙ軸方向の線を50とし、Ｘ軸方向の線には西に向かって昇順する２文字のアルファベットを、Ｙ軸方向の線には北に向かって昇順する２桁の数字をそれぞれ付した。Ｘ軸方向に付したアルファベットは、繰り返しとなるＡ～Ｔまでの20文字を組み合わせて用いた。方眼による４ｍ四方の区画は、南東隅を通過する線の記号を組み合わせ、例えばMA50と呼ぶことにした。


平成 20 年度調査区
平成 21 年度調査区
真北
磁北
7°50′
← 石沢川
智者鶴橋
MF ME MD MC MB MA LT LS LR LQ LP LO LN LM LL LK
60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40
X=84620
（世界測地系）
X=84640
X=84660
X=84680
X=84700
A区
B区
C区
D区
Y=49860
Y=49840
Y=49820
Y=49800
0
1/500
20m

第４図　グリッド配置図

２　遺構の検出と精査

調査区Ａ区北端およびＣ区全体は耕地造成による削平を受けており、当時の遺構構築面は遺存していなかったが、その他の区域では良好に遺物包含層と遺構構築面が遺存していた。そこでＣ区では、表土（Ⅰ層）を除去して現れた地山（Ⅳ層）で遺構の検出を行った。その他の区域ではⅠ層を除去した段階での遺構検出を試みたが、遺構内堆積土と遺物包含層の土質が近似しており、その識別が困難であったため、地山面（Ⅲ層上面）まで掘り下げた段階で遺構の検出を行った。また、遺物包含層の掘り下げ中に検出した礫については、基本的にはその場に残し、土坑の上部に置かれたものか否かを確認するように努めた。

調査区内には、東西方向に土層観察用のトレンチを設定し、層序を確認しながら掘り下げを行った。また調査区南西側の壁面については、基本土層の記録として図面作成ならびに写真撮影を行った。

遺構名称については、その種別を示す略記号と01からの番号を付し、例えばＳＫ01のように呼称することとした。番号は遺構の種別にかかわらず確認した順に連番で付した。なお確認時に１基の遺構としたが、精査を進める段階で複数遺構の切り合いであることが判明した場合、たとえばＳＫ01a・ＳＫＰ01bのようにアルファベット小文字を付して別遺構として取り扱うことにした。精査の結果、遺構と判断されなかった場合は欠番とした。

遺構の精査は、半截もしくは十字に土層観察ベルトを残して掘り下げ、堆積土を観察し、土層断面の写真撮影と実測を行った。土層は土色・土性・粘性・締まり・混入物の相違などによって分層し、各層の注記を行った。

３　遺物の取り上げ方法

調査では、特に遺物包含層（Ⅱ層）を中心として多量の遺物が出土した。しかし、調査期間が限られていたことから、これらは基本的にはグリッド毎に層位別で取り上げた。なお、遺物包含層が残存している範囲についてはグリッドをさらに２ｍ四方で４分割し、北西にa、北東にb、南西にc、南東にdのアルファベット小文字を付して取り上げた。遺物包含層の掘り下げは厚さ約５㎝ずつ段階的に進め、土器の完形個体や土製品・石製品・大形礫などを確認した場合は可能な限り出土状況の記録（平面図作成およびレベルの計測）を行った。位置を記録した遺物については、土器にＲＰ、石器にＲＱの略記号と通し番号を付して取り上げた。

４　記録

遺構の平・断面図は基本的に１/20で作成した。遺物の出土状況についても１/20で平面図を作成し、レベルを用いて標高を記録した。図面の記録にはＡ２判のマイラーベースを使用した。

写真撮影は35㎜判フィルムカメラを使用し、モノクロフィルムとカラーリバーサルフィルムで撮影した。また、デジタルカメラによる調査状況の記録なども実施した。平成20年度にはバルーンによる空中写真撮影を業務委託し、遺跡全景などをデジタルカメラおよびブロニー版フィルムカメラで撮影した。

第３節　調査の経過

平成20年度の発掘調査経過

発掘調査は、８月21・27日に重機による表土除去、８月28～30日に方眼杭打設などの諸準備を経て、９月１日より開始した。

９月１日(月)　調査を開始。機材搬入・調査区とコンテナハウスヤードの環境整備の後、調査区南側(Ｃ区)よりわずかに残存したⅠ層の除去と遺構の検出を開始した。

９月３日(水)　調査区南部(Ｃ区)のⅠ層除去が終了した。この日よりＢ区の調査にも着手。調査区西側壁際にトレンチを入れた。

９月４日(木)　Ｃ区全体を清掃し、遺構検出を進めた。この時点で土坑と柱穴様ピットを40基あまり確認した。

９月５日(金)　Ｃ区の遺構精査に着手。土坑を中心として半截作業を進めた。Ｂ区ではⅠ層と試掘坑の埋土を掘り上げ、遺物包含層(Ⅱ層)の掘り下げを開始した。試掘坑の壁にて、土坑や柱穴様ピットを確認。これらの遺構が包含層中より構築されている状況が確認された。

９月11日(木)　この日までにＢ区の遺物包含層を５㎝ほど掘り下げ、複数の配石遺構の存在が明らかとなった。大型の礫が存在する部位を中心に遺構名称を与えた。

９月12日(金)　Ｂ区の地形が東から西に向かって、さらには中央より北側に向かって傾斜している状況が明らかとなった。東側では既に遺構検出面に到達しているため、遺構確認作業を開始した。

９月19日(金)　遺物包含層をさらに掘り下げた。これによりＳＱ52を構成する礫と、この配石に囲まれた単孔土器が出土。配石が後期中葉のものであるとの見通しがたった。また、当初は調査対象外としていた用排水路部分に配石や土坑の一部が展開していることが判明したため、調査範囲を拡張する必要性が出てきた。Ｃ区では土坑の半截が終了したため、柱穴様ピットの精査に着手した。

９月26日(金)　Ａ区の調査に着手。Ⅰ層の除去を進めた。

９月29日(月)　Ｃ区の用排水路部分の調査に着手。

10月１日(水)　文化財保護室の五十嵐学芸主事、由利地域振興局建設部の山田氏が来跡。調査状況の確認と、市道石高線下部の遺跡の遺存状態を探る方法について検討を行った。

10月２日(木)　Ａ区ではⅠ層の除去が完了した。遺物包含層の厚さを確認するため、調査区西壁際にトレンチを設定し、掘削を進めた。Ｂ区では包含層をさらに掘り下げ、配石遺構の全体像や下部土坑のプラン確認を進めた。いずれの配石も同一の生活面に構築されたものであることが明らかとなってきた。

10月３日(金)　Ｃ区からＢ区にかけて南北にトレンチを掘削し、地形の確認をした。

10月８日(水)　バルーンを使用した空中写真撮影を実施した。Ｂ区では配石遺構の半截作業に着手。

10月９日(木)　Ａ区の遺物包含層の掘り下げが進み、深鉢３個体が正立している状況が確認された。

10月10日(金)　Ｂ区とＣ区の間に存在した用排水路の一部を掘削し、ＳＱ52の全体を検出した。

10月14日(火)　ＳＱ52のエレベーション図を作成し、礫の取り外しを開始した。

10月16日(木)　八塩小学校５・６年生(33名)、高瀬小学校５・６年生(37名)が発掘調査の見学に訪れる。

10月17日（金）　Ｂ区北端部より南北方向にトレンチを入れ、市道石高線下の状況を確認したところ、市道の下部にも遺物包含層および遺構面が良好に保存されていることが明らかとなった。また、調査区全域で遺物包含層の掘り下げを完了し、遺構検出と精査に全作業が移行した。

10月18日（土）　遺跡見学会を実施。地域の方々を中心に74名の参加があった。

10月20日（月）　Ｃ区の調査が終了した。

10月21日（火）　Ｂ区西壁にて基本土層図を作成した。

10月22日（水）　今年度調査区内の全ての遺構の精査を終了。グリッド杭の撤去を行い、調査を終了した。

平成21年度の発掘調査経過

平成21年度の発掘調査は、５月26日に表土除去、５月27～28日に方眼杭打設などの諸準備を経て、６月１日から開始した。

６月１日（月）　調査用資材の搬入と周辺の環境整備を行った後、土層確認のために調査区西壁沿いにトレンチを設定し、掘削を開始した。

６月４日（火）　トレンチの掘削をほぼ終了する。表土下の遺物包含層（Ⅱ層）については、前年度の調査成果と調和的に３層に細分できる見通しを得た。ただし包含層の厚さは一様ではなく、南側の方が深く、北に向かって浅くなっており、遺物出土量も比例している。

６月５日（金）　全面的に表土除去を開始する。調査区中央東端部において、現代の大きな撹乱が認められた。

６月８日（月）　表土除去終了。トレンチ内の包含層から出土した遺物の実測を開始する。

６月10日（水）　遺物包含層の掘削に着手する。引き続き包含層から出土した遺物の実測を進める。

６月16日（火）　調査区北端については包含層下部まで掘削と遺物検出を終了した。

６月18日（木）　ＭＢ53区にて、包含層上で構築された遺構を確認（ＳＫ243・244・245・248、ＳＱ246・247）。精査に取りかかる。

６月23日（火）　包含層上で確認した遺構の精査を完了し、包含層上部から出土した遺物の取り上げもほぼ終了した。調査区全体について、包含層下部の掘り下げを進める。

６月25日（木）　包含層の掘削ならびに遺物取り上げを終了し、地山面（Ⅲ層上面）で確認された遺構の精査、記録作成を行う。

６月26日（金）　検出遺構全てについて、精査と記録を終了。調査区西壁の写真撮影と断面図作成を行い、調査を終了した。

第４節　整理作業の方法と経過

１　室内整理の経過

智者鶴遺跡の出土遺物は、未洗浄の状態で容量18ℓのコンテナに換算し、土器類約125箱(20年度75箱・21年度50箱)、石器類約152箱(20年度77箱・21年度75箱)に及んだ。

平成20年度の整理は調査終了後の11月から、埋蔵文化財センター調査班において開始した。調査記録のうち、配石遺構・土坑・遺物出土状況については加藤朋夏が、柱穴様ピット・掘立柱建物跡・その他については佐々木が第２原図を作成した。出土遺物については洗浄・注記・土器の接合・復元を行い、石器の大まかな分類作業と剥片石器76点の実測委託を実施した。また当年度には遺構堆積土と包含層堆積土を対象として、花粉分析、植物珪酸体分析、リン・カルシウム分析委託も行った。

平成21年度調査分の整理は、調査終了後の７月から開始した。調査記録のうち検出遺構については加藤竜が、遺物出土状況図については草薙が第２原図の作成に当たり、前年度検出分と合わせて草薙がIllustratorを使用してトレースした。出土遺物に対しては前年度と同様の作業を行い、分類・計量作業を経た後、実測・拓本・トレース・写真撮影を行い、報告書の版下を作成した。また当年度には黒曜石の産地推定分析、動物遺体の同定分析、土器20点の実測・トレースを委託により実施した。

２　遺物の注記

遺物の注記は遺跡名(６ＴＳＤ)・出土位置(グリッド名もしくは遺構名)・遺物番号・出土層位・出土年月日(081021のような６桁の数字)を記入した。基本的には機械を用いて注記したが、土製品・石製品を中心とした一部の資料にはポスターカラーを使用して注記を行った。注記の際、遺構外出土の資料には白色、遺構内出土資料については黄色のポスターカラーを使用した。なお、機械で注記した資料にも、遺構内出土資料には文字の下に黄色のポスターカラーでマークし、遺構内出土の資料を容易に識別できるようにした。

３　遺物の分類と掲載遺物の選定

基本的には種別毎に形態などにより分類を行った後、掲載資料を選定した。遺構内遺物については時期推定の可能な土器や石器製品を最小限選択した。遺構外出土遺物については、なるべく遺跡全体の様相を反映出来るように、同一分類項目の資料が重複しないように選定した。

４　調査記録の整理と保存

発掘調査時に現地でマイラーベースに記録した遺構平・断面などの第１原図、および報告書掲載用に原図を基として調整した第２原図類は、Ａ２判二つ折り図面ケースに収納した。写真類は概ね撮影順にアルバム類に整理した。35㎜モノクロフィルムは４冊のネガアルバムに、35㎜リバーサルフィルムはスライドアルバム４冊に収納した。現場で補助的に撮影したデジタルカメラによる写真記録、遺跡の空中写真撮影(デジタル撮影)の成果品、室内で撮影した遺物写真については、CD−R・DVD−Rなどに保存した。その他、調査に関する記録(野帳・遺構調査カードなど)は全て、秋田県埋蔵文化財センターで保管する。

第４章　調査の記録

第１節　基本層序

本調査では試掘調査結果を基として重機により表土層を除去した後、遺物包含層が遺存していないＣ区を除き、グリッドに沿って東西方向の土層観察用ベルトを残し、部分的に調査区南西・西側壁面に沿ってトレンチを設定して、土層を観察しながら層序の把握に努めた。最終的な遺構確認面まで掘り下げた結果、調査区の層厚は全体的に北東側県道寄りの方が浅く、南西側に向かって深く落ち込んでいた。そのため、主として調査区南西・西側壁面の土層を重点的に観察・記録し、遺跡全体の層序について相互に比較しながら検討を行った。

観察地点により若干土質に差があるものの、遺跡の層序は以下の様に捉えることができた。記録した土層断面のうち、５か所の断面図（Ａ～Ｅ）を第５図に、断面図作成位置を第６図に示した。

Ⅰ層

近現代の表土である。本層からは縄文時代の遺物と近現代の遺物が混在して出土した。表土は畑耕作土・水田耕作土・道路造成に関わる盛土など、その形成要因は地点によって異なっている。これらの序列については特に調査成果に影響を及ぼさないため、断面図中では観察地点毎に上から順にアルファベットの小文字を付し、その内容を（　）内に示した。

Ⅱ層

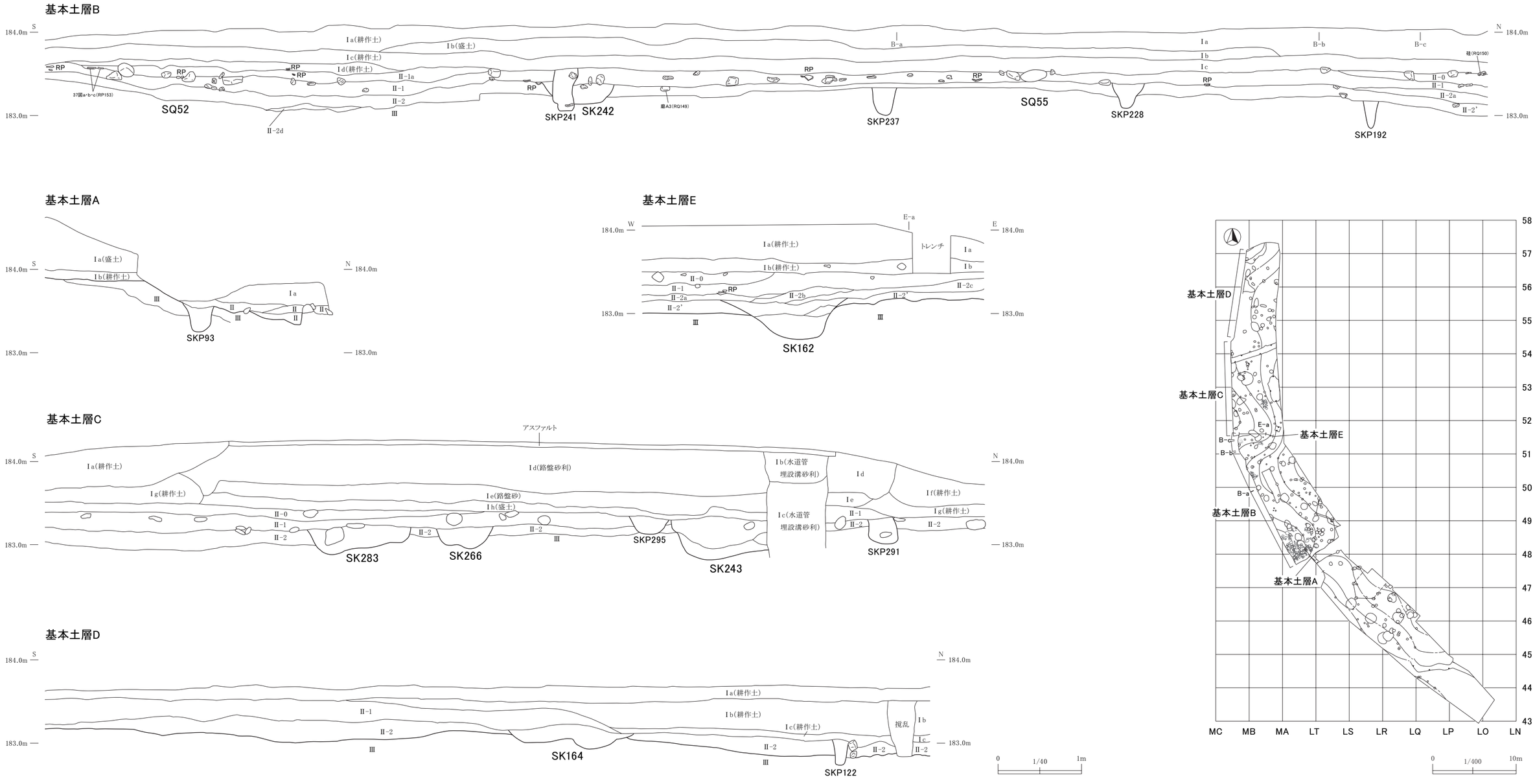
黒～黒褐色を呈する遺物包含層である。削平を受けているＣ区およびＡ区の一部を除き、調査区全体でその堆積が確認された。本層からは縄文時代後期前葉～晩期中葉に属する遺物が多量に出土しており、一部の土坑・配石遺構・柱穴様ピットは本層上面・中位で確認することができた。上部が削平を受けているため本来の層厚は不明であるが、浅いところで30㎝程度、深いところで60㎝を測る。本層は土質から以下に細分が可能であった。

Ⅱ－０層

ＭＢ51・52区付近の落ち込み上部で確認した。層厚は10～15㎝と薄いが、特に黒味が強く、下位のⅡ－１層と明確に区別することができた。本層からは縄文時代後期前・中葉のほか、後期後葉・晩期の遺物も出土している。

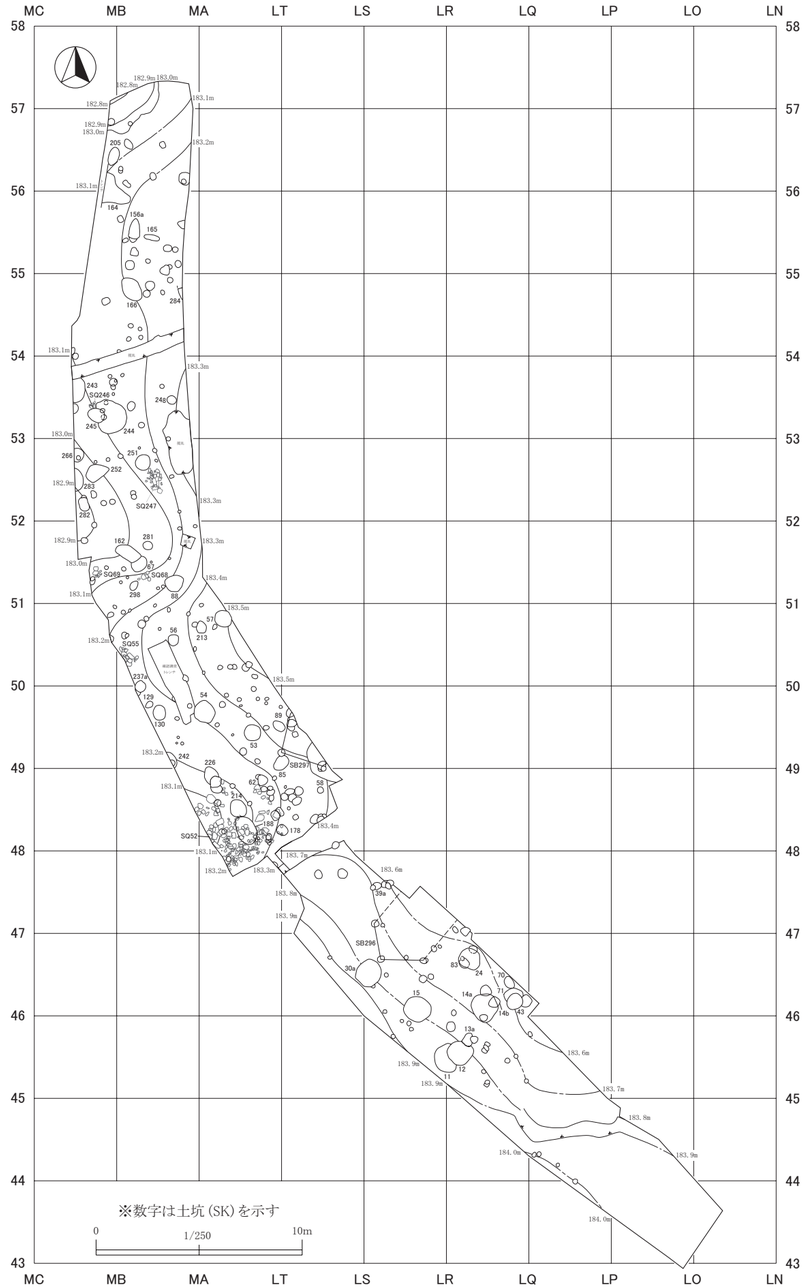
Ⅱ－１層

調査区全域にわたって確認した。炭化物を多く含み、粘性は弱く、層厚は15～30㎝とⅡ層の中では比較的分厚い。本層中からは縄文時代後期前・中葉の遺物が多量に出土している。なお、ＳＱ52配石遺構を確認したＬＴ・ＭＡ48区においては、配石上部の堆積土を当初Ⅱ－１層と判断して遺物の取り上げを行っていたが、後にこの層がⅡ－１層と分離できるより新しい層（Ⅱ－１ａ層）であることが判明したため、この地区についてのみ、配石下部に堆積するⅡ－１層に対応した層をⅡ－１・２配石下層と注記して遺物の取り上げを行った。



第５図　基本土層図

第６図　基本土層図作成地点



第７図　遺構配置図

第２表　検出遺構一覧

土坑：50基

略号	No.	グリッド	確認面	重複関係(新＞旧)	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	時期	挿図番号	出土遺物掲載位置	図版番号
SK	11	LQ・LR45	Ⅳ	SK12＞SK11	1.39	1.05	0.18	後期中葉以降	8図	16図1、20図18	2
SK	12	LQ45	Ⅳ	SK13ａ＞SK12＞SK11	1.27	1.17	0.37	後期中葉以降	8図	16図2・3、20図19・20	2
SK	13a	LQ45	Ⅳ	SKP13b＞SK13a＞SK12	0.64	0.51	0.39	後期中葉以降	8図	16図4	2
SK	14a	LQ45・46	Ⅳ	SK14a＞SK14b、SKP14c・42	1.38	1.25	0.47	晩期前葉以降	8図	16図5、20図21～23	2
SK	14b	LQ46	Ⅳ	SK14a＞SK14b	0.56	0.51	0.26	晩期前葉以降	8図	16図6	2
SK	15	LR45・46	Ⅳ	－	1.35	1.23	0.32	晩期初頭以降	8図	16図7・8、21図1	2
SK	24	LQ46	Ⅳ	SK24＞SK83、SKP73か	1.09	1.00	0.24	晩期以降	8図	20図16	2
SK	30a	LR・LS46	Ⅳ	SK30ａ＞SKP30ｂ	1.25	1.18	0.21	晩期前葉以降	8図	16図9、21図2・3、22図3	2
SK	39a	LR47	Ⅳ	SKP39b＞SK39a	0.42	0.35	0.20	後期前葉	8図	16図10・11	2
SK	43	LQ46	Ⅳ	SK43＞SKP82＞SK71	0.81	0.72	0.38	晩期中葉以降	8図	16図12・13、17図6、21図4	2
SK	53	LT49	Ⅱ－１下位	－	0.80	0.78	0.28	後期中葉	9図	16図14・15、22図4～7	3
SK	54	MA49・LT49	Ⅱ－１下位	－	1.03	0.98	0.46	後期前葉	9図	16図16～18、21図5・6、22図9・11	3
SK	56	MA50	Ⅱ－１下位	－	0.54	0.50	0.18	後期中葉以降	9図	17図1～3	3
SK	57	LT50	Ⅲ	－	0.88	0.79	0.15	後期中葉以降	9図	17図4	3
SK	58	LS48・49	Ⅲ	SKP195＞SK58＞SKP59・194	(2.24)	－	0.25	後期中葉以降	9図		4
SK	62	LT48	Ⅲ	SK62＞SKP299	0.51	0.48	0.21	不明	9図		
SK	67	MA51	Ⅱ－１	SK162＞SK67	0.83	0.71	0.34	後期中葉以降	9図	17図5	4
SK	70	LQ46	Ⅳ	－	0.64	0.42	0.23	不明	9図		2
SK	71	LQ46	Ⅳ	SK43＞SKP82＞SK71	0.93	0.68	0.30	晩期以降	8図	17図6	2
SK	83	LQ46	SK24底面	SK24＞SK83か	0.50	0.44	0.31	晩期以降	8図	17図7	2
SK	85	LS48・49、LT48・49	Ⅲ	SKP84＞SK85	0.83	0.60	0.37	不明	10図		
SK	88	MA51	Ⅱ－１下位	－	0.90	0.80	0.50	後期中葉以降	10図	17図8、21図7	4
SK	89	LS・LT49	Ⅱ	－	0.65	0.44	0.18	不明	10図		
SK	129	MA49	Ⅲ	－	0.40	0.30	0.12	不明	10図		4
SK	130	MA49	Ⅲ	－	0.72	0.61	0.14	後期中葉以降	10図	17図9	4
SK	156a	MA55	Ⅲ	SK156a＞SKP156b	0.98	0.54	0.18	後期中葉以降	10図	17図10・11	5
SK	162	MA51・MB51	Ⅲ	SK162＞SK67	1.20	0.65	0.47	後期中葉以降	10図		4
SK	164	MA55・56、MB55・56	Ⅲ	－	1.66	1.46	0.15	後期中葉以降	10図	17図12・13	5
SK	165	MA55	Ⅲ	－	0.76	0.27	0.20	不明	10図		5
SK	166	MA54	Ⅲ	－	1.29	0.86	0.45	不明	10図		5
SK	178	LS・LT48	Ⅲ	－	0.54	0.50	0.13	不明	10図		
SK	188	LT48	Ⅲ	SQ52＞SK188	1.42	0.91	0.45	後期中葉以前	11図		5
SK	205	MA・MB56	Ⅲ	－	0.90	0.49	0.15	不明	11図		5
SK	213	LT・MA50	Ⅲ	－	0.58	0.49	0.18	不明	11図		5
SK	214	LT48	Ⅲ	－	0.93	0.78	0.34	後期前葉	11図	17図14～16	5
SK	226	LT48・49	Ⅲ	SKP231＞SK226	0.88	0.67	0.25	不明	11図		
SK	237a	MA49・50	Ⅲ	SK237a＞SKP237b	0.58	0.52	0.28	不明	11図		6
SK	242	MA49	Ⅱ－２	SKP241＞SK242	(0.85)	－	0.24	不明	11図		
SK	243	MB53	Ⅱ－１	－	(1.24)	－	0.52	後期中葉	11図	17図17～22	6
SK	244	MA・MB53	Ⅱ－１	SK245＞SKP249＞SK244＞SKP270・274	1.75	1.54	0.12	後期中葉	11図	17図23～28	6
SK	245	MB53	Ⅱ－１	SK245＞SKP249＞SK244、SKP270	0.83	0.65	0.12	後期中葉	11図	18図1・2	6
SK	248	MA53	Ⅲ	－	0.46	0.41	0.06	不明	11図		6
SK	251	MA52	Ⅲ	－	0.78	0.72	0.14	後期中葉以降	11図	18図3～5	6
SK	252	MB52	Ⅲ	－	1.17	0.78	0.13	後期中葉	12図	18図6～8	6
SK	266	MB52	Ⅲ	SK266＞SKP267	0.67	0.61	0.15	後期中葉以降	12図		6
SK	281	MA51	Ⅲ	－	0.47	0.41	0.14	不明	12図		6
SK	282	MB52	Ⅲ	SK282＞SKP294	0.67	0.44	0.19	後期前葉以降	12図		7
SK	283	MB52	Ⅱ－２	－	(1.14)	－	0.37	不明	12図		7
SK	284	MA54	Ⅲ	－	(0.58)	－	0.12	後期中葉以降	12図	18図9・10	7
SK	298	MA51	Ⅲ	－	0.51	0.34	0.11	不明	12図		7

配石遺構：６基

略号	No.	グリッド	確認面	重複関係(新＞旧)	時期	挿図番号	出土遺物掲載位置	図版番号
SQ	52	LT47・48・MA48	Ⅱ－１	SQ52＞SK188,SKP174・175・184・185・186・187・222・223・233・238	後期中葉	13図	22図8	7・8
SQ	55	MA50	Ⅱ－１	－	後期中葉以降	12図		8
SQ	68	MA51	Ⅱ－１	－	不明	12図		4
SQ	69	MB51	Ⅱ－１	－	不明	12図		
SQ	246	MB53	Ⅱ－１	－	不明	12図		8
SQ	247	MA52	Ⅱ－１	－	後期前葉	12図		8

掘立柱建物跡：２棟

略号	No.	グリッド	確認面	重複関係(新＞旧)	時期	挿図番号	出土遺物掲載位置	図版番号
SB	296	LR46・47	Ⅳ	SB296＞SKP27b	晩期以降	14図		7・8
SB	297	LS48・49、LT49	Ⅲ	SKP195＞SK58＞SB297＞SK85、SKP87・194	後期中葉以降	14図		8

Ⅱ－２層

Ⅱ－１層の下位にあり、調査区全域にわたって確認した。上位Ⅱ－１層との境界は不明瞭であるが、本層の方が比較的粘性が強く、炭化物や遺物の混入量が少ない。本層もⅡ－１層と同様、地点によりさらに細分が可能で、堆積環境が一様ではないことを示している。例えば基本土層断面ＢのⅡ－２d層としたものは最下部の無遺物層で、遺物包含層形成以前の旧表土と考えられる。また基本土層断面図ＥおよびＢ北端については、上部がⅡ－２a・b・c層、下部をⅡ－２’層に分層した。Ⅱ－２b層は地山由来土を多量に含む単発的な間層で、これを挟むⅡ－２a・c層は同質の堆積土である。ただしこれらの細分層位を平面的に把握しながら本層を掘り下げることは困難であったため、遺物の取り上げについてはⅡ－２層で一括して行った。

Ⅲ層

褐灰～灰黄褐色を呈する地山粘土である。遺物は含んでいない。Ⅱ層との境界は漸移的に変化している。遺構の大半は本層の上面で検出した。

Ⅳ層

灰オリーブ～暗オリーブ色を呈する地山粘土である。Ｃ区においては上位のⅢ層が耕地造成のため削平されており、遺構確認は本層上面で行った。なお、遺構底面などで本層の下に砂質土が堆積する地点や、地山上面に砂礫が露出した地点が確認されている。本層下部までの層厚や堆積状況は未確認であるが、基本的に本層下位には基盤段丘礫層に連続する砂礫層が存在するものと考える。

第２節　検出遺構と出土遺物

２か年の調査により、土坑50基、配石遺構６基、掘立柱建物跡２棟、柱穴様ピット214基を検出した(第７図、第２表)。これらの遺構は南東端部を除き、調査区のほぼ全域に分布している。検出遺構の平断面図は第８～15図に、遺構の土層注記は第６～９表に一覧を掲載し、遺構内出土遺物は第16～22図に実測図を、第10～12表に掲載遺物の一覧を示した。なお、遺構記述中にある石器の分類については第４章第３節を参照されたい。

１　土坑

土坑は調査区全域に分布しており、50基を検出した。直径１ｍ前後の円形平面を呈する土坑が多く見受けられ、上部に礫群を伴う土坑も確認されている。なお径50㎝程度の極めて小型の土坑は平面的に柱穴様ピットとの判別が困難であるが、壁の立ち上がりが緩やかで比較的浅いものについては土坑と認定した。

ＳＫ11(第８図、図版２)

［位置］LQ・LR45グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅰ層の除去後、地山(Ⅳ層)面で連なった複数の円形プランを確認した。このうち最も西側で規模の大きな黒褐色土のプランをＳＫ11、これより東へ順にＳＫ12・13として精査を開始した。

［概要］ＳＫ12に切られる。残存部は長径1.39ｍ、短径1.05ｍのほぼ円形を呈する。確認面からの深

さは0.18mである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］３層に分層した。いずれの土層にも炭化物や地山由来の灰黄褐色土粒を多く含む。

［出土遺物］縄文土器破片59点（16図１）、残核１点（20図18）、剥片７点、石皿１点（Ａ１類）、硅化木１点が出土した。

［時期］出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK12（第８図、図版２）

［位置］LQ45グリッドに位置する。

［検出状況］Ｉ層の除去後、地山（Ⅳ層）面で連なった複数の円形プランを確認した。このうち中央に位置する黒褐色土の円形プランをSK12として精査を開始した。

［概要］SK11を切り、SK13aに切られる。長径1.27m、短径1.17mの円形を呈する。確認面からの深さは0.37mである。底面はほぼ平坦で、壁は底面から開口部にかけて緩やかに湾曲する。

［堆積土の特徴］炭化物や地山由来の灰黄褐色土塊の混入の度合いによって４層に分層した。特に２層中央部には炭化物塊の混入が顕著である。

［出土遺物］底面中央部東寄りに比較的大型の自然礫が、西側壁際には大型の被熱礫が配置されていた。このほか、縄文土器破片106点（第16図２・３）、不定形石器２点（20図19・Ｂ３a類）、残核１点（20図20）、剥片８点、磨・凹石類２点（Ａ１・Ｂ２類）、石皿２点（Ａ１類）、石棒１点（Ｂ３類）、硅化木１点が出土した。

［時期］出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK13a（第８図、図版２）

［位置］LQ45グリッドに位置する。

［検出状況］Ｉ層の除去後、地山（Ⅳ層）面で連なった複数の円形プランを確認した。このうち最も東側に位置する黒褐色土の円形プランをSK13として精査を開始した。精査が進んだ段階で、東側で柱穴様ピットと切り合うことが判明し、土坑をSK13a、柱穴様ピットをSKP13bとした。

［概要］SKP13bに切られ、SK12を切る。長径0.64m、短径0.51mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.39mである。底面は南側が若干高く段差が付いており、壁は急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］炭化物や地山由来土の混入程度から、５層に分層した。黒褐色土を主体とし、特に下部堆積土には径の大きな地山土塊を多く混入しており、埋め戻しによる堆積と考えられる。

［出土遺物］縄文土器破片63点（16図４）、不定形石器３点（Ｄ７b・Ｄ８c・Ｃ10d類）、剥片８点、硅化木３点が出土した。

［時期］出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK14a・b（第８図、図版２）

［位置］LQ45・46グリッドに位置する。

［検出状況］Ｉ層の除去後、地山（Ⅳ層）面で輪郭の不明瞭な黒褐色土プランを確認した。十字に土層観察ベルトを設定してこれに沿うサブトレンチを掘削し、壁の状況や堆積状況を観察した結果、２基の土坑と１基の柱穴様ピットが重複したものであることが判明した。この段階で、規模が大きい土坑をSK14a、小さな土坑をSK14b、柱穴様ピットをSKP14cとし、精査を進めた。

［概要］＜SK14a＞SK14b、SKP14c・42を切る。長径1.38m、短径1.25mのほぼ円形を呈する。

確認面からの深さは0.47mである。底面は中央部南側が一段深くなっており、壁は緩やかに立ち上がる。＜SK14b＞SK14aに切られる。長径0.56m、短径0.51mのほぼ円形で、確認面からの深さは0.26mである。底面は緩やかに湾曲し、壁は比較的急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］＜SK14a＞６層に分層した。１・２層には特に地山由来の黄褐色土塊が多く混入している。＜SK14b＞青灰色土の単一層である。グライ化した地山と色調が酷似しており、壁と底面の検出は困難であったが、わずかに炭化物を含み締まりが弱い部分を堆積土と判断した。

［出土遺物］遺物は殆どがSK14aに属するもので、縄文土器破片215点（16図５・６）、石錐１点（20図22）、楔形石器１点（20図21）、不定形石器５点（20図23・B２類２点・D３a類・C９d類）、残核１点（A類）、剥片12点、硅化木小破片３点が出土した。

［時期］詳細は不明であるが、出土遺物から縄文時代晩期前葉以降に埋没したものと考えられる。

SK15（第８図、図版２）

［位置］LR45・46グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅰ層除去後、分布調査時の試掘坑の埋め戻し土を取り除いたところ、灰色土の明瞭な円形プランを確認した。

［概要］上部が削平されているため本来の規模は不明であるが、開口部は長径1.35m、短径1.23mの円形を呈し、確認面からの深さは0.32mを測る。底面は直径1.39m、短径1.30mを測り、ほぼ平坦である。壁は西側を除いて全体的にオーバーハングしており、緩やかに内傾しながら立ち上がる。

［堆積土の特徴］３層に分層した。いずれの層にも地山由来のシルトを含み、特に３層はこれを主体とする。人為的に埋め戻された可能性が高い。

［出土遺物］縄文土器破片84点（16図７・８）、石鏃１点（21図１）、剥片６点、磨・凹石類２点（B１・２類）、硅化木小破片２点が出土した。

［時期］出土遺物から縄文時代晩期初頭以降に埋没したものと考えられる。

SK24（第８図、図版２）

［位置］LQ46グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅰ層の除去後、Ⅳ層にて黒褐色土の円形プランを確認した。当初、県道に沿って存在した用排水路部分は調査対象区域外としていたが、本土坑の約半分が水路下へと展開していたため、調査対象区域を県道際まで拡張し、全体を検出した。本土坑の精査終了後、壁面および底面で重複するSK83、SKP73を確認した。

［概要］SK83、SKP73と重複する。上記のような検出状況のため新旧関係は不明だが、SK24はこれらを切っていた可能性が高い。長径1.09m、短径1.00mのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.24mを測る。底面から壁にかけて緩やかに湾曲する。

［堆積土の特徴］２層に分層した。黒褐色土を主体として特に下部の２層は地山土塊を多く混入しており、人為的な埋め戻しによるものと考えられる。

［出土遺物］縄文土器破片26点、土器片円盤１点（20図16）、不定形石器１点（D８b類）、剥片３点、硅化木小破片１点が出土した。

［時期］出土遺物から縄文時代晩期以降に埋没したものと考えられる。

ＳＫ30a（第８図、図版２）

［位置］ＬＲ・ＬＳ46グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅰ層除去後、Ⅳ層にて黒褐色土の明瞭な円形プランを確認した。半截時に底面が砂層となり周囲の地山と様相が異なったため、土層観察位置に沿ってサブトレンチを掘削した。これにより、砂層がプラン外にも一様に堆積している状況が確認できたため、２層下面を底面と判断した。

［概要］ＳＫＰ30bを切る。長径1.25ｍ、短径1.18ｍのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.21ｍを測る。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに湾曲して立ち上がる。

［堆積土の特徴］２層に分層した。黒褐色土を主体とし、１層には炭化物を、２層には地山土塊を多く混入する。埋め戻しによる堆積と推測される。

［出土遺物］縄文土器破片121点（16図９）、不定形石器２点（21図２・Ｄ３ａ類）、残核１点（21図３）、剥片６点、石皿１点（Ａ１類）、礫器２点（22図３・Ａ類）、硅化木３点が出土した。１層下位から２層上位にかけては土器破片が中心で、２層下位から底面にかけては比較的大型の自然礫が４点出土しており、意図的に埋められたものと考えられる。

［時期］出土土器は同一個体の大型破片が多く、埋め戻しに伴い意図的に投入されたものと考えられる。本土坑は縄文時代晩期前葉（大洞ＢＣ式期）に属する可能性が高い。

ＳＫ39a（第８図、図版２）

［位置］ＬＲ47グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅰ層除去後、Ⅳ層にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。１基の遺構であると予測し、長軸方向で半截したところ、上半を欠損した深鉢形土器底部が正位の状態で出土した。土層の観察から、この土器を埋納した土坑とこれを切る柱穴様ピットが重複したものと判断し、前者をＳＫ39a、後者をＳＫＰ39bとして精査した。

［概要］長径推定0.42ｍ、短径0.35ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.20ｍである。底面は平坦で、壁は比較的急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に地山土塊を含む単一層で、埋め戻しによる堆積の可能性が高い。

［出土遺物］縄文土器破片39点（16図10・11）、剥片１点が出土した。出土土器破片の殆どが同一個体と推測される。

［時期］埋納された土器の時期から、縄文時代後期前葉に属する可能性が高い。

ＳＫ43（第８図、図版２）

［位置］ＬＱ46グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅰ層除去後、Ⅳ層にて調査区北東側壁に接する半円状の黒褐色土プランを確認した。当初調査対象区域外としていた県道に沿う用排水路部分にも遺構が展開することが判明したため、調査対象地区を県道際まで拡張した。全体を検出したところ、本土坑に重複するプランが確認されたため、それぞれＳＫ71、ＳＫＰ82として精査を進めた。

［概要］ＳＫ71、ＳＫＰ82を切る。長径0.81ｍ、短径0.72ｍのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.38ｍである。底面はやや凹凸があるものの概ね平坦で、壁は急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］２層に分層した。地山土塊を含む２層は、底面付近に４㎝堆積するのみである。人為的に埋め戻されたものと考えられる。

［出土遺物］縄文土器破片109点（16図12・13）、不定形石器１点（21図４）、剥片６点、磨・凹石類１点（Ｂ１類）が出土した。このほか、底面北東側に人頭大の礫が配置されていた。

［時期］出土遺物から縄文時代晩期中葉（大洞Ｃ１式期）以降に埋没したものと考えられる。

ＳＫ53（第９図、図版３）

［位置］ＬＴ49グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を５㎝ほど掘り下げた段階で、人頭大の礫が５点ほど集中している地点を確認した。意図的に配置された可能性を考えＳＱ53として精査を開始したが、周囲をさらに掘り下げたところ、Ⅲ層上面にてこれらの礫を取り囲む黒褐色土の円形プランを確認したため、土坑と判断した。

［概要］掘り込みは長径0.80ｍ、短径0.78ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.28ｍである。底面は緩やかに湾曲し、壁は比較的急角度で立ち上がる。土坑の上面には拳～人頭大の礫が平坦な面を下にしてほぼ同じ高さにまとめられていた。東側に配置された長さ20㎝ほどの硅化木は直立した状態であった。

［堆積土の特徴］混入する炭化物粒の大きさや混入の度合いから２層に分層した。

［出土遺物］堆積土中から縄文土器破片99点（16図14・15）、剥片１点が出土したほか、上部礫群には石皿２点（22図５・Ａ１類）、磨・凹石類７点（22図４・６・７・Ａ１類・Ａ２類２点・Ａ３類）、硅化木１点が含まれていた。

［時期］出土土器のうち時期の判別できるものは後期中葉が主体であり、当該時期の大型破片（16図14）も含まれていることから、本土坑は後期中葉に属する可能性が高い。

ＳＫ54（第９図、図版３）

［位置］ＬＴ・ＭＡ49グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を５㎝ほど掘り下げた段階で、人頭大の礫が数点集中している箇所を確認した。中でも大きな２点の礫が立った状態であり、この周囲に数点の礫が露出していたため、礫群全体の検出を行ったところ、大小の礫が円形の範囲に敷き詰められたような状態で確認された。当初は配石遺構の可能性を考え、ＳＱ54として精査を開始したが、分布調査時の試掘トレンチ壁面で礫群の下に掘り込みがあることを確認したため、これを土坑と判断した。

［概要］他遺構との切り合いは無いが、北側は壁の一部が風倒木により撹乱されている。掘り込みは残存部で長径1.03ｍ、短径0.98ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.46ｍである。底面は平坦で、壁は直線的に外傾する。土坑上部には直径約１ｍの範囲に大小の礫が分布している。礫群は南側でプランの外側まで及んでおり、土坑本来の開口部はより広く、高い位置から掘り込まれていたと推測される。礫群北側にある２点の礫は立っており、他の礫から頭が飛び出した状態であった。また礫群の中央部には硅化木が配置されていた。

［堆積土の特徴］３層に分層した。礫は確認面から３層上面までほとんど隙間無く含まれていた。上面の礫群と比較すると、２層中では壁際に人頭大の礫を、中央部には拳大程度の礫が集中している状態が確認できた。

［出土遺物］堆積土中から縄文土器破片35点（16図16～18）、不定形石器１点（21図５）、残核１点（21図６）、剥片２点、磨製石斧１点（Ｂ１類）、石棒１点（22図11）、硅化木小破片１点が出土したほか、礫群には石皿10点（Ａ１類３点・Ｂ１類４点・Ｄ類３点）、磨・凹石類10点（22図９・Ａ１類５点・

Ａ２類１点・Ａ３類２点・Ｂ２類１点)、硅化木３点が含まれていた。

[時期]出土遺物から、縄文時代後期前葉に属する可能性が高い。

ＳＫ56(第９図、図版３)

[位置]MA50グリッドに位置する。

[検出状況]Ⅱ層を５㎝ほど掘り下げた段階で、人頭大の礫１点とこれよりやや小さな礫３点が集中しているのを確認した。礫の周囲に黒褐色土の円形プランが確認されたため、これを土坑と判断した。

[概要]掘り込みは長径0.54m、短径0.50mの円形を呈する。確認面からの深さは0.18mである。上部には礫６点が人頭大のものを中心に配置されていた。

[堆積土の特徴]３層に分層した。２層以下はにぶい黄褐色土で地山に近い色調と土質である。

[出土遺物]縄文土器破片12点(17図１～３)、剥片１点、石皿１点(Ｂ１類)、磨・凹石類１点(Ａ２類)が出土した。

[時期]出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

ＳＫ57(第９図、図版３)

[位置]ＬＴ50グリッド調査区境界に位置する。

[検出状況]Ⅰ層を除去した段階で、拳よりやや大きく扁平な礫８点のまとまりを確認した。礫はそれぞれ礫群の中心に向かって傾いており、下部に土坑の存在が予測された。周囲を精査したところ黒褐色土の円形プランを検出したため、これを土坑と判断した。

[概要]長径0.88m、短径0.79mの円形を呈する。確認面からの深さは0.15mである。土坑の上面に礫が分布しているが、その配置に規則性は見出せない。

[堆積土の特徴]黒褐色土の単一層である。

[出土遺物]堆積土中から、縄文土器破片82点(17図４)、剥片１点、硅化木小破片１点が出土したほか、上部および底面の礫群には石皿１点(Ａ２類)、磨・凹石類３点(Ａ１類２点・Ｂ２類)、礫器１点(Ａ類)、硅化木１点が含まれていた。

[時期]出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

ＳＫ58(第９図、図版４)

[位置]ＬＳ48・49グリッドの調査区境界に位置する。

[検出状況]Ⅱ層を掘り下げた後、地山(Ⅲ層)面にて黒褐色土の半円形プランを確認した。また、精査の段階で３基の柱穴と切り合いをもつことが確認された。

[概要]ＳＫＰ195に切られ、ＳＫＰ59・194を切る。北東側が調査区外へ続くため全体規模は不明であるが、検出した部分で最大径2.24mを測り、楕円形を呈すると推測される。確認面からの深さは0.25mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土の特徴]２層に分層した。黒色土を主体として炭化物粒を比較的多く含む。

[出土遺物]縄文土器破片39点、剥片３点、磨・凹石類１点(Ａ３類)が出土した。

[時期]出土遺物から後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

ＳＫ62(第９図)

[位置]ＬＴ48グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の円形プランを確認した。

［概要］ＳＫＰ299を切る。長径0.51ｍ、短径0.48ｍのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.21ｍである。底面は中央が一段低く窪んでおり、壁は比較的急傾斜で立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に炭化物や地山土塊を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

ＳＫ67（第９図、図版４）

［位置］MA51グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を10㎝ほど掘り下げた段階で、４点の礫が方形に組まれた状態を確認した。人為的に配置されたものと考え、配石遺構として精査を開始した。礫の周囲を精査した際には掘り込みプランは確認できなかったが、サブトレンチを設定して土層断面を観察したところ、掘り込みの底面と壁の立ち上がりを確認したため、土坑と判断した。

［概要］ＳＫ162に切られる。掘り込みは長径0.83ｍ、短径推定0.71ｍのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.34ｍである。底面は緩やかに湾曲しており、壁は湾曲しながら比較的急角度で立ち上がる。上部には４点の大型礫が方形に組まれている。特に南東側は扁平な礫を立てた状態で据えている。石組みの中や礫の下からは、薄く剥離した同一個体の礫がまとまって出土している。

［堆積土の特徴］３層に分層した。１層は暗オリーブ褐色土で、石を据えるために被せたものと考えた。３層は土坑の埋め戻し土で、わずかに炭化物を含む。

［出土遺物］縄文土器破片53点（17図５）、剥片６点、礫破片35点が出土した。

［時期］出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

ＳＫ70（第９図、図版２）

［位置］LQ46グリッドに位置する。

［検出状況］ＳＫ43の精査に伴い、調査区を北東側へ拡張したところ、地山（Ⅳ層）面にて大型礫２点とそれを取り囲む不明瞭な楕円形プランを確認した。

［概要］長径0.64ｍ、短径0.42ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.23ｍである。底面は南西側が一段低く窪んでおり、壁は急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］地山土に似たオリーブ灰色土の単一層で、混入物は殆ど見られない。

［出土遺物］磨・凹石類１点（Ａ１類）が出土した。

［時期］時期の判定できる遺物が出土しなかったため、帰属時期は不明である。

ＳＫ71（第８図、図版２）

［位置］LQ46グリッドに位置する。

［検出状況］ＳＫ43の全体を検出するために調査区を拡張したところ、これに重複する２基のプランを確認した。このうち、北側に位置するものをＳＫ71とした。

［概要］ＳＫ43、ＳＫＰ82に切られる。このため遺構全体の規模は不明であるが、残存部で長径0.93ｍ、短径推定0.68ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.30ｍで、ＳＫ43よりやや浅い。底面は平坦で、壁は直線的に急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］２層に分層した。ともに地山土塊を混入しており、埋め戻し土と判断できる。

［出土遺物］縄文土器破片14点（17図６）、剥片１点が出土した。６はＳＫ43出土土器との接合資料である。

［時期］出土遺物から縄文時代晩期以降に埋没したものと考えられる。

ＳＫ83（第８図、図版２）

［位置］ＬＱ46グリッドに位置する。

［検出状況］ＳＫ24を完掘した際、底面にオリーブ黒色土の円形プランを確認した。

［概要］ＳＫ24と重複する。新旧関係は不明であるが、ＳＫ24に切られていた可能性がある。残存部は長径0.50ｍ、短径0.44ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.31ｍである。底面は緩やかに湾曲し、壁は比較的急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］径の大きな地山土塊を多量に含むオリーブ黒色土の単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

［出土遺物］縄文土器破片４点（17図７）が出土した。

［時期］出土遺物から縄文時代晩期以降に埋没したものと考えられる。

ＳＫ85（第10図）

［位置］ＬＳ・ＬＴ48、ＬＳ・ＬＴ49グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の円形プランを確認した。

［概要］ＳＫＰ84に切られる。長径0.83ｍ、短径0.60ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.37ｍである。底面は中央部が一段低く窪んでおり、壁は比較的急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］炭化物や地山土の混入程度から３層に分層した。黒褐色土を主体とし、上部に炭化物を、下部に地山土粒を少量混入する。

［出土遺物］縄文土器破片２点が出土した。

［時期］出土土器に時期判定可能なものが無いため、帰属時期については不明である。

ＳＫ88（第10図、図版４）

［位置］ＭＡ51グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げる段階で比較的大型の礫が集中する地点を確認した。この段階では周囲にプランは確認できなかったため、礫を残したまま周囲を掘り下げたところ、礫群を取り囲む不整円形の黒褐色土プランが検出されたため、土坑と判断した。

［概要］掘り込みは長径0.90ｍ、短径0.80ｍの歪な円形を呈する。確認面からの深さは0.50ｍである。土坑の上部には、人頭大の礫２点と拳より大きな礫数点が集中していた。人頭大礫の一つは扁平で直立した状態で据えられていた。

［堆積土の特徴］２層に分層した。黒褐色土を主体として炭化物を少量含み、下部の方が粘性が強い。

［出土遺物］堆積土から縄文土器破片37点（17図８）、不定形石器１点（21図７）、剥片１点が出土したほか、上部礫群には磨・凹石類２点（Ａ３類・Ｂ１類）、礫器１点（Ａ類）が含まれていた。

［時期］出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

ＳＫ89（第10図）

［位置］ＬＳ・ＬＴ49グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて暗褐色土の楕円形プランを確認した。

［概要］長径0.65ｍ、短径0.44ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.18ｍである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］暗褐色土を主体とした単一層で、炭化物を少量、地山土塊を多量に含む。人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

［出土遺物］縄文土器破片１点、硅化木小破片１点が出土した。

［時期］出土土器に時期判定可能なものが無いため、帰属時期については不明である。

SK129（第10図、図版４）

［位置］MA49グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。

［概要］長径0.40ｍ、短径0.30ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は緩やかに湾曲し、壁は急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に炭化物を多量に、径の大きな地山土塊を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

［出土遺物］縄文土器破片13点、剥片１点が出土した。

［時期］出土土器に時期判定可能なものが無いため、帰属時期については不明である。

SK130（第10図、図版４）

［位置］MA49グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の円形プランを確認した。

［概要］長径0.72ｍ、短径0.61ｍのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に炭化物と地山土塊を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

［出土遺物］縄文土器破片13点（17図９）、磨・凹石類１点（Ａ１類）が出土した。

［時期］出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK156a（第10図、図版５）

［位置］MA55グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。当初１基の土坑と考えたが、半截して土層を観察した結果、土坑と柱穴様ピットが切り合ったものであることが判明した。このため、土坑をSK156a、柱穴様ピットをSKP156bとして精査を行った。

［概要］SKP156bを切る。長径0.98ｍ、短径0.54ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.18ｍである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に炭化物と地山土塊を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

［出土遺物］縄文土器破片56点（17図10・11）、剥片１点、磨・凹石類１点（Ａ１類）が出土した。

［時期］出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK162（第10図、図版４）

［位置］MA・MB51グリッドに位置する。調査区Ｂ区とＤ区の境界部分に相当する。

［検出状況］Ｂ区北端部においてⅡ層掘り下げの後、地山（Ⅳ層）面でSK67を切る黒褐色土のプランを確認した。北端部壁面の土層を再度観察したところ、Ⅱ層中から掘り込まれていることが判明した。

［概要］SK67を切る。長径1.20m、短径0.65mの楕円形を呈する。壁面で観察された、掘り込み面からの深さは0.47mである。底面は緩く窪み、壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］３層に分層した。全体的に黒色土を主体として炭化物を少量含むが、中位に堆積する２層は地山土塊を多量に混入する。人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］遺物の出土が無いため帰属時期は不明であるが、SK67との切り合い関係から、縄文時代後期中葉を遡らない時期に埋没したものと考えられる。

SK164（第10図、図版５）

［位置］MA・MB55、MA・MB56グリッドの調査区境界に位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の不整形プランを検出した。掘り込みは西側の調査区域外にまで広がっている。

［概要］全体形状及び規模は不明であるが、検出した範囲では最大径1.66m、短径1.46mの不整形を呈する。確認面からの深さは0.15mである。底面は北側が一段低くなっている他、全体的に緩く湾曲しており、壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に炭化物と地山土塊を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

［出土遺物］縄文土器破片97点（17図12・13）、剥片４点が出土した。

［時期］出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

SK165（第10図、図版５）

［位置］MA55グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の不整形プランを検出した。

［概要］長径0.76m、短径0.27mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.20mである。東側がわずかに一段低くなっているが、全体としては平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に炭化物を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］出土遺物が無いため、帰属時期は不明である。

SK166（第10図、図版５）

［位置］MA54グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。

［概要］長径1.29m、短径0.86mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.45mである。底面は中央部が一段深く窪んでおり、壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］炭化物の混入量および締まり・粘性の違いから２層に分層した。黒褐色土を主体として径の大きな炭化物を少量含み、人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK178（第10図）

［位置］LS・LT48グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の円形プランを確認した。

［概要］長径0.54m、短径0.50mの円形を呈する。確認面からの深さは0.13mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に炭化物を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK188（第11図、図版５）

［位置］LT48グリッドに位置する。

［検出状況］SQ52の構成礫を取り外してⅡ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。

［概要］長径1.42m、短径0.91mのほぼ楕円形を呈する。確認面からの深さは0.45mである。底面はほぼ平坦で壁は急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土を主体とし、炭化物や地山土塊の混入程度から３層に分層した。人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

［出土遺物］出土遺物は無い。

［時期］遺物の出土が無いため帰属時期は不明であるが、上部に位置するSQ52が縄文時代後期中葉以降に構築されたと推測されることから、縄文時代後期中葉以前に埋没したものと考えられる。

SK205（第11図、図版５）

［位置］MA・MB56グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅰ層の除去後、地山（Ⅲ層）面で黒褐色土の楕円形プランを確認した。

［概要］長径0.90m、短径0.49mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.15mである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に炭化物を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK213（第11図、図版５）

［位置］LT・MA50グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層の除去が全て終了した段階で、拳大の礫が集中した地点を確認した。念の為に礫群の平面図を作成した後に半截したところ、礫の下部に掘り込みが存在することが判明したため、こ

れを土坑と判断した。

［概要］掘り込みは長径0.58m、短径0.49mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.18mである。底面は緩やかに湾曲し、壁も緩やかに立ち上がる。土坑上部には拳大の礫15点が平面的にまとまっており、故意に置かれたものと考えられる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に炭化物を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性が高い。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK214（第11図、図版５）

［位置］LT48グリッドに位置する。

［検出状況］SQ52の構成礫を取り外してⅡ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。

［概要］長径0.93m、短径0.78mのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは0.34mである。底面には若干凹凸が認められるがほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土を主体とし、炭化物や地山土塊の混入程度から２層に分層した。人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。

［出土遺物］縄文土器破片19点（17図14～16）、不定形石器１点（C10c類）、剥片１点、硅化木１点が出土した。

［時期］出土土器のうち時期判定の可能なものは後期前葉に属するため、本土坑は縄文時代後期前葉に属する可能性が高い。

SK226（第11図）

［位置］LT48・49グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて南北に連なる複数の円形プランを確認した。トレンチを設定して土層断面を観察した結果、土坑１基と柱穴様ピット２基が切り合ったものと判断した。北側の土坑をSK226、中央部と南側の柱穴様ピットをそれぞれSKP231・227として精査を行った。

［概要］SKP231に切られる。全体規模は不明であるが、長径推定0.88m、短径0.67mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.25mである。底面から壁にかけて、緩やかに湾曲して立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に炭化物を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

SK237a（第11図、図版６）

［位置］MA49・50グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて南北に連なる不整形プランを確認した。半截した後土層断面を観察したところ、土坑１基と柱穴様ピット１基が切り合ったものと判断し、北側の土坑をSK237a、南側の柱穴様ピットをSKP237bとして精査を行った。

［概要］ＳＫＰ237bを切る。長径0.58ｍ、短径0.52ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.28ｍである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に炭化物を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

ＳＫ242（第11図）

［位置］ＭＡ49グリッドの調査区境界に位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒色土の円形プランを確認した。プランは調査区の西側へと続いており、壁面の土層を再度確認したところ、Ⅱ－２層上面から掘り込まれていることが判明した。

［概要］ＳＫＰ241に切られる。全体規模は不明であるが、検出部の最大径は0.85ｍを測り、楕円形を呈するものと考えられる。掘り込み面から底面までの深さは0.24ｍである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒色土に炭化物を少量含む単一層で、人為的な埋め戻しによる堆積の可能性がある。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

ＳＫ243（第11図、図版６）

［位置］ＭＢ53グリッドの調査区境界に位置する。

［検出状況］Ⅱ層を10㎝ほど掘り下げた段階で、数点の礫のまとまりとそれを取り囲む不明瞭な円形プランを確認した。調査区境界に沿ってトレンチを設定し掘り下げたところ、土坑の壁面および底面を確認し、併せてⅡ－１層から掘り込まれていることが判明した。

［概要］北側が水道管埋設溝に撹乱されている。土坑の掘り込みは調査区西側へ続くため全体規模は不明であるが、検出部で最大径1.24ｍを測り、楕円形を呈すると考えられる。掘り込み面からの深さは0.52ｍである。底面は緩く湾曲し、壁は比較的急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］３層に分層した。全体的に炭化物を若干混入し、特に３層には地山土塊を多く含み、人為的な埋め戻し土と判断できる。２層は特に粘性の強い土で、これも埋め戻しの際に故意に入れた可能性が高い。礫は確認面で数点認められる他は堆積土の中位レベルにまとまっており、径30㎝を超える大きな礫が底面に接した状態で出土している。

［出土遺物］堆積土から縄文土器破片224点（17図17～22）、不定形石器１点（Ｃ９d類）、剥片３点が出土したほか、出土礫には石皿２点（Ａ１・Ｂ１類）、磨・凹石類７点（Ａ１類４点・Ａ２類２点・Ａ３類）、硅化木１点が含まれていた。

［時期］時期判定の可能な土器のほとんどが縄文時代後期中葉に属するため、本土坑は後期中葉に埋没した可能性が高い。

ＳＫ244（第11図、図版６）

［位置］ＭＡ・ＭＢ53グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を10㎝ほど掘り下げた段階で、Ⅱ層中で不明瞭な不整円形プランを確認した。複数

の遺構が切り合っている可能性を考慮して、長軸方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、２基の土坑が切り合ったものと判断した。このうち、規模の大きい方をＳＫ244として精査した。

［概要］ＳＫ245・ＳＫＰ249に切られ、ＳＫＰ270・274を切る。長径1.75ｍ、短径1.54ｍの不整円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は若干凹凸があるもののほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］Ⅱ層に類似したシルト質土に炭化物を若干含む単一層である。

［出土遺物］縄文土器破片490点（17図23～28）、不定形石器２点（Ｂ２・Ｃ10b類）、剥片２点が出土した。

［時期］時期判定の可能な土器のほとんどが縄文時代後期中葉に属するため、本土坑は後期中葉に埋没した可能性が高い。

ＳＫ245（第11図、図版６）

［位置］ＭＢ53グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を10㎝ほど掘り下げた段階で、Ⅱ層中で不明瞭な不整円形プランを確認した。複数の遺構が切り合っている可能性を考慮し、長軸方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、２基の土坑が切り合ったものと判断した。このうち、規模の小さい方をＳＫ245として精査した。

［概要］ＳＫ244、ＳＫＰ249・270を切る。長径0.83ｍ、短径0.65ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］Ⅱ層に類似したシルト質土に炭化物を若干含む単一層である。

［出土遺物］縄文土器破片92点（18図１・２）、剥片１点、硅化木小破片１点が出土した。

［時期］時期判定の可能な土器の殆どが縄文時代後期中葉に属するため、本土坑は後期中葉に埋没した可能性が高い。

ＳＫ248（第11図、図版６）

［位置］ＭＡ53グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を10㎝ほど掘り下げた段階で、Ⅱ層中で扁平な大型礫が重なった状態で出土した。当初は配石遺構の可能性を考えたが、地山（Ⅲ層）面まで掘り下げて精査した結果、これらを取り囲む円形プランを確認し、土坑と判断した。

［概要］掘り込みは長径0.46ｍ、短径0.41ｍの円形を呈し、確認面からの深さは0.06ｍである。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。本来は礫上面より上のレベルから掘り込まれていたと考えられ、平面規模は一回り大きく、深さも30㎝以上あったものと推測される。礫は底面からわずかに浮いたレベルで密着した状態で出土しており、土坑内に人為的に据えられたと考えられる。

［堆積土の特徴］地山土粒を比較的多く含む黒褐色土の単一層で、人為的な埋め戻し土の可能性が高い。

［出土遺物］堆積土中からの出土遺物は無いが、出土した２点の大型礫はいずれも石皿（Ａ１・Ｂ１類）である。

［時期］時期判定の可能な遺物は出土しておらず、本土坑の帰属時期は不明である。

ＳＫ251（第11図、図版６）

［位置］ＭＡ52グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒色土の明瞭な円形プランを確認した。

［概要］長径0.78m、短径0.72mの円形を呈する。確認面からの深さは0.14mである。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒色土に地山由来土と炭化物を少量含む単一層で、中心部の底面から確認面にかけて大型の礫が集中している。

［出土遺物］堆積土から縄文土器破片96点（18図３～５）、残核１点（Ａ類）、剥片２点が出土したほか、礫群には磨・凹石類１点（Ａ１類）、硅化木１点が含まれていた。なお、土坑を検出する以前にⅡ層中において、ほぼ完形の縄文時代晩期壺形土器（45図８）が口縁部を上にして潰れた状態で出土している。本土坑埋め戻しの際、上部に意図的に置かれた可能性もあるが、明確ではない。

［時期］詳細は不明であるが、出土遺物から少なくとも縄文時代後期中葉以降に埋没したものと推測され、晩期に属する可能性もある。

ＳＫ252（第12図、図版６）

［位置］ＭＢ52グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて人頭大の礫とともに黒褐色土の明瞭な楕円形プランを確認した。

［概要］北側で風倒木痕を切っている。長径1.17m、短径0.78mの不整楕円形を呈する。確認面からの深さは0.13mである。底面から壁にかけて緩く湾曲しながら立ち上がる。

［堆積土の特徴］径の大きな地山土粒や炭化物を少量含む黒褐色土の単一層で、人為的な埋め戻し土の可能性が高い。中央部には大型礫１点と小型礫２点がまとまっていた。

［出土遺物］縄文土器破片110点（18図６～８）、不定形石器１点（Ａ８a類）、磨製石斧１点（Ａ類）、石皿１点（Ａ１類）が出土した。

［時期］時期判定の可能な土器のほとんどが縄文時代後期中葉に属するため、本土坑は後期中葉に埋没した可能性が高い。

ＳＫ266（第12図、図版６）

［位置］ＭＢ52グリッドの調査区境界部に位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の不明瞭な円形プランを確認した。

［概要］ＳＫＰ267を切る。掘り込みは調査区西側へ続くため全体規模は不明であるが、検出部は長径0.67m、短径推定0.61mの円形を呈する。確認面からの深さは0.15mである。底面は平坦で壁は急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］径の大きな地山土粒や炭化物を少量含む黒褐色土の単一層で、人為的な埋め戻し土の可能性が高い。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］遺物の出土が無いため帰属時期は不明であるが、本土坑に切られるＳＫＰ267が縄文時代後期中葉以降に属すると考えられるため、少なくとも後期中葉を遡らない時期に埋没したものと推測される。

ＳＫ281（第12図、図版６）

［位置］ＭＡ51グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の明瞭な円形プランを確認した。

［概要］長径0.47ｍ、短径0.41ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］径の小さな地山土粒や炭化物をわずかに含む黒褐色土の単一層である。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

ＳＫ282（第12図、図版７）

［位置］ＭＢ52グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて比較的大型の礫とその周辺に黒褐色土の明瞭な楕円形プランを確認した。

［概要］ＳＫＰ294を切る。長径0.67ｍ、短径0.44ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.19ｍである。底面はほぼ平坦で壁は急角度で立ち上がる。

［堆積土の特徴］径の大きな地山土粒や炭化物を少量含む黒褐色土の単一層で、人為的な埋め戻し土の可能性が高い。

［出土遺物］縄文土器破片５点が出土した。

［時期］時期判定の可能な遺物は出土しておらず詳細な時期は不明であるが、本土坑に切られるＳＫＰ294が縄文時代後期前葉以降に属すると考えられるため、少なくとも後期前葉を遡らない時期に埋没したものと推測される。

ＳＫ283（第12図、図版７）

［位置］ＭＢ52グリッドの調査区境界に位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒色土の明瞭な楕円形プランを確認した。プランは調査区西側へと続いており、調査区境界の壁面を再度観察した結果、Ⅱ－２層上面から掘り込まれていることが確認された。

［概要］全体規模は不明であるが、検出部の最大径は1.14ｍを測り、楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは0.37ｍである。底面は凹凸が著しく、壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］径の大きな地山土粒や炭化物をわずかに含む黒色土の単一層である。

［出土遺物］縄文土器破片２点、礫器１点（Ａ類）が出土した。

［時期］時期判定の可能な遺物は出土しておらず、本土坑の帰属時期は不明である。

ＳＫ284（第12図、図版７）

［位置］ＭＡ54グリッドの調査区境界に位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の明瞭なプランを確認した。プランは調査区東側へと続いている。なお北側はＡ区・南側はＤ区にまたがっており、Ａ区にかかる部分については検出することができなかった。

［概要］全体規模は不明であるが、残存部では最大径0.58ｍを測り、楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは0.12ｍである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］２層に分層した。黒～黒褐色土に径の小さな地山土粒や炭化物をわずかに含む。

［出土遺物］縄文土器破片17点（18図９・10）が出土した。

［時期］出土遺物から縄文時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。

ＳＫ298（第12図、図版７）

［位置］MA51グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を掘り下げた後、地山（Ⅲ層）面にて黒褐色土の楕円形プランを確認した。

［概要］長径0.51ｍ、短径0.34ｍの楕円形平面を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

［堆積土の特徴］黒褐色土に径の小さな炭化物粒を含む単一層である。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

［時期］遺物の出土が無いため、帰属時期は不明である。

２　配石遺構

智者鶴遺跡では遺物包含層中および遺構検出面から大小の礫が多量に出土している。同様の礫は地山土中に殆ど含まれていないことから、その大部分は石沢川河床などから遺跡に持ち込まれた搬入礫であると推測される。礫は単独で出土するほか、礫群として平面的にまとまっている場合があり、特に大型礫で構成される礫群のうち、人為的に集積されたと考えられるものについて配石遺構とした。人為的な集積は、１）平面的に密接している、２）礫の上面もしくは下面レベルが揃っている、３）整った形に配置されている、などの状況から判断した。その結果６基を配石遺構と認定した。これらの配石遺構は調査区中央部の、遺物包含層が比較的厚く堆積する沢状の落ち込み付近に分布している。

ＳＱ52（第13図、図版７・８）

［位置］ＬＴ47・48、MA48グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層上部（Ⅱ－１a層）を掘り下げたところ、大小の礫が平面的に密接した状態で確認された。礫は東西約３ｍ、南北約２ｍの範囲に特に集中しているが、全体として何かを形作っているものかは不明である。礫のサイズは、北半部では人頭大の、南半部では拳大のものが中心である。礫群は調査区境界部にあり、西側の調査区外へとさらに広がるものと考えられる。なお、礫群北側には、被熱した動物骨の小破片が直径約１ｍの範囲から集中して出土している。これについては第５章第３節を参照されたい。礫群の長短軸方向で断ち割りを行ったが、下部に礫群と対応する掘り込みは認められなかった。礫群の下には遺物包含層があり、これを掘り下げたところ地山面（Ⅲ層）でＳＫ188、ＳＫＰ174・175・184・185・186・187・222・223・233・238を検出した。これらは本配石遺構の構築以前に埋没していたと考えられる。

［出土遺物］礫群中には、石皿20点（22図８・Ａ１類11点・Ｂ１類３点・Ｄ類５点）、磨・凹石類17点（Ａ１類10点・Ａ２類６点・Ａ３類１点）、礫器１点（Ｂ類）、硅化木６点が含まれていた。硅化木は礫群の中心部に位置するものがあり、意図的に据えられた可能性も考えられる。なお礫集中部北側で確認された、ほぼ完形に復元可能な単孔土器（42図12）は、上半部が大形礫に囲まれた部分から、底部が礫直下から出土しており、本配石遺構の構築時期に伴う可能性が高い。

［時期］礫群下位の遺物包含層出土土器は後期前葉を中心としており、少なくともこれを遡らない時期に礫群が形成されたと判断できる。また、ほぼ完形に復元できる単孔土器の出土状況から、本配

石遺構は後期中葉に属する可能性が高いと考える。

SQ55（第12図、図版８）

［位置］MA50グリッドの調査区境界部に位置する。

［検出状況］表土を除去したところ、Ⅱ－１層上面において人頭大を中心とした礫が密接した状態で検出された。礫群は径約１ｍの範囲内に収まっているが、全体として何かを形作っているものかは不明である。礫群は調査区境界部にあり、西側の調査区外へとさらに広がるものと考えられる。断ち割りも行ったが、礫群の下に掘り込みは認められなかった。

［出土遺物］礫群中には石皿１点（Ａ１類）、磨・凹石類１点（Ａ１類）、硅化木１点が含まれていた。

［時期］礫群下から後期中葉の土器が出土していることから、少なくとも後期中葉以降に構築されたものと考えられる。

SQ68（第12図、図版４）

［位置］MA51グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を10㎝ほど掘り下げたところ、扁平な大型礫４点が密接した状態で検出された。礫は径約0.5ｍの範囲内に収まっているが、全体として何かを形作っているものかは不明である。断ち割りも行ったが、礫群の下に掘り込みは認められなかった。

［出土遺物］礫群中に礫石器などは含まれていなかった。

［時期］礫群下から時期判定の可能な遺物は出土しておらず、本配石遺構の帰属時期は不明である。

SQ69（第12図）

［位置］MB51グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を10㎝ほど掘り下げたところ、大形礫２点と拳大の礫５点が密接した状態で検出された。礫は径約0.5ｍの範囲内に収まっているが、全体として何かを形作っているものかは不明である。断ち割りも行ったが、礫群の下に掘り込みは認められなかった。

［出土遺物］礫群中には石皿１点（Ｂ１類）、磨・凹石類１点（Ａ１類）、硅化木１点が含まれていた。

［時期］礫群下から時期判定の可能な遺物は出土しておらず、本配石遺構の帰属時期は不明である。

SQ246（第12図、図版８）

［位置］MB53グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を10㎝ほど掘り下げたところ、大型礫３点と拳大の礫２点が密接した状態で検出された。礫群は径約0.5ｍの範囲内に収まり、大型礫により三角形状に組まれている。断ち割りも行ったが、礫群の下に掘り込みは認められなかった。

［出土遺物］礫群中には、石皿１点（Ｂ１類）、磨・凹石類１点（Ａ３類）が含まれていた。

［時期］礫群下から時期判定の可能な遺物は出土しておらず、本配石遺構の帰属時期は不明である。

SQ247（第12図、図版８）

［位置］MA52グリッドに位置する。

［検出状況］Ⅱ層を10㎝ほど掘り下げたところ、人頭大および拳大の礫多数が密接した状態で検出された。礫群は南北約1.4ｍ、東西約１ｍの楕円形の範囲内に収まっているが、全体として何かを形作っているものかは不明である。断ち割りも行ったが、礫群の下に掘り込みは認められなかった。

［出土遺物］礫群中には、磨・凹石類４点（Ａ１類３点・Ａ３類１点）が含まれていた。

［時期］礫群下から後期前葉の土器（23図１など）が出土していることから、少なくとも後期前葉を遡らない時期に構築されたものと考えられる。

３　掘立柱建物跡

調査区中央部においては柱痕跡の明瞭な柱穴が比較的多く分布しており、これらを中心に検討した結果、掘立柱建物跡の可能性が強い柱配置２か所を抽出することができた。調査区境界部に位置するため暫定的ではあるが、ここでは２棟の掘立柱建物跡と判断しておく。

ＳＢ296（第14図）

［位置］ＬＲ46・47グリッドに位置する。

［概要］地山面（第Ⅳ層）で検出した柱穴様ピット３基（ＳＫＰ27a・32・35）から成る。６本柱で構成される亀甲形平面の掘立柱建物跡と推測され、北東側に残り３本の柱穴が配置するものと考えられる。桁方向の幅は約３ｍを測り、棟方向では少なくとも４ｍ以上の規模をもつ。

［堆積土の特徴］ＳＫＰ27には明確な柱痕跡を確認することができた。他の柱穴は地山土塊を多く含む黒褐色土の単一層であった。

［出土遺物］ＳＫＰ27aから縄文土器破片20点（18図19）・剥片３点、ＳＫＰ32から縄文土器破片６点・剥片１点、ＳＫＰ35から縄文土器破片27点・剥片３点が出土した。

［時期］ＳＫＰ27出土の土器から、縄文時代晩期以降に帰属するものと考えられる。

ＳＢ297（第14図）

［位置］ＬＳ48・49、ＬＴ49グリッドに位置する。

［概要］地山面（第Ⅲ層）およびＳＫ58底面において検出した柱穴様ピット３基（ＳＫＰ59・65・84）から成る。６本柱で構成される亀甲形平面の掘立柱建物跡と推測され、北東側に残り３本の柱穴が配置するものと考えられる。桁方向の幅は約３ｍを測るが、棟方向の規模は不明である。切り合い関係から、ＳＫ58・ＳＫＰ195より古く、ＳＫ85・ＳＫＰ87・194・287より新しい。

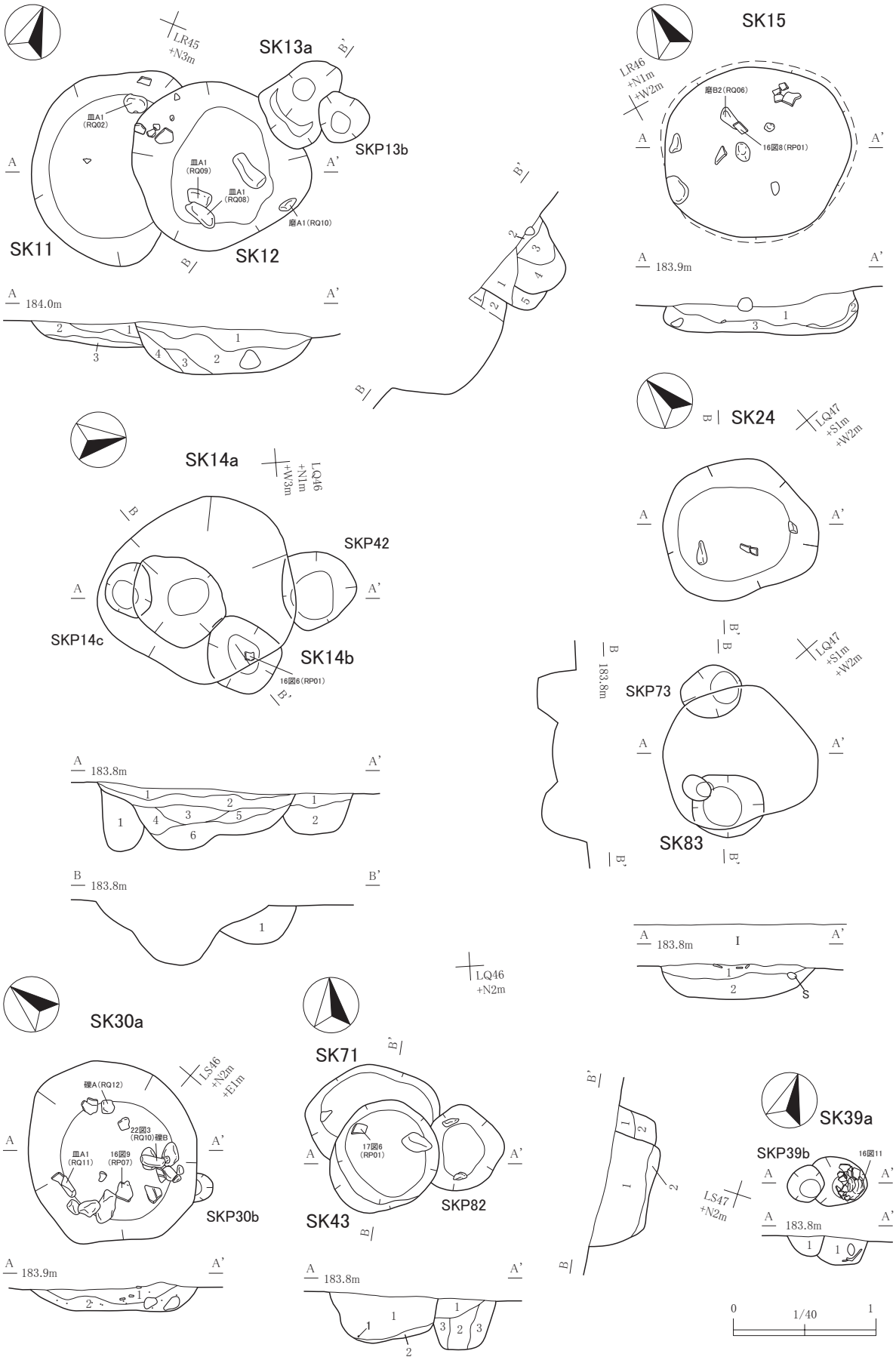
［堆積土の特徴］ＳＫＰ65・84に明確な柱痕跡を確認することができた。ＳＫＰ59は黒色土の単一層であった。

［出土遺物］ＳＫＰ59から縄文土器破片34点（19図６・７）、ＳＫＰ65から縄文土器破片18点（19図12・13）、ＳＫＰ84から縄文土器破片22点・石匙１点（22図１）が出土した。

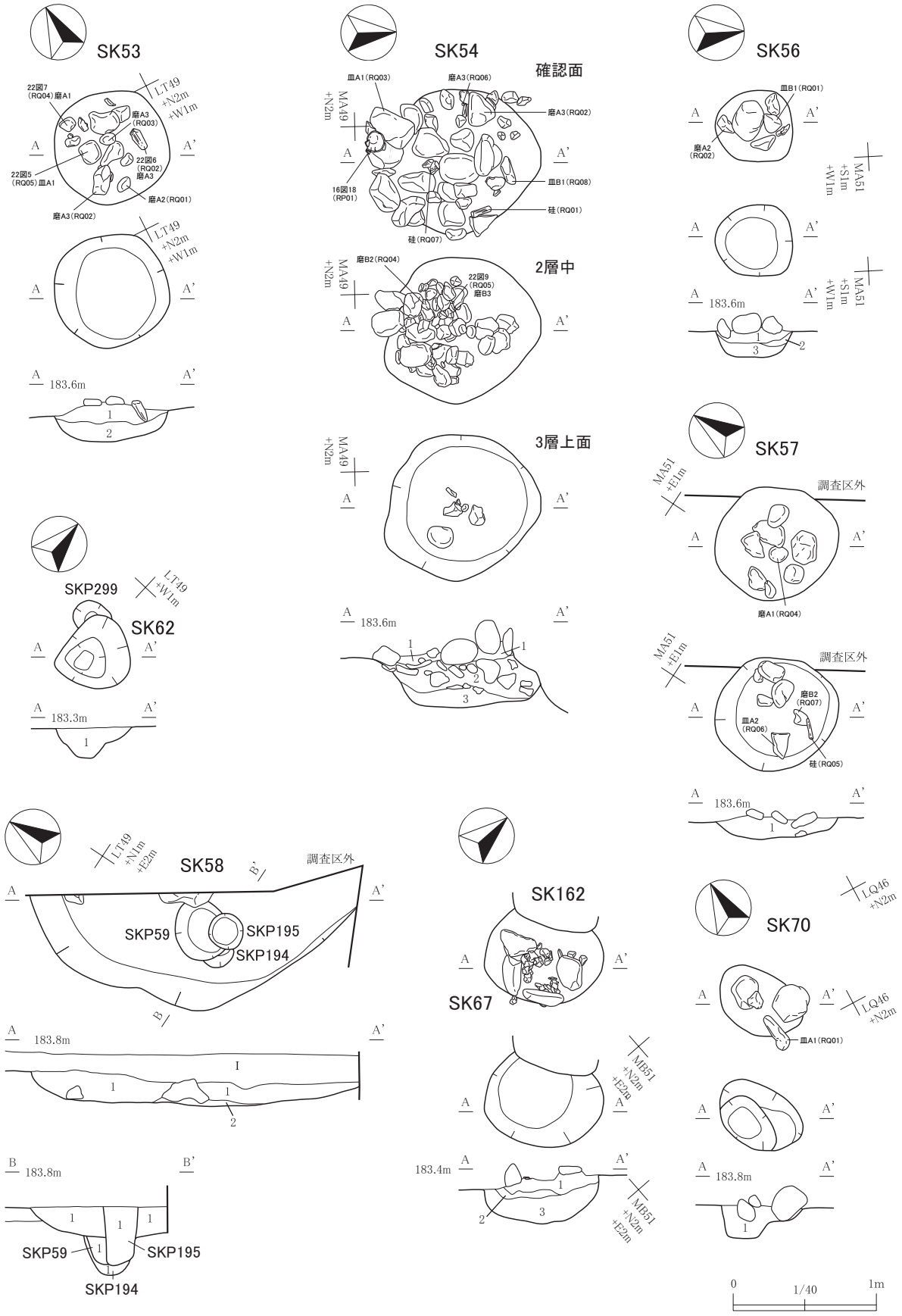
［時期］柱穴内出土の土器から、縄文時代後期中葉以降に帰属するものと考えられる。

４　柱穴様ピット

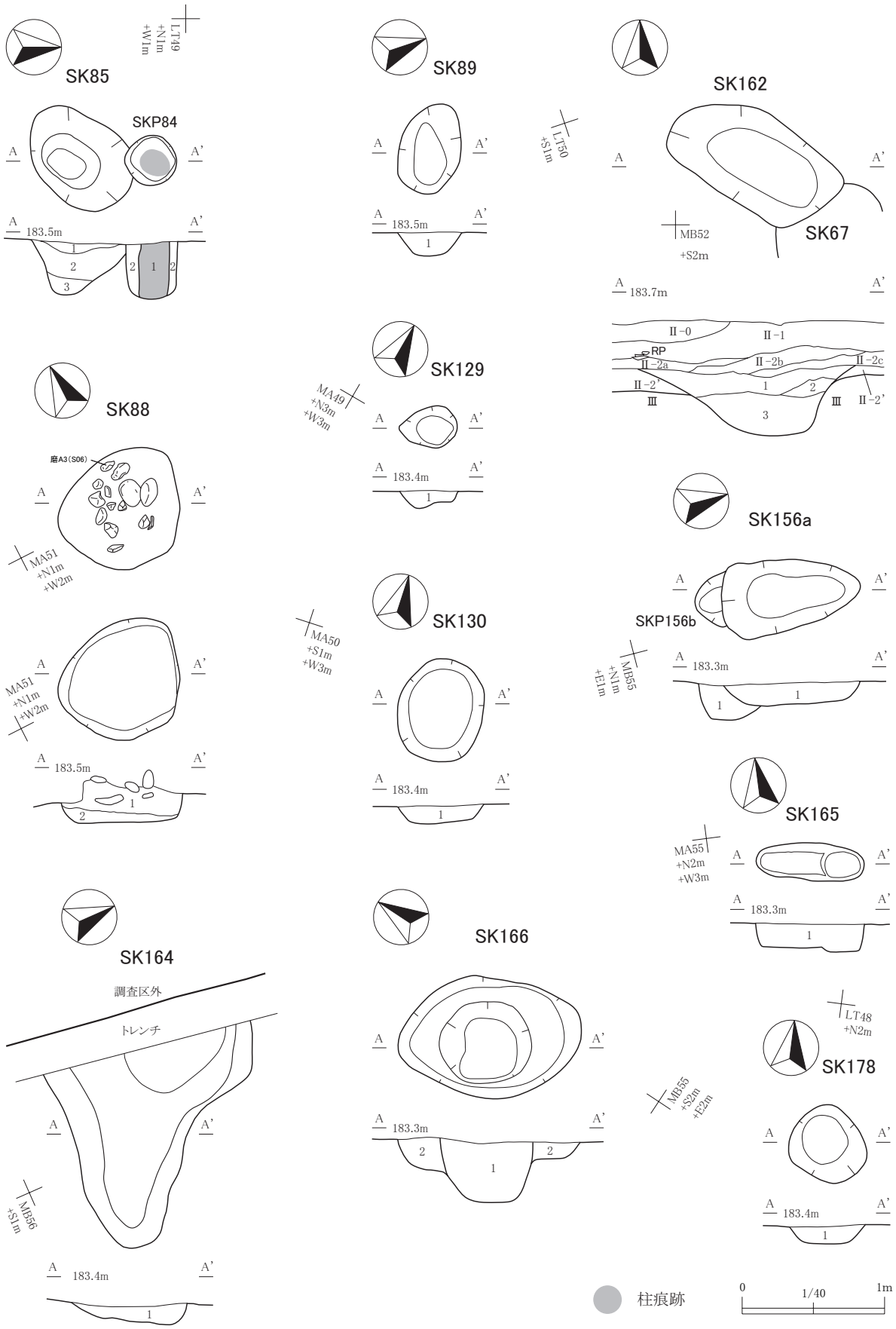
柱穴様ピットは調査区全域において214基検出した。柱穴様ピットの調査方法は、検出段階で柱痕跡の確認できたものは平面図と断面図を作成し、他は半截した後に土層を観察・記録し、平面図のみ作成した。第15図には柱痕跡や特異な遺物出土状況を確認したものを中心に掲載した。柱穴様ピット個々の位置・規模・出土遺物等については第３～５表に、土層については第７～９表に一覧を掲載した。



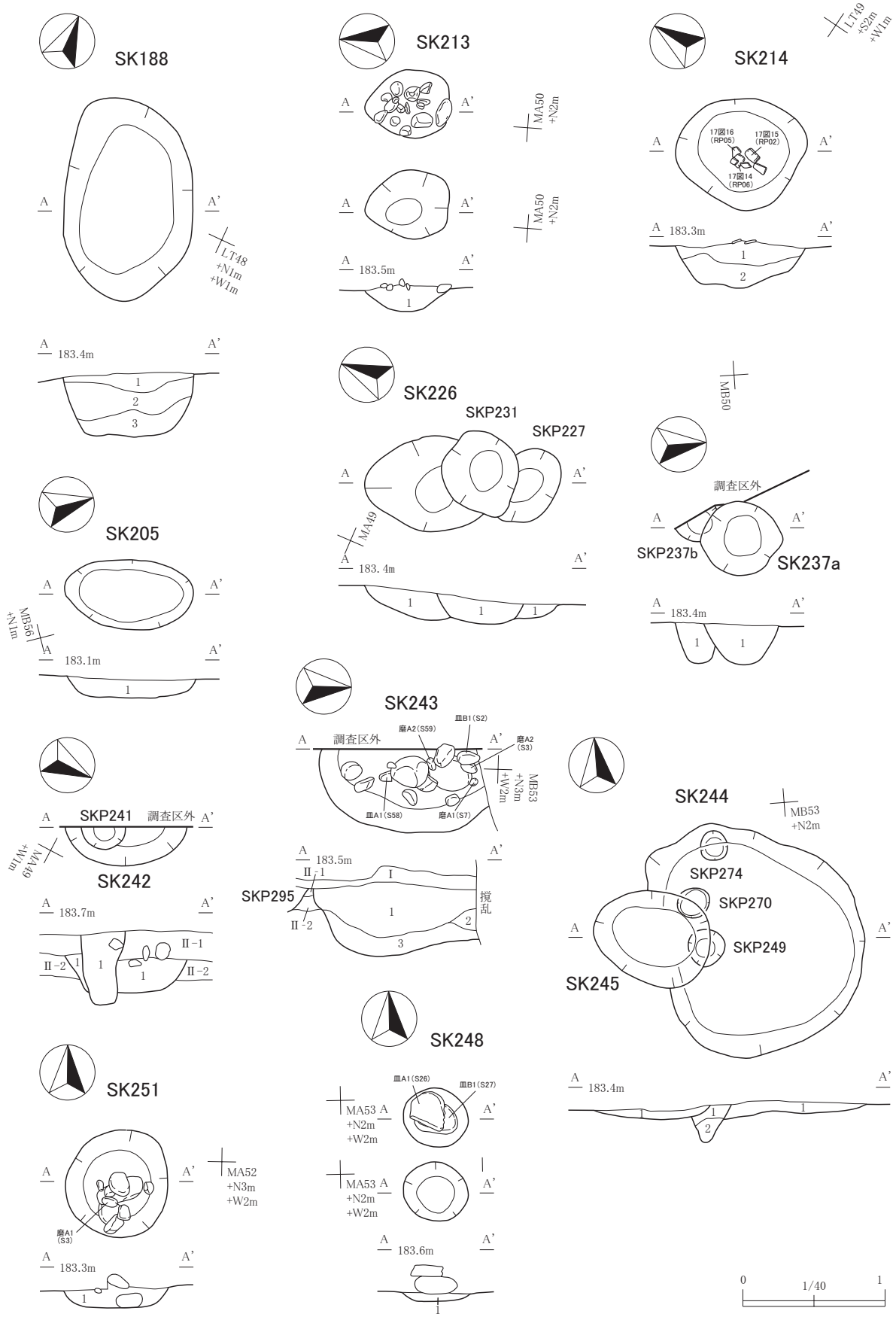
第８図　土坑（１）　SK11・12・13ａ・14ａ・14ｂ・15・24・30ａ・39ａ・43・71・83



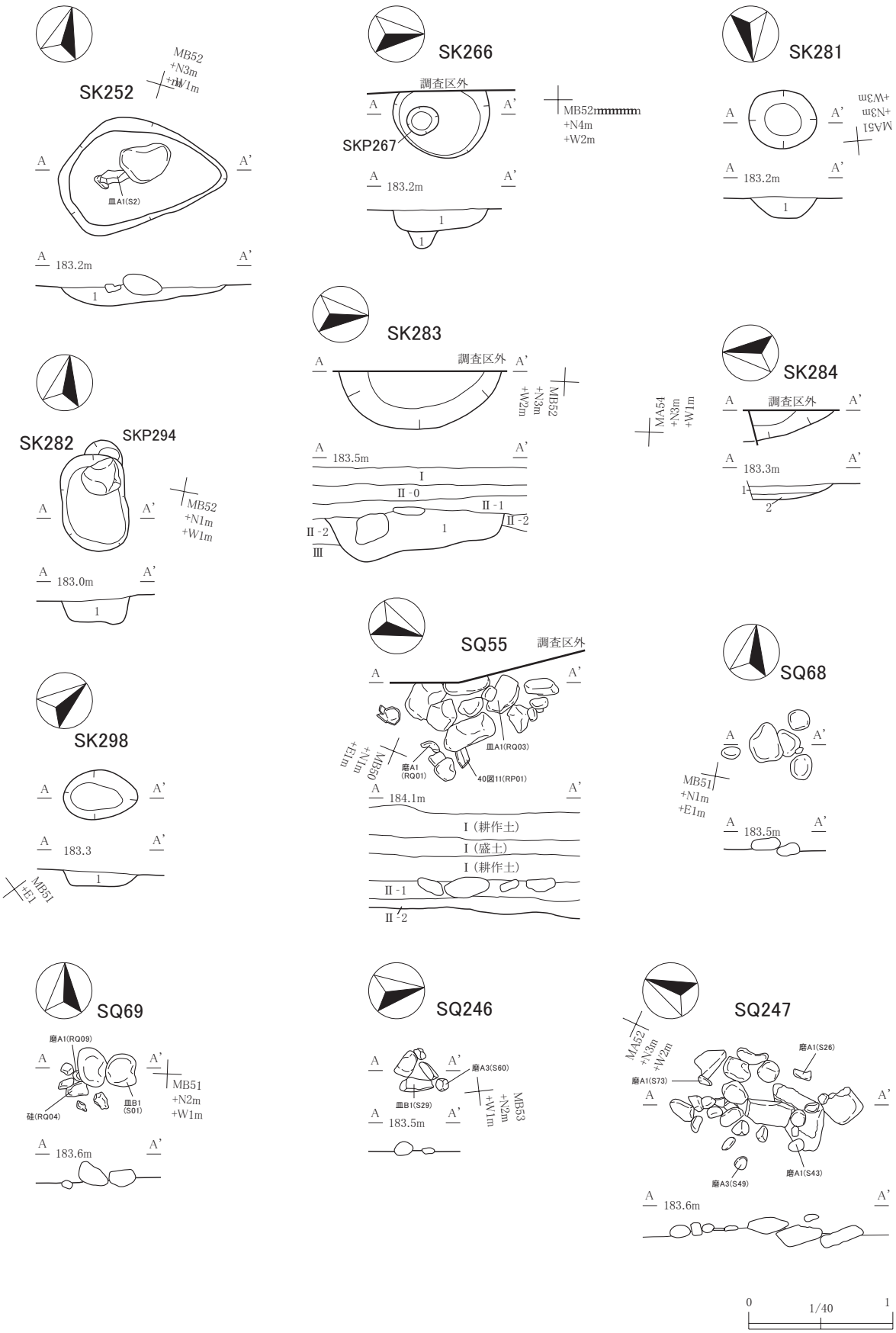
第９図　土坑（２）　SK53・54・56・57・58・62・67・70



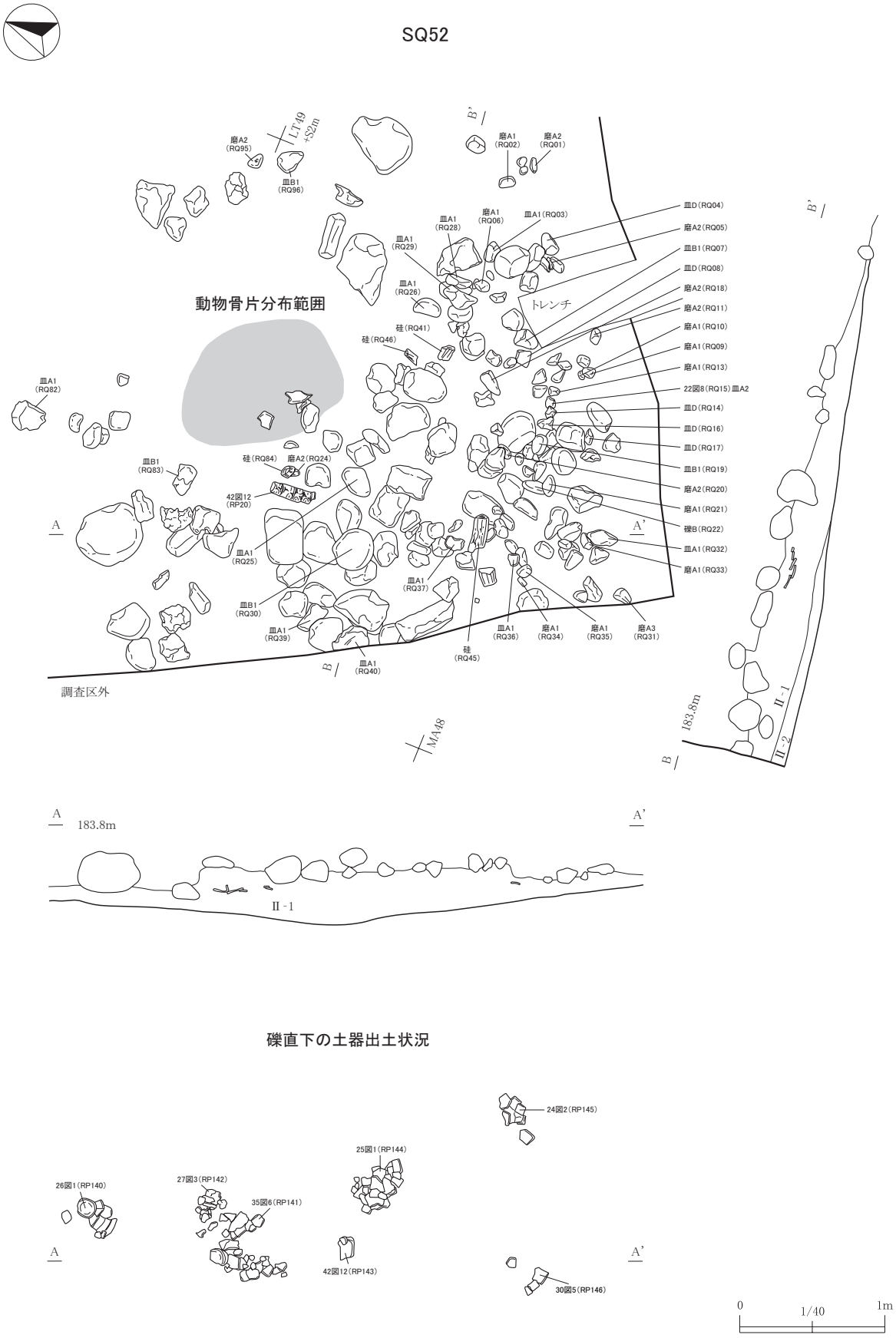
第10図　土坑（３）　SK85・88・89・129・130・156ａ・162・164・165・166・178



第11図　土坑（４）　SK188・205・213・214・226・237・242・243・244・245・248・251

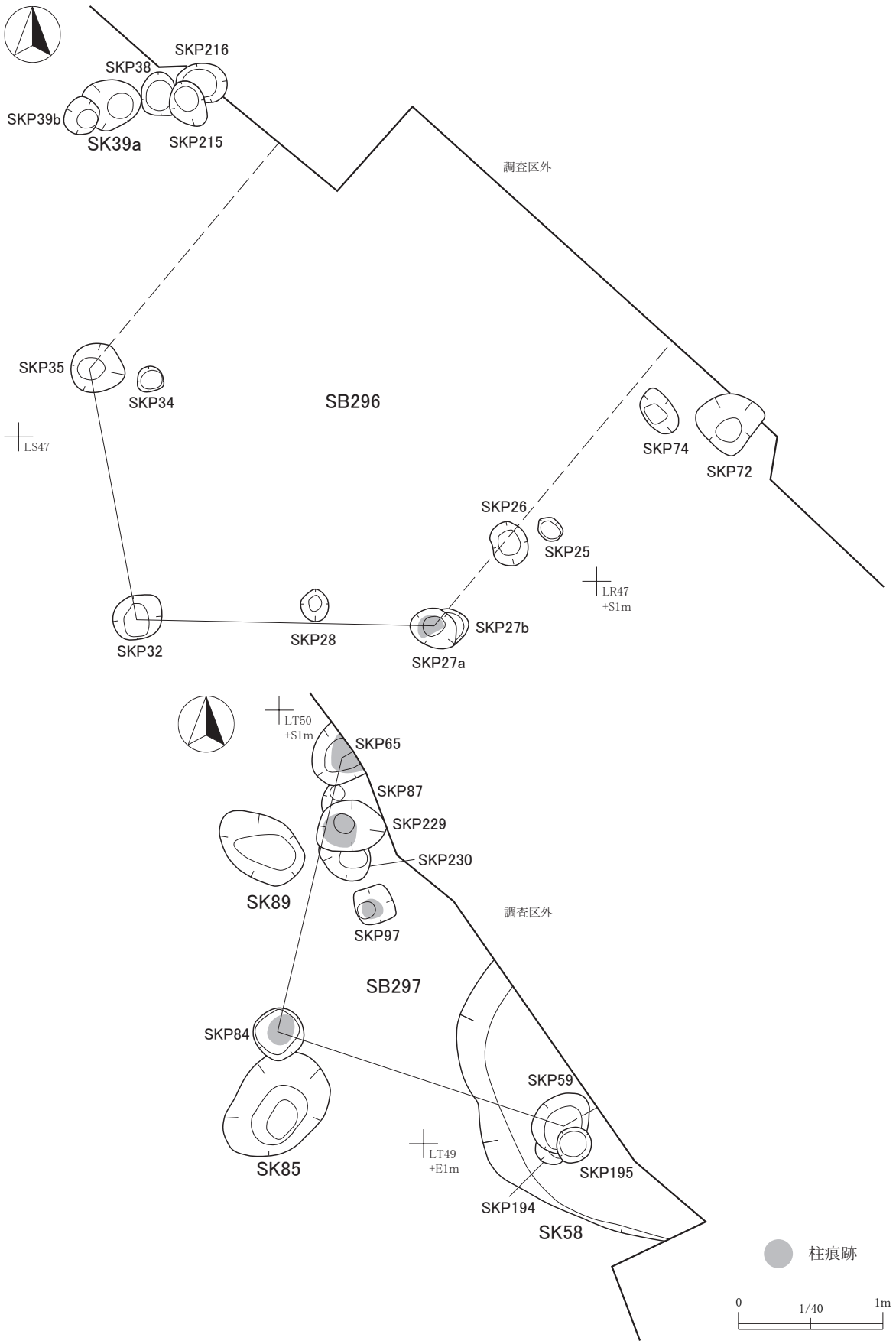


第12図　土坑（５）　SK252・266・281・282・283・284・298　配石遺構（１）　SQ55・68・69・246・247

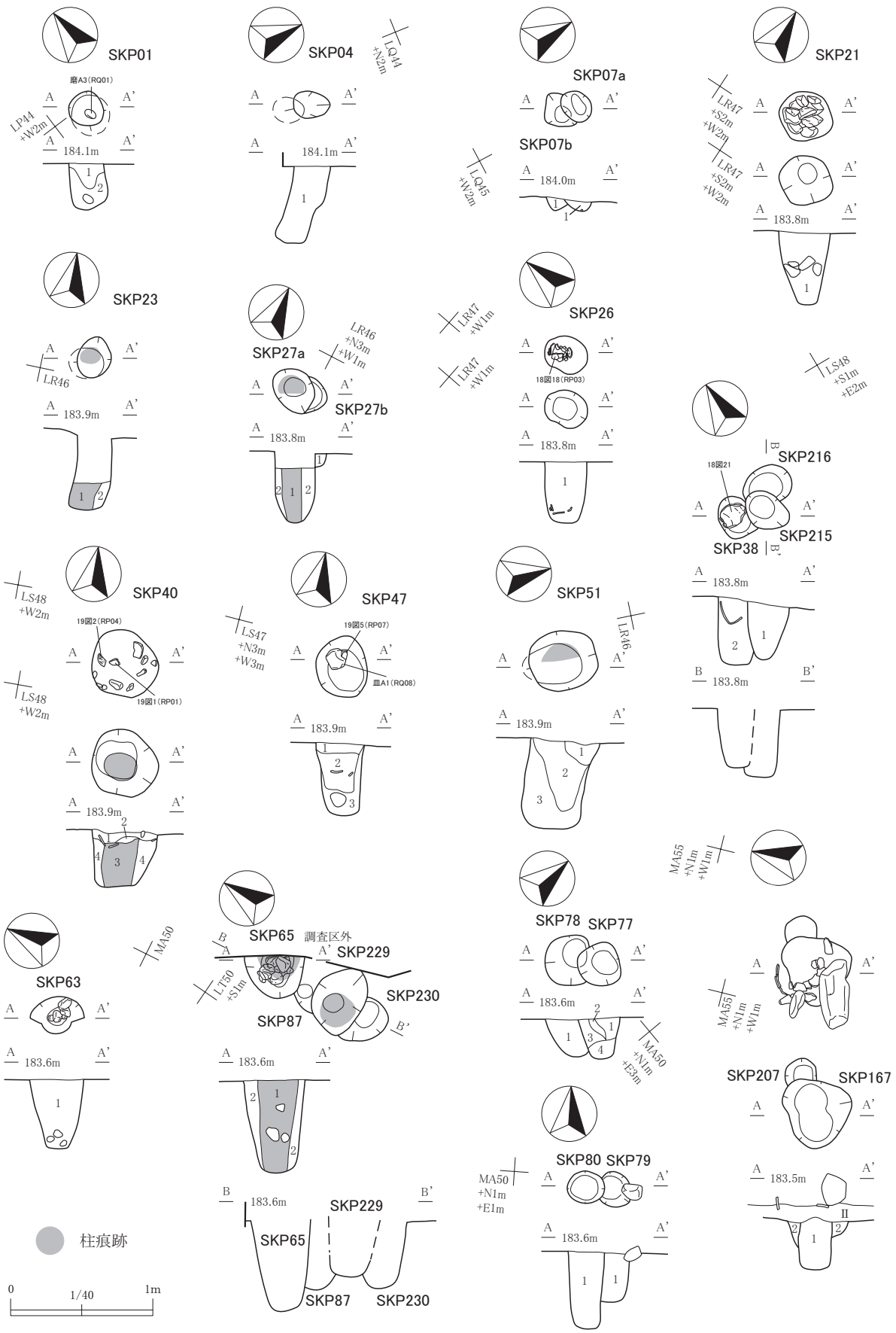


礫直下の土器出土状況

第13図　配石遺構（２）　SQ52



第14図　掘立柱建物跡　ＳＢ296・297


SKP01
SKP04
SKP07a
SKP07b
SKP21
SKP23
SKP27a
SKP27b
SKP26
SKP216
SKP215
SKP38
SKP40
SKP47
SKP51
SKP63
SKP65
調査区外
SKP229
SKP230
SKP87
SKP78
SKP77
SKP80
SKP79
SKP207
SKP167
柱痕跡
0
1/40
1m

第15図　柱穴様ピット

第３表　柱穴様ピット一覧（１）

No.	グリッド	確認面	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	重複関係(新＞旧)	時期	出土遺物(点数)	挿図番号	出土遺物掲載位置
01	LP43・44	Ⅳ	24	24	38	183.650	－	晩期前葉以降	縄27、剥1、磨1	15図	18図11・12
02	LP44	Ⅳ	20	17	11	183.896	－	晩期以降	縄3		
03	LP44	Ⅳ	24	22	14	183.840	－	後期後葉以降	縄9		18図13
04	LP44	Ⅳ	25	20	58	183.456	－	晩期初頭	縄7	15図	18図14・15
05	LQ45	Ⅳ	21	20	9	183.636	－	後期中葉以降	縄1		18図16
06	LQ45	Ⅳ	26	25	32	183.412	－	晩期前葉以降	縄21、核1		18図17、21図8
07a	LQ45	Ⅳ	24	20	36	183.517	SKP07a＞SKP07b	不明	縄3、剥2、棒1	15図	
07b	LQ45	Ⅳ	28	(26)	11	183.769	SKP07a＞SKP07b	不明		15図	
08	LQ45	Ⅳ	22	20	10	183.747	－	不明	縄8、剥1		
09a	LQ45	Ⅳ	29	(22)	18	183.587	SKP09b＞SKP09a	後期中葉以降	縄12、磨1		
09b	LQ45	Ⅳ	32	18	14	183.611	SKP09b＞SKP09a・41	不明			
10	LQ45	Ⅳ	21	18	14	183.572	－	不明	縄4		
13b	LQ45	Ⅳ	38	34	41	183.357	SK13a＞SKP13b	不明		8図	
14c	LQ45・46	Ⅳ	37	34	45	183.244	SK14a＞SKP14c	不明		8図	
16	LR45	Ⅳ	20	18	12	183.742	－	不明	縄4		
17	LR45	Ⅳ	24	20	19	183.665	－	不明	縄2		
18	LR45	Ⅳ	17	16	8	183.896	－	不明	縄4、剥2		
19	LR45	Ⅳ	22	20	12	183.774	－	不明	縄1		
21	LR46	Ⅳ	38	35	47	183.250	－	不明	縄16、剥1、皿3、磨3	15図	
22	LR46	Ⅳ	28	27	47	183.232	－	不明	縄9、剥1		
23	LQ45・46	Ⅳ	29	23	53	183.228	－	不明	縄21、剥2	15図	
25	LR46	Ⅳ	18	15	19	183.462	－	不明	縄5、核1		21図9
26	LR46	Ⅳ	31	25	43	183.243	－	晩期	縄76、剥1、硅1	15図	18図18
27a	LR46	Ⅳ	34	26	49	183.205	SKP27a＞SKP27b	晩期	縄20、剥3	15図	18図19
27b	LR46	Ⅳ	(28)	26	9	183.620	SKP27a＞SKP27b	不明		15図	
28	LR46	Ⅳ	22	19	11	183.605	－	不明	縄1		
29	LR46	Ⅳ	20	20	21	183.570	－	後期後葉以降	縄10、鏃1、剥2		18図20、21図10
30b	LR46	Ⅳ	(27)	19	－	－	SK30a＞SKP30b	不明		8図	
31	LR46	Ⅳ	22	20	24	183.657	－	晩期以降	縄22、磨1		
32	LR46	Ⅳ	37	32	32	183.434	－	晩期以降	縄6、剥1		
34	LR47	Ⅳ	20	19	7	183.647	－	不明			
35	LR47	Ⅳ	38	35	45	183.276	－	不明	縄27、剥3		
37	LS46	Ⅳ	20	16	18	183.718	－	不明	縄4、剥1		
38	LR47	Ⅳ	30	22	41	183.201	SKP215＞SKP38	後期後葉	縄9	15図	18図21
39b	LR47	Ⅳ	26	23	14	183.592	SK39b＞SK39a	不明		8図	
40	LS47	Ⅳ	49	47	41	183.369	－	後期中葉	縄48、不1、剥2、硅1	15図	18図22・23、19図１・２
41	LQ45	Ⅳ	27	18	30	183.429	SKP09b＞SKP41	不明	縄8、剥1		
42	LQ46	Ⅳ	56	52	46	183.179	SK14a＞SKP42	晩期中葉以降	縄17、硅1	8図	19図3
44	LP・LQ45	Ⅳ	26	22	12	183.475	－	不明	縄7		
47	LS47	Ⅳ	43	37	53	183.261	－	晩期中葉	縄110、剥3、皿1、磨1、硅2	15図	19図4・5
49	LS48	Ⅳ	40	32	61	183.073	－	不明	縄24、匙1、剥1		21図11
51	LQ45	Ⅳ	49	40	62	183.186	－	後期中葉以降	縄68、不1、剥1、核1、磨1、硅2	15図	21図12
59	LS49	SK58底面	(42)	34	34	183.007	SK58、SKP195＞SKP59＞SKP194	後期中葉以降	縄34、磨1	9図	19図6・7
61	LT48	Ⅲ	24	20	19	183.130	－	後期前葉以降	縄8		19図8
63	MA50	Ⅲ	37	25	49	182.990	－	晩期以降	縄16、不1、剥1、磨2、錘1	15図	19図9、21図13、22図10
64	MA49	Ⅲ	23	22	19	182.953	－	後期前葉以後	縄13		19図10・11
65	LS49	Ⅲ	(54)	41	63	182.840	SKP65＞SKP87	後期中葉以降	縄18、皿2、磨4	15図	19図12・13
66	MA50	Ⅲ	29	27	19	183.215	－	不明	縄1		
72	LQ46・47	Ⅳ	46	43	31	183.276	－	不明			
73	LQ46	Ⅳ	42	36	17	183.434	SK24＞SKP73か	不明	縄3、剥1	8図	
74	LQ47	Ⅳ	34	22	33	183.268	－	不明			
76	LT50	Ⅲ	28	23	15	183.368	－	不明	縄3		
77	LT50	Ⅲ	32	32	30	183.208	SKP77＞SKP78	不明		15図	
78	LT50	Ⅲ	38	(34)	28	183.228	SKP77＞SKP78	後期前葉以降	縄7	15図	19図14
79	LT50	Ⅲ	26	24	35	183.138	SKP80＞SKP79	後期中葉以降	縄13、剥1	15図	19図15
80	LT50	Ⅲ	26	23	54	182.948	SKP80＞SKP79	後期中葉以降	縄26、剥2	15図	19図16
81	LT50	Ⅲ	26	21	31	183.180	－	後期中葉以降	縄18、不1、剥1		19図17
82	LQ46	Ⅳ	60	46	36	183.193	SK43＞SKP82＞SK71	晩期中葉以降	縄37、剥1、硅1	8図	19図18
84	LS・LT49	Ⅲ	37	35	41	183.040	SKP84＞SK85	後期中葉以降	縄22、匙1、磨1、硅1	10図	19図19・20、22図1
86	LT49	Ⅲ	22	20	21	183.195	－	後期前葉以降	縄21		19図21
87	LS49	Ⅲ	(50)	(42)	49	182.979	SKP65・229＞SKP87	不明	縄18、磨1	15図	
90	LT49	Ⅲ	17	14	－	－	－	不明	縄3、剥1		
91	LT49	Ⅲ	20	14	27	183.159	－	不明	縄6、硅1		
92	LT49	Ⅲ	22	20	21	183.195	－	不明	縄11、剥1		
93	LT47	Ⅳ	37	30	19	183.262	－	不明	縄11		
94	MA50	Ⅱ-1	26	24	23	183.076	－	不明			
95	MA50	Ⅱ-1	40	38	9	183.212	－	不明			
96	MA50	Ⅱ-1	33	(30)	19	183.086	－	不明			
97	LS49	Ⅲ	32	30	30	183.154	－	不明			
98	LS48	Ⅲ	32	30	40	183.065	－	不明			
99a	LS48	Ⅲ	(24)	(18)	36	183.089	SKP99a＞SKP99b＞SKP99c＞SKP100か	不明			
99b	LS48	Ⅲ	(38)	(37)	28	183.169	SKP99a＞SKP99b＞SKP99c＞SKP100か	不明			
99c	LS48	Ⅲ	(32)	(24)	28	183.170	SKP99a＞SKP99b＞SKP99c＞SKP100か	不明			
100	LS48	Ⅲ	50	38	25	183.161	SKP99a＞SKP99b＞SKP99c＞SKP100か	不明	縄25、硅1		

第４表　柱穴様ピット一覧（２）

No.	グリッド	確認面	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	重複関係(新＞旧)	時期	出土遺物(点数)	挿図番号	出土遺物掲載位置
102	LS・LT49	Ⅲ	16	15	34	183.113	－	不明	縄2		
103	LT49	Ⅲ	18	17	20	183.216	－	不明			
104	LT49	Ⅲ	26	24	27	183.148	－	不明	縄15、剥2、磨1		
105	LT49	Ⅲ	20	19	11	183.299	－	不明	縄9		
106	LT49	Ⅲ	15	8	15	183.250	－	後期中葉以降	縄2		
107	LT49	Ⅲ	21	20	27	183.140	－	不明	縄11、剥1		20図17
108	LT49	Ⅲ	12	11	21	183.128	－	不明	縄2		
109	LT49	Ⅲ	28	22	25	183.188	－	後期中葉以降	縄8		19図22
110	MA56	Ⅳ	20	20	40	182.650	－	不明			
111	MA56	Ⅳ	35	28	24	182.800	－	不明	縄1、磨2		
112	MA56	Ⅳ	(21)	20	52	182.356	SKP113＞SKP112	不明			
113	MA56	Ⅳ	23	22	29	182.845	SKP113＞SKP112	不明			
122	MB56	Ⅳ	(37)	34	31	182.670	－	不明	硅2、皿1、磨1		
123	LS48	Ⅲ	43	41	23	183.130	－	不明			
124	LS48	Ⅲ	40	40	29	183.055	SKP235＞SKP124か	不明			
125	LS48	Ⅲ	50	30	33	182.996	SKP171＞SKP125か	不明			
126	MA49	Ⅲ	(28)	(26)	14	183.183	－	不明	縄1、剥1		
131	LT49	Ⅲ	38	33	14	183.191	－	不明	磨1		
133	MA49	Ⅲ	12	12	9	183.148	－	不明	縄3、硅1		
135	MA49	Ⅲ	10	8	5	183.183	－	不明	縄2		
136	MA49	Ⅲ	16	14	13	183.112	－	不明			
137	MA50	Ⅲ	23	14	23	183.095	－	晩期以降	縄10		19図23
138	MA50	Ⅲ	18	13	15	183.109	－	不明	縄2		
139	MA51	Ⅲ	16	14	35	182.837	－	不明	剥1		
140	MA51	Ⅲ	18	18	6	183.065	－	不明			
141	MA51	Ⅲ	13	11	14	182.971	－	不明			
142	MA51	Ⅲ	10	10	14	182.973	－	不明			
143	MA51	Ⅲ	23	21	39	182.706	－	不明			
144	MA50	Ⅲ	22	17	25	183.148	－	後期後葉以降	縄12		19図24
145	MA50	Ⅲ	18	12	9	183.118	－	不明			
146	MA51	Ⅲ	15	14	11	183.044	－	不明	縄2		
147	MB51	Ⅲ	19	19	18	182.878	－	不明			
148	MB51	Ⅲ	23	19	37	182.711	SKP148＞SKP192	不明	縄1		
149	MB50	Ⅲ	20	14	15	183.071	－	不明			
150	MB50	Ⅲ	37	23	13	183.077	－	不明			
151	MA51	Ⅲ	13	13	7	183.040	－	不明			
152	MA50	Ⅲ	16	15	9	183.218	－	不明	磨1		
153	MA50	Ⅲ	21	21	10	183.106	－	不明			
154	MA55	Ⅲ	40	38	43	182.776	－	後期中葉以降	縄9、磨1		19図25
155	MA55	Ⅲ	29	20	47	182.699	－	不明			
156b	MA55	Ⅲ	(39)	(34)	24	182.940	SK156a＞SKP156b	不明		10図	
157	MA56	Ⅲ	(62)	64	26	182.747	－	不明			
158	MA55	Ⅲ	41	31	38	182.838	－	不明			
159	MA55	Ⅲ	28	27	39	182.837	－	不明			
163	MA54	Ⅲ	46	45	25	182.968	－	不明	縄3、剥1		
167	MA54・55	Ⅲ	48	47	32	182.887	SKP167＞SKP207	不明		15図	
169	MA55	Ⅲ	36	32	11	183.053	－	不明	縄1		
170	MA55	Ⅲ	24	20	14	183.018	－	後期中葉	縄38、剥1		19図26～28
171	LS・LT48	Ⅲ	37	33	18	183.130	SKP171＞SKP125か	不明	縄2		
172	LS48	Ⅲ	29	27	21	183.152	－	不明	縄6		
173	LS48	Ⅲ	16	15	12	183.212	－	不明			
174	LT48	Ⅲ	50	44	16	183.152	SK174＞SK175	不明			
175	LS・LT48	Ⅲ	47	(34)	22	183.091	SK174＞SK175	不明	縄19		
176	LT48	Ⅲ	(34)	23	23	183.062	SKP234＞SKP177＞SKP176	不明	縄2		
177	LT48	Ⅲ	40	(28)	17	183.130	SKP234＞SKP177＞SKP176	不明	縄1		
181	LT48	Ⅲ	31	28	25	183.038	－	不明			
184	LT48	Ⅲ	(28)	21	12	183.254	SKP185＞SKP184＞SKP222か	不明	縄1		
185	LT48	Ⅲ	32	28	10	183.221	SKP185＞SKP184か	後期前葉以降	縄16		19図29
186	LT48	Ⅲ	14	11	19	183.127	－	不明	縄9		
187	LT48	Ⅲ	14	10	8	183.121	－	不明			
191	LT50	Ⅲ	19	13	17	183.256	－	不明			
192	MB51	Ⅲ	(31)	22	33	182.748	SKP148＞SKP192	不明			
193	MA50	Ⅲ	24	14	20	183.201	－	後期中葉以降	縄5		19図30
194	LS48	Ⅲ	(23)	(20)	21	183.140	SK58、SKP59・195＞SKP194	不明		9図	
195	LS48・49	Ⅲ	24	24	20	183.140	SKP195＞SK58、SKP59・194	不明		9図	
196	MA49	Ⅲ	24	18	24	183.026	－	不明	縄2		
197	MA54	Ⅲ	24	18	26	182.924	－	不明			
198	MA54	Ⅲ	28	26	16	183.048	－	不明	縄3		
199	MA56	Ⅲ	37	28	14	182.979	－	不明			
200	MA55	Ⅲ	48	47	22	182.982	－	後期中葉	縄20		20図1・2
202	MA55	Ⅲ	(50)	41	15	183.181	－	不明	縄8、剥1		19図25
203	MA55	Ⅲ	36	30	32	182.854	－	不明			
204	MA56	Ⅲ	57	34	40	182.812	－	不明	縄3、不1		
206	MA56	Ⅳ	44	24	31	182.758	－	不明			

第５表　柱穴様ピット一覧（３）

No.	グリッド	確認面	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	重複関係(新＞旧)	時期	出土遺物(点数)	挿図番号	出土遺物掲載位置
207	MA55	Ⅳ	(27)	22	16	183.069	SKP167＞SKP207	不明		15図	
208	MA54	Ⅲ	35	33	39	182.826	－	不明			
209	MB54	Ⅲ	42	40	27	182.748	－	不明			
211	LT48	Ⅲ	26	22	14	183.118	－	晩期以降	縄2		20図3
212	LS48	Ⅲ	16	11	37	182.955	－	不明			
215	LR47	Ⅳ	34	24	39	183.205	SKP215＞SKP38・216	不明		15図	
216	LR47	Ⅳ	35	26	47	183.129	SKP215＞SKP216	後期中葉以降	縄12、核1	15図	18図21、20図4、22図2
217	LT50	Ⅲ	29	20	27	183.116	－	不明			
218	LT49	Ⅲ	28	24	31	183.054	－	不明			
221	LT48	Ⅲ	24	20	18	183.046	－	不明			
222	LT48	Ⅲ	(20)	18	7	183.326	SKP184＞SKP222か	不明			
223	LT48	Ⅲ	26	24	24	182.914	－	不明	縄1		
225	LT50	Ⅲ	20	16	12	183.210	－	不明	縄1		
227	LT48	Ⅲ	58	(39)	10	183.018	SK231＞SK226、SKP227か	不明		11図	
228	MB50	Ⅲ	(41)	(34)	15	183.102	－	不明			
229	LS49	Ⅲ	47	35	40	183.062	SKP229＞SKP87・230	不明		15図	
230	LS49	Ⅲ	37	(28)	45	183.005	SKP229＞SKP230	不明		15図	
231	LT48	Ⅲ	63	53	21	183.023	SK231＞SK226、SKP227か	不明		11図	
233	LT47	Ⅲ	25	22	13	183.227	－	不明			
234	LT48	Ⅲ	26	21	－	－	SKP234＞SKP177＞SKP176	不明			
235	LS48	Ⅲ	49	35	15	183.191	SKP235＞SKP124か	不明			
236	LT49	Ⅲ	32	30	26	183.144	－	不明	縄7		
237b	MA49	Ⅲ	(37)	(32)	27	183.055	SK237a＞SKP237b	後期中葉以降	縄3、硅1	11図	20図5
238	LT48	Ⅲ	35	32	20	182.918	－	不明			
241	MA49	Ⅲ	(31)	30	12	183.098	SKP241＞SK242	後期中葉以降	縄8	11図	20図6
249	MB53	Ⅱ-1	26	25	16	183.038	SK245＞SKP249＞SK244	不明		11図	
250	MA・MB53	Ⅱ-1	40	37	6	183.225	－	後期中葉以降	縄5		
253	MA52	Ⅲ	22	19	19	182.986	－	不明	縄2		
254	MA52	Ⅲ	16	12	9	183.081	－	不明	縄1		
255	MA52	Ⅲ	12	11	11	183.061	－	後期前葉以降	縄8		20図7
256	MA52	Ⅲ	24	24	11	182.995	－	不明	縄22		20図8
257	MB52	Ⅲ	19	19	19	182.887	－	不明	縄7		
258	MA52	Ⅲ	15	15	10	183.156	－	不明			
259	MA51	Ⅲ	20	16	11	183.100	－	不明			
260	MA51	Ⅲ	18	15	23	183.019	－	不明	縄1		
261	MA52	Ⅲ	27	(24)	12	182.893	SKP262＞SKP261	不明	剥1		
262	MA52	Ⅲ	25	23	12	182.890	SKP262＞SKP261	不明			
263	MB52	Ⅲ	27	24	10	182.872	－	不明			
264	MB52	Ⅲ	39	28	25	182.725	－	不明	縄6		
265	MB52	Ⅲ	16	13	10	182.955	－	不明			
267	MB52	Ⅲ	30	20	17	182.750	SK266＞SKP267	後期中葉以降	縄8、孔1、硅1	12図	20図9、22図12
268	MB52	Ⅲ	28	26	10	182.890	－	不明			
269	MA52	Ⅲ	22	16	17	183.059	－	不明			
270	MB53	Ⅲ	24	22	19	182.901	SK245＞SK244＞SKP270	後期中葉以降	縄7	11図	20図10
271	MA52・53	Ⅲ	23	20	46	182.846	－	後期中葉以降	縄15、不1、剥4		20図11～13
272	MA53	Ⅲ	21	20	9	183.152	－	不明			
273	MA53	Ⅲ	28	28	9	183.045	－	不明			
274	MB53	Ⅲ	20	19	19	182.908	SK244＞SKP270・274	不明		11図	
275	MB53	Ⅲ	20	17	26	182.880	－	不明	縄4、磨1		
276	MA53	Ⅲ	18	17	14	183.028	－	後期中葉以降	縄2		
277	MA・MB53	Ⅲ	13	10	11	183.035	SKP250＞SKP277・278	不明			
278	MB53	Ⅲ	27	24	11	183.040	SKP250＞SKP277・278	後期中葉以降	縄11、剥1		20図14
279	MB53	Ⅲ	14	12	13	183.025	－	不明			
280	MA54	Ⅲ	18	18	11	183.051	－	不明	縄1		
285	MA54	Ⅲ	26	22	11	183.041	－	不明			
286	MA54	Ⅲ	24	20	24	182.923	－	不明	縄8、剥1		
287	MA54	Ⅲ	22	21	19	183.000	－	不明	縄14、剥2、皿1		
288	MA53	Ⅲ	46	37	23	182.945	－	不明	縄9		
289	MA54	Ⅲ	(24)	(18)	7	182.965	－	不明	縄6、剥1		
290	MB53・54	Ⅲ	32	27	17	182.985	－	不明			
291	MB54	Ⅲ	(38)	(23)	18	182.886	－	不明	縄1、磨4		
292	MB51	Ⅲ	28	25	11	182.790	－	不明			
293	MB51	Ⅲ	32	32	13	182.795	－	不明			
294	MB52	Ⅲ	(26)	26	26	182.642	SK282＞SKP294	後期前葉以降	縄1、硅1	12図	20図15
295	MB53	Ⅲ	48	(42)	23	183.120	－	不明			
299	LT48	Ⅲ	(28)	(22)	－	－	SK62＞SKP299	不明		9図	

柱穴様ピット一覧凡例

※1　「長径」・「短径」が切り合いなどにより不明の場合、(　)内に推定値を示した。
※2　「深さ」・「底面標高」が記録漏れにより不明の場合、「－」で示した。
※3　「出土遺物」の種別については、以下のように漢字１文字で略した。
縄文土器：「縄」、石鏃：「鏃」、石匙：「匙」、不定形石器：「不」、剥片：「剥」、残核：「核」、石皿：「皿」、磨・凹石類：「磨」、石錘：「錘」、石棒：「棒」、有孔石製品：「孔」、硅化木：「硅」

第６表　遺構土層注記一覧（１）　土坑

略号	No.	層位	土色	記号	土性	粘性	締まり	混入物
SK	11	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径1～10㎜)5%、地山粒(径1㎜)3%
		2	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋	＋	炭化物粒(径2～10㎜)7%、地山粒・塊(径1～10㎜)2%
		3	暗褐色	10YR3/3	SiL	±	＋	炭化物粒(径1㎜)2%、地山土15%
SK	12	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径2～5㎜)3%、地山粒・塊(径2～10㎜)5%
		2	黒色	10YR2/1	SiL	＋	＋	炭化物塊(径10㎜～50㎜)10%、地山塊(径10～50㎜)25%
		3	黒色	10YR2/1	SiL	±	＋	炭化物粒(径1～2㎜)2%、地山粒(径1～2㎜)2%
		4	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1㎜以下)1%、地山塊(径5～10㎜)40%
SK	13a	1	オリーブ黒色	5Y3/1	SiL	＋	＋	炭化物粒(径5㎜)5%
		2	黒褐色	2.5Y3/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径5㎜)5%
		3	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	＋＋	炭化物粒(径1～5㎜)、地山塊(径5～10㎜)15%
		4	オリーブ褐色	2.5Y4/3	L	±	＋	地山塊(径5～10㎜)50%
		5	－	－	－	(－)	(－)	－
SK	14a	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋＋	＋	炭化物粒(径1～5㎜)3%
		2	黒褐色	10YR3/1	L	±	＋＋	炭化物粒(径10㎜)5%、地山塊(径30㎜)40%
		3	黄褐色	2.5Y5/3	L	±	±	なし
		4	黒褐色	2.5Y3/1	L	±	＋	炭化物塊(径10～20㎜)10%、地山塊(径20㎜以下)15%
		5	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋＋＋	炭化物粒(径1㎜)5%
		6	暗青灰色	5BG4/1	L	－	＋	黒褐色土塊5%
SK	14b	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SK	15	1	灰色	5Y4/1	L	±	＋＋	炭化物粒(径5㎜)2%、地山塊(径2～10㎜)40%
		2	オリーブ黒色	5Y3/1	SiL	＋＋	±	地山粒(径5㎜)3%
		3	灰色	5Y4/1	L	＋	＋＋	炭化物粒(径1㎜)1%
SK	24	1	黒褐色	10YR3/1	L	±	＋	炭化物粒(径1～2㎜)5%、炭化物塊(径5㎜)2%、小礫(径20㎜)微量
		2	灰黄褐色	10YR4/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒(径2～5㎜)20%
SK	30a	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋	＋	炭化物塊(径5～10㎜)15%、小礫(径10～20㎜)微量
		2	黒褐色	10YR2/3	L	＋	＋＋	地山塊(径10㎜)
SK	39a	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋＋	±	地山塊(径5～10㎜)5%
SK	43	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径1～2㎜)5%、小礫(径5～20㎜)2%
		2	暗緑灰色	10G3/1	SiL	±	－	炭化物粒(径5㎜大)5%、地山塊40%
SK	53	1	黒褐色	10YR2/3	L	－－	＋＋	炭化物粒・塊(径5～15㎜)5%
		2	黒褐色	10YR2/3	L	－－	＋＋	炭化物粒(径3～5㎜)3%
SK	54	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1㎜)5%
		2	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋＋	＋	炭化物粒(径5～10㎜)5%、地山粒(径5㎜)10%
		3	灰黄褐色	10YR4/2	L	＋	±	地山塊(径30㎜以下)20%
SK	56	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径5㎜)3%
		2	にぶい黄褐色	10YR4/3	SiC	＋＋	＋	なし
		3	にぶい黄褐色	10YR4/3	SiC	＋＋	＋	炭化物粒(径3㎜)1%
SK	57	1	黒褐色	10YR2/3	L	＋＋	＋	炭化物粒(径2㎜)3%
SK	58	1	黒色	10YR2/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径5㎜)10%
		2	－	－	－	(－)	(－)	－
SK	62	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	＋	炭化物粒(径2～5㎜)2%、地山塊(径10～20㎜)10%
SK	67	1	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	L	＋＋	＋＋＋	なし
		2	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋＋	＋	なし
		3	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋＋＋	＋＋	炭化物粒(径3㎜)1%未満
SK	70	1	オリーブ灰色	5GY5/1	SiL	＋	＋	なし
SK	71	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	＋＋	炭化物粒(径1㎜)1%、褐色土(10YR4/3)10%
		2	褐灰色	10YR4/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径１㎜以下)1%
SK	83	1	オリーブ黒色	10Y3/1	SiL	＋＋	±	地山塊(径50㎜以下)30%
SK	85	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径5㎜)5%
		2	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋＋	±	地山塊(径5㎜)5%
		3	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	±	なし
SK	88	1	黒褐色	10YR2/3	L	＋	＋	炭化物粒(径2㎜)5%
		2	黒褐色	10YR2/3	SiC	＋＋＋	＋	炭化物粒(径2㎜)3%
SK	89	1	暗褐色	10YR3/3	L	－－－	＋＋＋	地山粒(径20㎜)
		2	暗褐色	10YR3/3	L	－	＋	炭化物粒(径1㎜)1%
SK	129	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径10～30㎜)15%、地山塊(径40～50㎜)7%
SK	130	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径2～10㎜)7%、地山塊(径10㎜)10%
SK	156a	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋＋	＋	炭化物粒(径3㎜)1%、地山塊(径10㎜)3%
SK	162	1	黒色	10YR2/1	SiL	＋＋	＋＋	炭化物粒(径1～5㎜)3%
		2	灰黄褐色	10YR4/2	SiL	＋＋	＋	なし
		3	黒色	10YR1.7/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径1㎜)2%
SK	164	1	黒褐色	10YR2/3	L	－	＋＋	炭化物粒(径5㎜)7%、地山粒(径3㎜)1%
SK	165	1	黒褐色	10YR3/3	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径2㎜)1%
SK	166	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋＋＋	－－	炭化物粒(径5～20㎜)5%
		2	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋＋	＋＋	炭化物粒(径5～20㎜)1%
SK	178	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径3～5㎜)2%
SK	188	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋	炭化物粒(径3～10㎜)5%、地山塊(径5～10㎜)5%
		2	灰黄褐色	10YR4/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径3～5㎜)2%、地山塊(径10～30㎜)10%
		3	褐灰色	10YR4/1	SiL	＋＋	－	炭化物塊(径10～20㎜)5%
		4	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋	炭化物粒(径3～10㎜)7%
SK	205	1	黒褐色	10YR2/3	L	－－	±	炭化物粒(径3㎜)1%
SK	213	1	黒褐色	10YR2/3	L	＋＋	＋	炭化物粒(径2㎜)3%
SK	214	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	±	炭化物粒(径5～20㎜)3%、地山塊(径5～10㎜)5%
		2	灰黄褐色	10YR4/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径3～5㎜)2%、地山塊(径10～30㎜)10%
		3	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋	灰黄褐色土5%
SK	226	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	±	炭化物粒(径3～5㎜)2%
SK	237a	1	褐灰色	10YR4/1	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径5㎜以下)3%
SK	242	1	黒色	10YR2/2	SiL	＋＋	＋	炭化物粒(径5～10㎜)10%
SK	243	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋	＋＋	炭化物粒(径1～5㎜)2%、地山塊(径5～10㎜)1%
		2	黒褐色	10YR3/2	HC	＋＋＋	－－	なし
		3	灰赤色	7.5R4/2	SiC	＋＋	－	炭化物粒(径1～5㎜)2%、地山塊(径5～20㎜)5%
SK	244	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	＋	炭化物粒(径1～5㎜)2%
SK	245	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	±	炭化物粒(径1～5㎜)1%
SK	248	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	－	＋	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山塊(径3～10㎜)10%
SK	251	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	±	炭化物粒(径1～5㎜)3%、地山塊(径1～10㎜)1%
SK	252	1	黒褐色	10YR2/2	SiC	＋＋	－	炭化物粒(径1～5㎜)2%、地山塊(径5～20㎜)5%
SK	266	1	黒褐色	10YR3/2	HC	＋＋	±	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山塊(径5～10㎜)5%
SK	281	1	黒褐色	10YR2/2	SiCL	＋＋	＋	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)2%

第７表　遺構土層注記一覧（２）　土坑・柱穴様ピット

略号	№.	層位	土色	記号	土性	粘性	締まり	混入物
SK	282	1	黒褐色	10YR3/1	SiC	＋＋	±	炭化物粒(径1～5㎜)2%、地山塊(径5～10㎜)2%
SK	283	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1～5㎜)2%、地山塊(径5～10㎜)1%
SK	284	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	－	炭化物粒(径1～3㎜)3%、地山粒(径1～5㎜)1%
		2	黒褐色	10YR3/1	SiC	＋	＋	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)1%
SK	298	1	黒褐色	10YR2/1	SiL	＋＋＋	＋	炭化物粒(径5㎜)3%
SKP	1	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋＋	＋＋＋	炭化物粒(径3㎜)5%
		2	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋	地山粒(径5㎜)5%
SKP	2	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋	＋	炭化物粒(径1㎜)5%、地山粒(径2～5㎜)10%
SKP	3	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径１～5㎜)5%、地山塊2%
SKP	4	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋	＋＋	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山塊(径30㎜)30%
SKP	5	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1～2㎜)3%、地山粒(径1～2㎜)5%
SKP	6	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径1～2㎜)2%、地山粒(径1～2㎜)3%
SKP	7a	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山塊(径5～10㎜)7%、小礫(径10～50㎜)10%
SKP	7b	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋＋	炭化物粒(径2～5㎜)3%、地山塊(径5～10㎜)10%
SKP	8	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1～2㎜)1%、地山粒(径2～5㎜)2%
SKP	9a	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径10～30㎜)20%、地山塊(径20～40㎜)30%
SKP	9b	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋＋	炭化物塊(径5～20㎜)7%、地山塊(径10～20㎜)10%
SKP	10	1	黒褐色	10YR2/1	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1㎜)2%、地山粒(径2～5㎜)10%
SKP	13b	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	14c	1	暗青灰色	5BG4/1	L	±	±	炭化物粒(径1～2㎜)1%、小礫(径5～10㎜)微量
SKP	16	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	±	炭化物粒(径2～5㎜)3%、地山塊(径10～30㎜)10%
SKP	17	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	±	炭化物粒(径2～5㎜)2%、地山塊(径10～30㎜)10%
SKP	18	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	＋	炭化物粒(径3～5㎜)2%、地山粒(径3～5㎜)3%、小礫(径30㎜)微量
SKP	19	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	±	炭化物塊(径5～10㎜)1%、地山塊(径5～20㎜)7%
SKP	21	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋＋	炭化物粒(径3～5㎜)3%、地山塊(径10～20㎜)40%
SKP	22	1	黒褐色	10YR3/3	SiL	＋＋	＋	炭化物粒(径1～10㎜)2%、地山塊(径10～20㎜)10%
SKP	23	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	＋	炭化物粒(径3～5㎜)2%、地山塊(径20㎜)30%
		2	暗緑灰色	7.5GY4/1	SiL	＋＋	－	なし
		3	暗青灰色	5BG4/1	SiL	＋	－	なし
SKP	25	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径1～2㎜)2%、地山塊30%
SKP	26	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋＋	＋	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山塊(径10～20㎜)7%
SKP	27a	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋＋	＋	炭化物粒(径3㎜)2%、地山塊(径10～30㎜)10%
		2	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	27b	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	28	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1～2㎜)3%、地山塊(径5～10㎜)5%、焼土粒(径1～2㎜)1%
SKP	29	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1～2㎜)1%、地山塊(径5～10㎜)2%
SKP	30b	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	31	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	±	炭化物粒(径2～5㎜)10%、地山粒(径3～5㎜)10%
SKP	32	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径3～5㎜)10%、地山塊(径10～20㎜)10%
SKP	34	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋＋	炭化物粒(径1～2㎜)5%、地山塊(径5～10㎜)2%
SKP	35	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1～2㎜)1%、地山塊(径5～10㎜)10%
SKP	37	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	＋	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山塊(径30～50㎜)20%
SKP	38	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	±	炭化物粒(径1～5㎜)2%
SKP	39b	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋	地山塊(径10～30㎜)15%
SKP	40	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径3㎜)5%
		2	暗褐色	10YR3/3	L	－	±	炭化物粒(径3㎜)5%
		3	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径1～3㎜)5%
		4	黒褐色	10YR2/3	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径5㎜)5%、地山塊(径15㎜以下)20%
SKP	41	1	暗緑灰色	7.5GY4/1	SiL	＋＋	－	炭化物粒(径3～5㎜)5%
SKP	42	1	暗緑灰色	5G3/1	SiL	＋＋	－－	なし
SKP	44	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1～2㎜)3%、地山粒(径1～2㎜)5%
SKP	47	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径3～10㎜)3%
		2	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	±	炭化物粒(径3～5㎜)2%
		3	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋	＋	地山塊(径5～20㎜)5%
SKP	49	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径3～5㎜)3%
SKP	51	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋	地山塊(径5～10㎜)30%
		2	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径5～10㎜)5%、地山塊(径5～20㎜)5%
		3	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋＋＋	±	地山塊(径3～8㎜)10%
SKP	59	1	黒色	10YR1.7/1	SiL	＋	－	なし
SKP	61	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	63	1	黒色	10YR1.7/1	SiL	＋	±	炭化物粒(径1～5㎜)10%
SKP	64	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	＋	地山塊(径20～30㎜)5%
SKP	65	1	黒褐色	10YR2/2	L	±	＋＋	炭化物粒(径5～10㎜)15%、地山塊(径20㎜以下)7%
		2	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	66	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋～＋＋	炭化物粒(径1㎜)中量、礫(径10～20㎜)少量
SKP	72	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	73	1	オリーブ黒色	7.5Y3/1	SiL	＋	＋	地山粒(径1㎜)20%
SKP	74	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	76	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋	＋	炭化物粒(径1～2㎜)2%、地山粒(径3～8㎜)3%
SKP	77	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋～＋＋	炭化物粒(径1～3㎜)中量、礫(径20～30㎜)少量
		2	褐灰色	10YR4/1	SiL	±	＋	なし
		3	黒褐色	7.5YR3/1	SiL	±	＋	炭化物粒(径1～3㎜)中量
		4	黒色	7.5YR2/1	SiL	＋～＋＋	＋	炭化物粒(径1～3㎜)中量
SKP	78	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±～＋	＋～＋＋	炭化物粒(径1～3㎜)中量、礫(径20～30㎜)少量
SKP	79	1	黒褐色	10YR3/1～7.5YR3/1	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1～3㎜)中量、礫(径10～30㎜)少量
SKP	80	1	黒褐色	7.5YR3/1	SiL	＋	＋＋	炭化物粒(径1㎜)多量、礫(径20～30㎜)少量
SKP	81	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	±	炭化物粒(径2～5㎜)3%
SKP	82	1	黒色	2.5GY2/1	SiL	＋	＋	炭化物粒(径5㎜)5%、地山粒5%
		2	暗灰色	N3/1	SiL	＋	±	炭化物粒(径5㎜)5%、地山粒20%
		3	暗緑灰色	10G4/1	SiL	±	＋	黒色土粒(径5㎜)10%
SKP	84	1	黒色	10YR2/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径5㎜)15%
		2	にぶい黄褐色	10YR4/3	SiL	±	＋	地山塊多量
SKP	86	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋＋	＋＋	炭化物塊(径10㎜)2%
SKP	87	1	暗褐色	10YR3/3	L	＋＋	－	地山塊1%
SKP	90	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	＋	炭化物粒(径5㎜)10%
SKP	91	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	＋	炭化物粒(径5㎜)10%
SKP	92	1	暗褐色	10YR3/3	L	－－	±	炭化物粒(径3㎜)5%
SKP	93	1	黒褐色	10YR1.7/1	SiL	＋＋	±	なし

第８表　遺構土層注記一覧（３）　柱穴様ピット

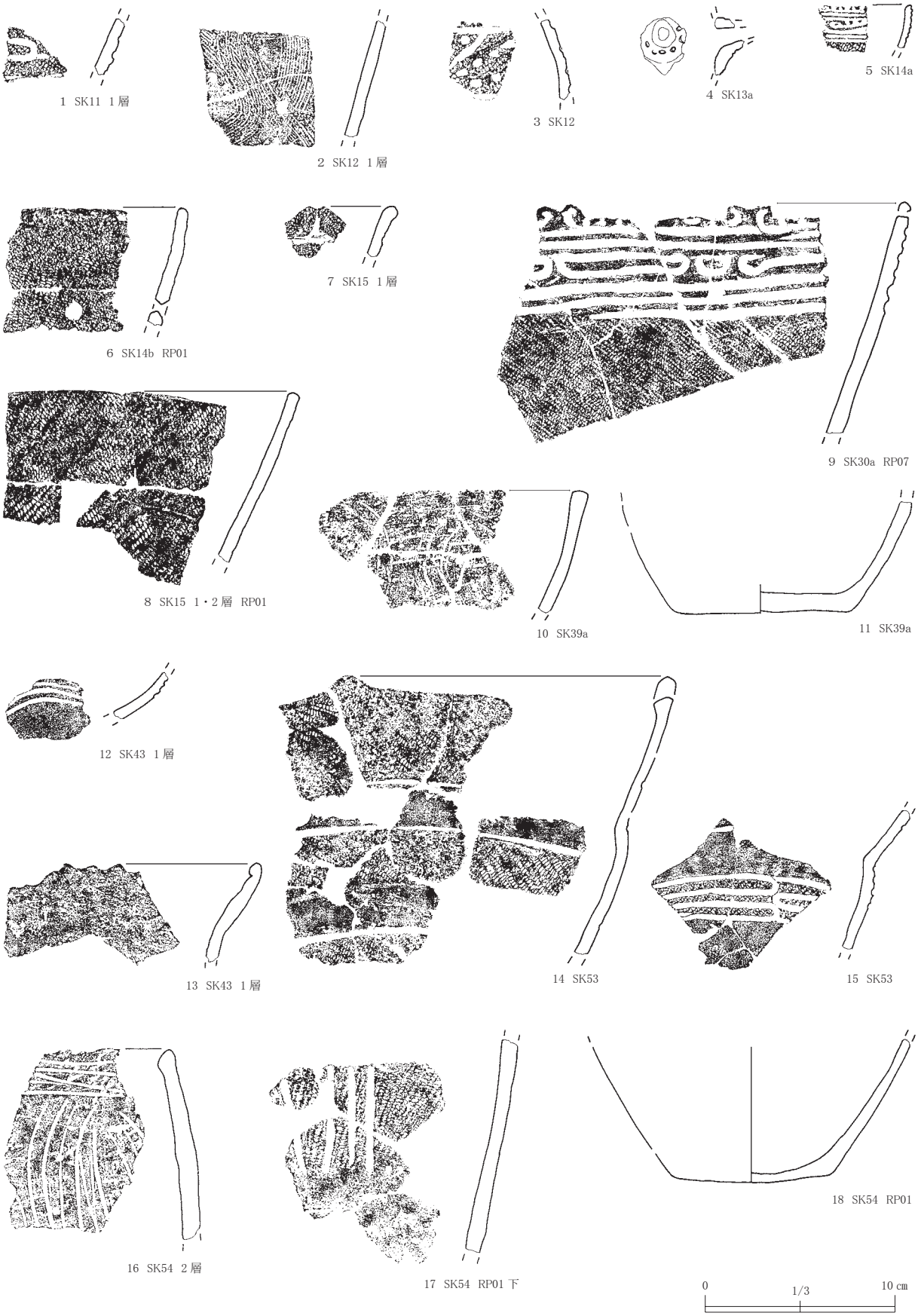
略号	No.	層位	土色	記号	土性	粘性	締まり	混入物
SKP	94	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋＋	＋	炭化物粒(径1～5㎜)中量
SKP	95	1	黒褐色～黒色	10YR3/1～2/1	SiL	＋	＋	炭化物粒(径1～10㎜)中量
SKP	96	1	黒褐色～黒色	10YR3/1～2/1	SiL	＋＋	＋	炭化物粒(径1～3㎜)多量
		2	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋＋	＋	炭化物粒(径1㎜)中量
SKP	97	1	黒色	10YR2/2	SiL	＋＋	＋	地山塊(径10㎜)10%
SKP	98	1	黒色	2.5Y2/1	SiL	＋	＋＋＋	なし
SKP	99a	1	黒色	2.5Y3/1	SiL	±	±	なし
SKP	99b	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	99c	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	100	1	黒色	2.5Y2/1	L	＋＋	－	なし
SKP	102	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山塊(径5～10㎜)2%
SKP	103	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	±	炭化物粒(径1～3㎜)3%、地山塊(径5～10㎜)7%
SKP	104	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	±	±	炭化物塊(径5～20㎜)7%、地山塊(径5～10㎜)7%、小礫多量
SKP	105	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	±	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山粒(径2～5㎜)2%
SKP	106	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	＋	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山塊(径5～10㎜)2%
SKP	107	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	±	±	炭化物塊(径5～10㎜)2%、地山粒(径3～5㎜)2%
SKP	108	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	±	炭化物粒(径3～5㎜)3%
SKP	109	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	±	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山粒(径2～3㎜)3%
SKP	110	1	黒褐色	10YR2/1	SiL	±	－	炭化物粒(径3㎜)1%
SKP	111	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径5㎜以下)5%、地山塊(径30㎜)10%
SKP	112	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	113	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	122	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	123	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径2～5㎜)3%
SKP	124	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径3～5㎜)2%
SKP	125	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	±	炭化物粒(径3～5㎜)5%
SKP	126	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径2～10㎜)3%、地山塊40%
SKP	131	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径2～4㎜)2%
		2	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	±	炭化物粒(径2～10㎜)3%、地山塊(径100㎜)40%
SKP	133	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径1～3㎜)2%
SKP	135	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径1～3㎜)2%
SKP	136	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物塊(径10～20㎜)5%、地山塊(径30㎜)7%
SKP	137	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	±	炭化物粒(径2～5㎜)2%、地山粒(径2～5㎜)5%
SKP	138	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径2～5㎜)3%、地山塊(径10～20㎜)20%
SKP	139	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	±	炭化物塊(径10～20㎜)3%、地山塊(径10～20㎜)15%
SKP	140	1	黒褐色	10YR3/2		±	＋	炭化物粒(径2～5㎜)2%　地山塊(径10～20㎜)10%
SKP	141	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	±	炭化物粒(径1～5㎜)2%、地山塊(径5～10)5%
SKP	142	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山塊(径5～10㎜)3%
SKP	143	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	±	炭化物粒(径2～5㎜)2%、地山塊(径20～30㎜)15%
SKP	144	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	±	±	炭化物粒(径2～5㎜)2%、地山塊(径10～20㎜)40%
SKP	145	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	±	炭化物粒(径3～10㎜)3%、地山塊(径10～20㎜)7%
SKP	146	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	＋	炭化物粒(径2～4㎜)3%、地山塊(径10～30㎜)10%
SKP	147	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径3～5㎜)3%、地山塊(径10～20㎜)5%
SKP	148	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径2～4㎜)2%、地山塊(径20～30㎜)30%
SKP	149	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径2～5㎜)3%、地山塊(径10～20㎜)10%
SKP	150	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	±	炭化物粒(径3～10㎜)5%、地山塊(径10～20㎜)5%
SKP	151	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径2～5㎜)1%、地山塊(径30～40㎜)20%
SKP	152	1	黒褐色	10YR2/1	SiL	±	＋	炭化物粒(径5～10㎜)2%
SKP	153	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	±	炭化物粒(径5～10㎜)3%、地山塊(径40～50㎜)30%
SKP	154	1	黒褐色	10YR2/3	SiC	＋＋	＋＋	炭化物粒(径2㎜)7%、地山粒(径2㎜)2%
SKP	155	1	黒褐色	10YR2/3	SiC	＋＋	±	炭化物粒(径2㎜)2%
SKP	156b	1	黒褐色	10YR3/3	SiL	＋＋	＋＋	炭化物粒(径3㎜)1%
SKP	157	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋＋	－－	炭化物塊(径20㎜)1%
SKP	158	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋＋	－	炭化物粒(径1㎜)1%以下
SKP	158	1	黒褐色	10YR3/3	SiC	＋＋＋	±	炭化物粒(径1㎜)1%未満
SKP	159	1	黒褐色	10YR3/3	SiC	＋＋	－	炭化物粒(径1㎜)1%未満
SKP	163	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋＋	－	炭化物粒(径3㎜)5%
SKP	167	1	黒褐色	10YR3/3	SiL	－－	＋	炭化物粒(径3㎜)1%
		2	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋＋	－－	炭化物粒(径2～5㎜)1%
SKP	169	1	黒褐色	10YR2/3	L	－－	＋＋	炭化物粒(径7㎜)30%
SKP	170	1	黒褐色	10YR3/3～2/3	SiL	＋＋＋	＋	炭化物粒(径5㎜)30%
SKP	171	1	黒褐色	10YR4/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径1～3㎜)5%
SKP	172	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径3～5㎜)3%、地山塊(径20～30㎜)5%
SKP	173	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	±	炭化物粒(径5～10㎜)3%、地山塊(径10～20㎜)10%
SKP	174	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	＋	炭化物塊(径10～30㎜)15%
		2	褐灰色	10YR4/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径1～3㎜)1%
SKP	175	1	黒色土	10YR2/1	SiL	＋	＋	炭化物粒(径5～10㎜)3%
SKP	176	1	オリーブ黒色	5Y3/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径5～10㎜)3%
SKP	177	1	オリーブ黒色	5Y3/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径5～10㎜)3%
		2	灰色	5Y4/1	SiL	±	±	なし
SKP	181	1	オリーブ黒色	5Y3/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径5～10㎜)3%
SKP	184	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	±	＋	炭化物粒(径2～5㎜)5%
SKP	185	1	黒色土	10YR2/1	SiL	＋	＋	炭化物塊(径10～20㎜)10%
SKP	186	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径2～3㎜)3%
SKP	187	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径2～3㎜)3%
SKP	191	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	＋	炭化物塊(径10～20㎜)2%、地山塊(径20～30㎜)5%
SKP	192	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	±	炭化物粒(径5～10㎜)3%
SKP	193	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径3～5㎜)3%、地山塊(径20～30㎜)10%
SKP	194	1	黒色	10YR2/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径5㎜)10%
SKP	195	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋	－	炭化物粒(径5㎜)5%
SKP	196	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	＋	炭化物粒(径2～5㎜)3%
SKP	197	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋＋	－－	なし
SKP	198	1	黒褐色	10YR2/2	SiC	＋＋	－－	炭化物粒(径3～5㎜)7%
SKP	199	1	黒褐色	10YR2/3	L	－	±	炭化物粒(径5㎜)1%
SKP	200	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋	±	炭化物粒(径3㎜)2%
SKP	202	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋＋	－	炭化物粒(径3～5㎜)5%
SKP	203	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋	＋	炭化物粒(径3～5㎜)3%
SKP	204	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	＋＋	＋	炭化物粒(径3㎜)1%

第９表　遺構土層注記一覧（４）　柱穴様ピット

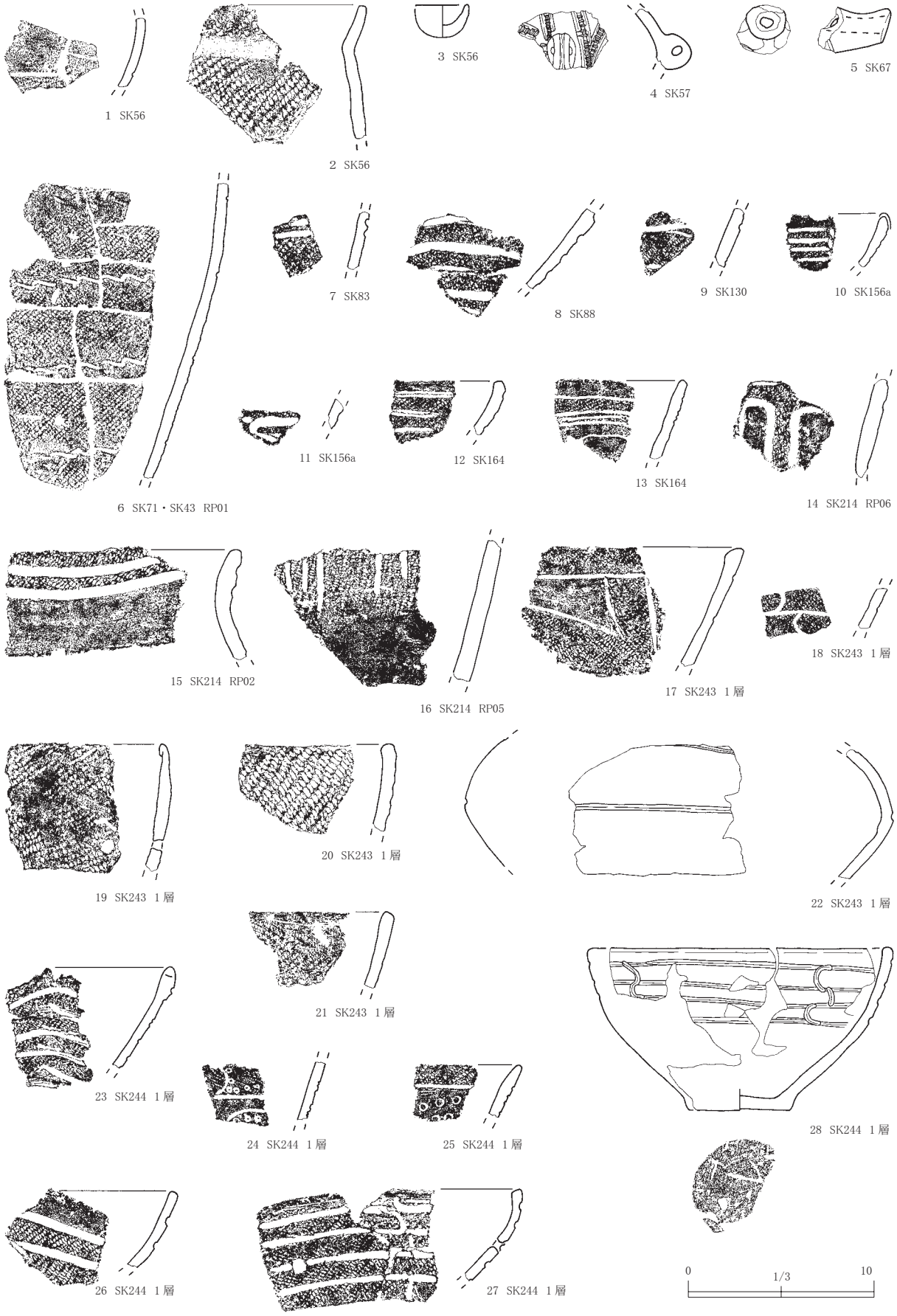
略号	No.	層位	土色	記号	土性	粘性	締まり	混入物
SKP	206	1	黒褐色	10YR2/3	L	－	＋	炭化物粒(径5㎜)1%
SKP	207	1	黒褐色	10YR2/3	L	±	＋	炭化物粒(径2㎜)1%
SKP	208	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径5～10㎜)2%
SKP	209	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋	±	炭化物粒(径5～10㎜)2%
SKP	211	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	＋	炭化物粒(径2～5㎜)1%、地山粒(径2～5㎜)5%
SKP	212	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋	炭化物粒(径1～3㎜)2%
SKP	215	1	黒褐色	10YR2/3	SiL	＋	±	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山塊(径10～20㎜)3%
SKP	216	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径3～5㎜)2%
SKP	217	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	218	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	±	炭化物粒(径5～10㎜)3%、地山塊(径5～10㎜)2%
SKP	221	1	オリーブ灰色	2.5GY6/1	SiL	＋	±	なし
		2	暗オリーブ灰色	2.5GY4/1	SiL	＋＋	－	なし
SKP	222	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	223	1	オリーブ灰色	2.5GY5/1	SiL	＋＋	±	なし
SKP	225	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	±	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山塊(径10～20㎜)2%
SKP	227	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	±	なし
SKP	228	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径3～10㎜)2%、地山塊(径10～20㎜)10%
SKP	229	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	230	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	231	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径1～3㎜)3%
SKP	233	1	灰黄褐色	10YR4/2	SiL	＋	±	炭化物粒(径2～3㎜)1%
SKP	234	1	褐灰色	10YR4/1	SiL	＋	－	地山塊(径10～20㎜)3%
SKP	235	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋＋	＋	炭化物粒(径3～5㎜)5%
		2	黒褐色	2.5Y3/2	SiL	±	＋＋＋	なし
SKP	236	1	灰黄褐色	10YR4/2	SiL	±	＋	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山塊(径10～20㎜)1%
SKP	237b	1	－	－	－	(－)	(－)	－
SKP	238	1	褐灰色	10YR4/1	SiL	＋＋	±	炭化物粒(径5㎜)5%
SKP	241	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	－	炭化物粒(径10㎜以下)15%
SKP	249	1	黒色	10YR2/1	SiC	±	＋	炭化物粒(径1～3㎜)1%
		2	黒褐色	10YR3/2	SiC	＋＋	＋	炭化物粒(径1～3㎜)1%未満、地山塊(径3～10㎜)5%
SKP	250	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	＋	炭化物粒(径1～3㎜)3%
SKP	253	1	黒色	10YR2/1	SiL	－	＋	炭化物粒(径1～2㎜)2%、地山粒(径1～3㎜)2%
SKP	254	1	黒色	10YR2/1	SiL	－	＋＋	炭化物粒(径1～2㎜)2%、地山粒(径1～3㎜)1%
SKP	255	1	黒色	10YR2/1	SiL	－	＋	炭化物粒(径1～2㎜)2%、地山粒(径1～3㎜)1%
SKP	256	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	±	炭化物粒(径1～2㎜)1%、地山粒(径1～3㎜)1%
SKP	257	1	黒色	10YR2/1	SiL	－	±	炭化物粒(径1～5㎜)3%、地山粒(径1～5㎜)2%
SKP	258	1	黒色	10YR2/1	SiL	＋	＋	炭化物粒(径1～2㎜)2%、地山粒(径1～5㎜)1%
SKP	259	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	±	炭化物粒(径1～2㎜)2%、地山粒(径1～5㎜)1%
SKP	260	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	±	炭化物粒(径1～2㎜)2%、地山粒(径1～5㎜)1%
SKP	261	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋	炭化物粒(径1～2㎜)1%、地山粒(径1～3㎜)1%
SKP	262	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	±	炭化物粒(径1～2㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)2%
SKP	263	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	±	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山粒(径1～5㎜)2%
SKP	264	1	黒褐色	10YR3/2	SiC	＋＋	±	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山塊(径5～10㎜)5%
SKP	265	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	－	±	炭化物粒(径1～2㎜)1%、地山粒(径1～3㎜)1%
SKP	267	1	灰褐色	10YR4/1	HC	＋＋＋	－	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径3～5㎜)3%
SKP	268	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	－	炭化物粒(径1～2㎜)2%、地山粒(径1～5㎜)2%
SKP	269	1	黒褐色	10YR2/2	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山粒(径1～3㎜)1%
SKP	270	1	黒褐色	10YR3/2	SiL	±	±	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山粒(径2～5㎜)3%
SKP	271	1	黒色	10YR1.7/1	SiL	±	－	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～2㎜)1%
SKP	272	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	－	＋＋	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～3㎜)2%
SKP	273	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)3%
SKP	274	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径2～5㎜)3%
SKP	275	1	黒色	10YR2/1	SiL	－	±	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～10㎜)10%
SKP	276	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	±	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)3%
SKP	277	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	－	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)3%
SKP	278	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	－	±	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)5%
SKP	279	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	－	＋＋	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～2㎜)1%
SKP	280	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	－	＋	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)3%
SKP	285	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	＋＋	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)2%
SKP	286	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	±	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山粒(径1～15㎜)10%
SKP	287	1	黒色	10YR2/1	SiL	±	±	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～10㎜)5%
SKP	288	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	－	±	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)5%
SKP	289	1	黒色	10YR2/1	SiL	－	＋	炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山粒(径1～5㎜)3%
SKP	290	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	＋	－	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)5%
SKP	291	1	黒褐色	10YR3/1	SiL	±	±	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)1%
SKP	292	1	黒褐色	10YR3/1	SiC	＋＋	±	炭化物粒(径1～5㎜)3%、地山塊(径5～10㎜)3%
SKP	293	1	黒褐色	10YR3/1	SiC	＋＋	－	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)2%
SKP	294	1	黒褐色	10YR3/1	SiC	＋＋	－	炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)2%
SKP	295	1	黒色	10YR2/1	SiC	±	＋	炭化物粒(径1～3㎜)2%
SKP	299	1	－	－	－	(－)	(－)	－

遺構土層注記一覧凡例

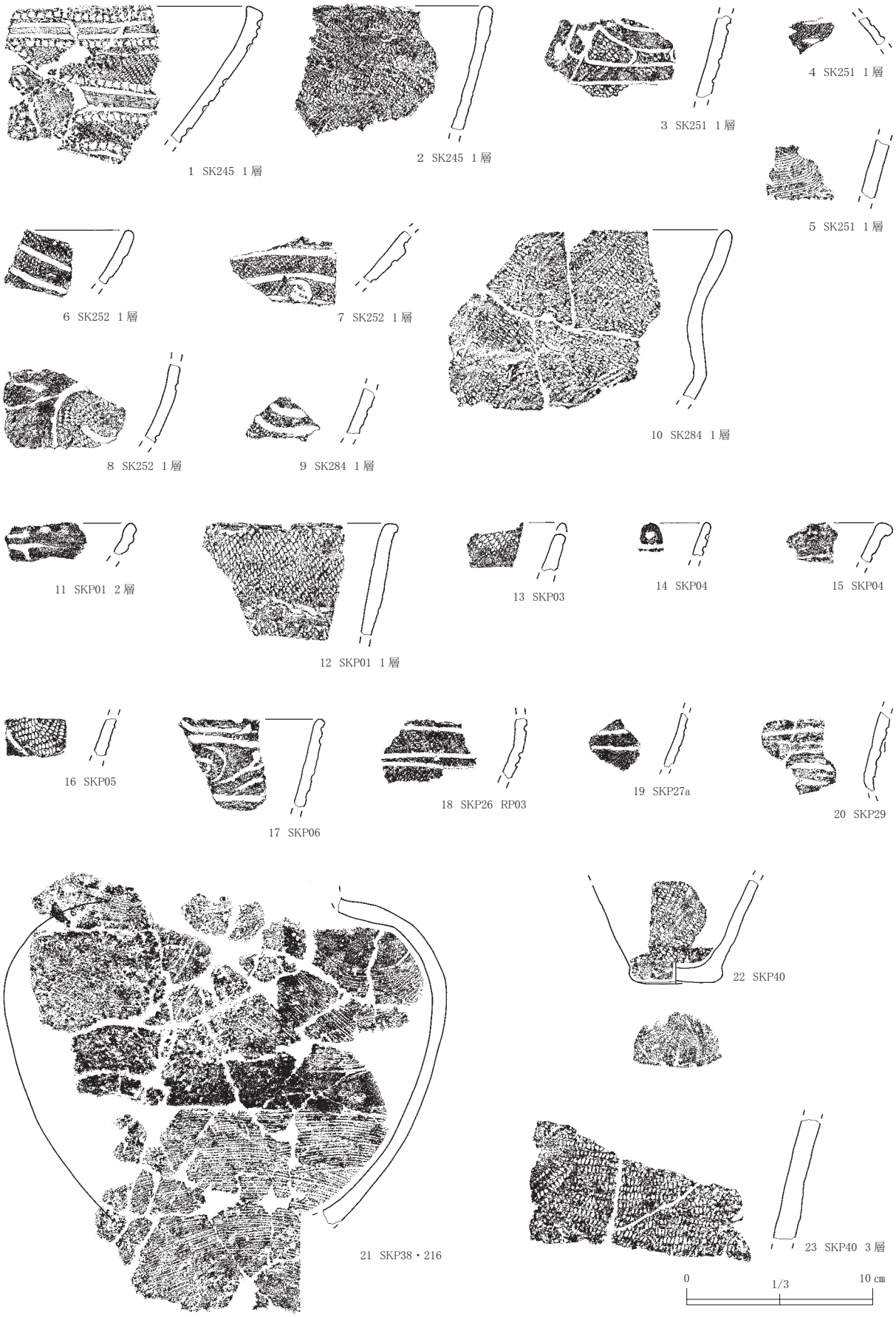
※1　「土色」・「土性」の表記は、新版標準土色帖(農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、2003)による。
※2　「粘性」・「締まり」の表記は度合いの強い方から順に、＋＋＋→＋＋→＋→±→－→－－の記号を用いて示した。
※3　記録漏れにより不明の場合、「－」もしくは「(－)」の記号を用いて示した。



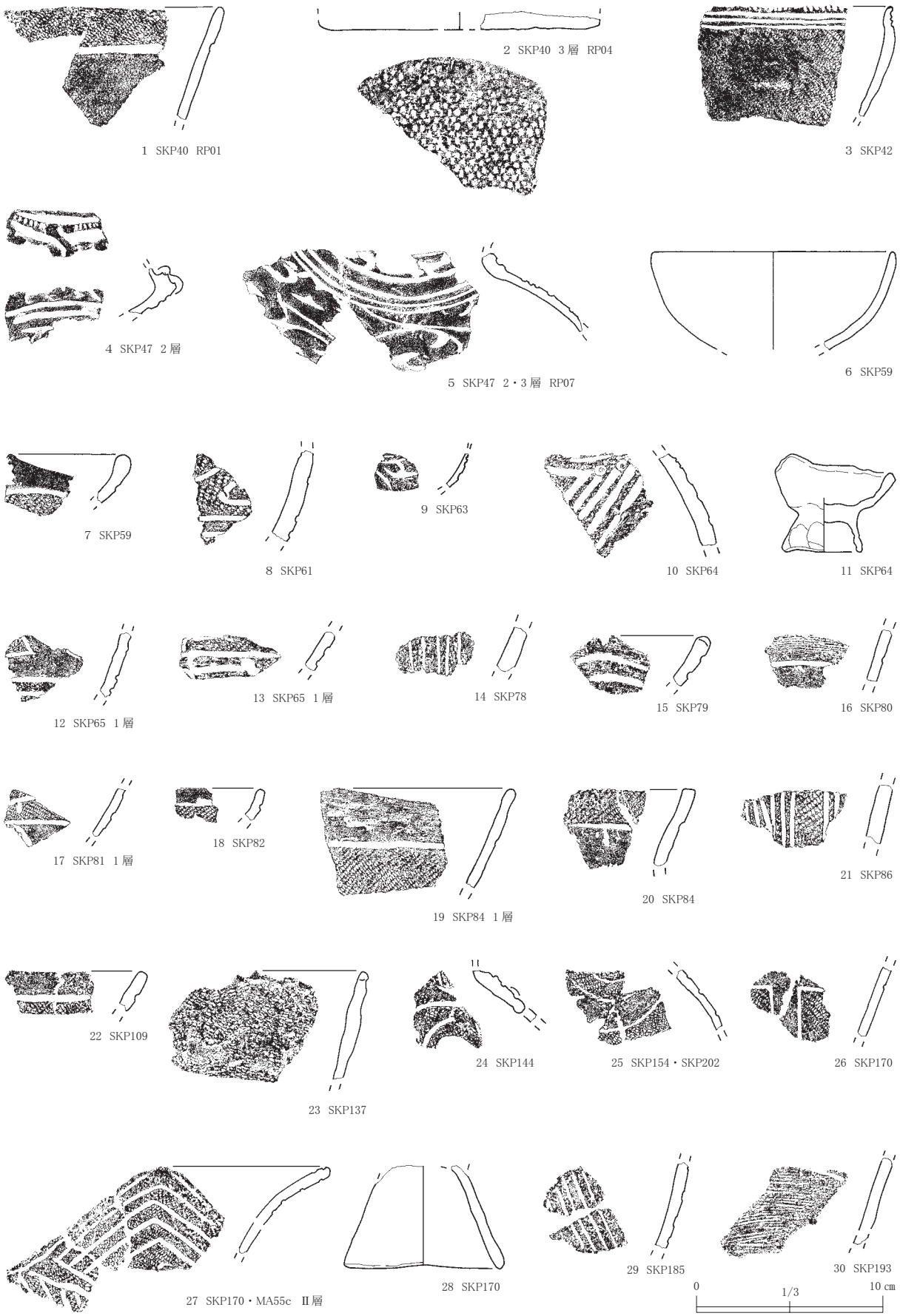
第16図　遺構内出土縄文土器（１）



第17図　遺構内出土縄文土器（２）



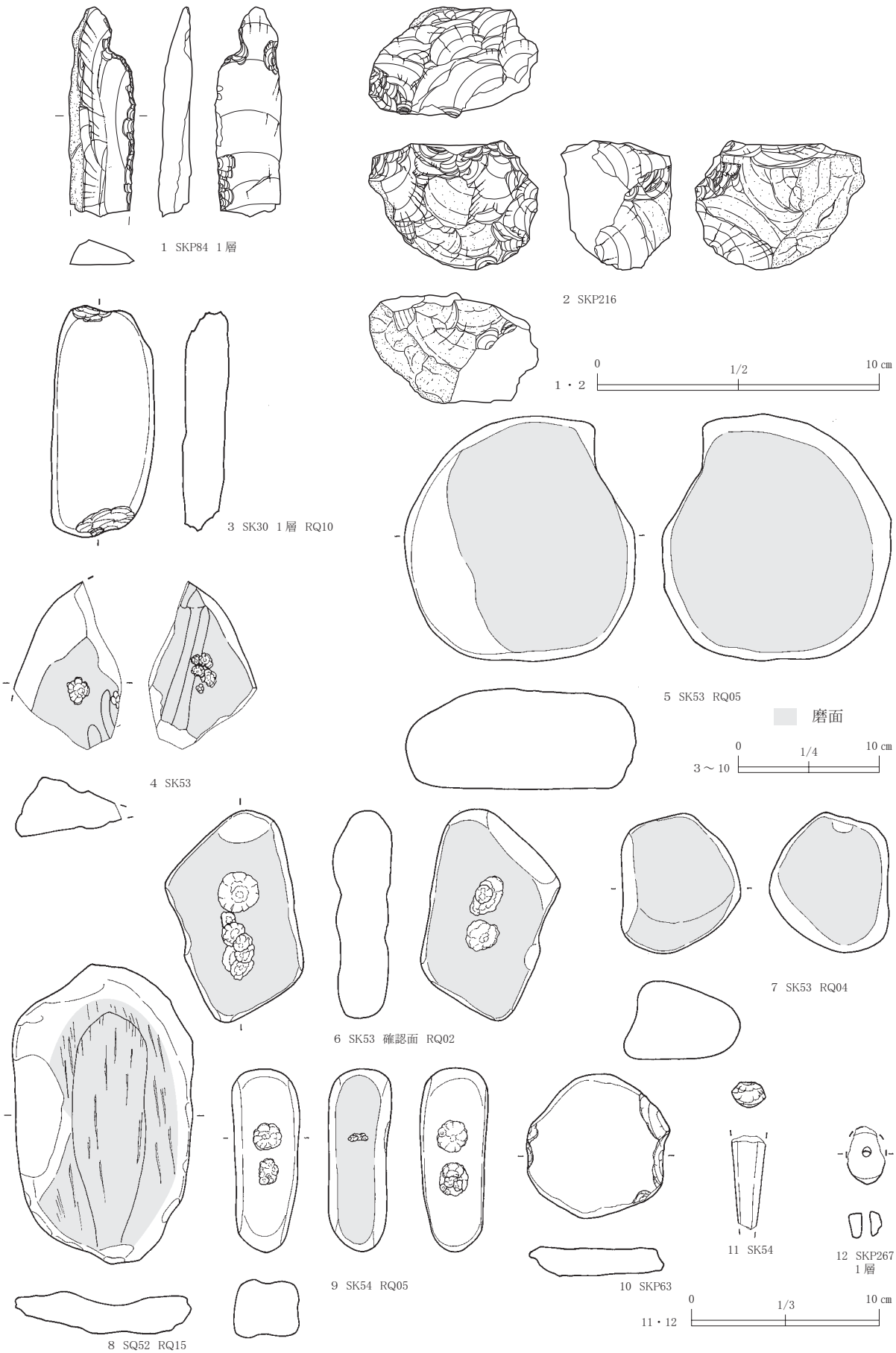
第18図　遺構内出土縄文土器（３）



第19図　遺構内出土縄文土器（４）

第20図　遺構内出土縄文土器（５）、土製品、剥片石器類（１）

第21図　遺構内出土剥片石器類（２）



第22図　遺構内出土剥片石器類（３）、礫石器類、石製品

第10表　遺構内出土土器・土製品一覧（１）

挿図番号	図版番号	器種	部位	分類	出土遺構	出土層位	取上番号	備考(サイズ・施文原体・敷物圧痕・付着物等)
16図1	9	深鉢	胴部	Ⅱ群１類	SK11	1層		縄文：単節RL横
16図2	9	深鉢	胴部	Ⅱ群８類	SK12	1層		櫛歯状工具
16図3	9	深鉢	胴部	Ⅱ群４類	SK12			縄文：単節LR横
16図4	9	注口	注口部	Ⅱ群	SK13a			
16図5	9	鉢	口縁部	Ⅳ群	SK14a			縄文：単節RL横
16図6	9	深鉢	口縁部	Ⅳ群	SK14b		RP01	縄文：単節LR横　補修孔あり
16図7	9	深鉢	口縁部	Ⅳ群	SK15	1層		縄文：単節RL横
16図8	9	深鉢	口縁部	Ⅳ群	SK15	1層 2層	RP01	縄文：単節LR横
16図9	9	深鉢	口縁部	Ⅳ群	SK30a		RP07	縄文：単節RL横
16図10	9	深鉢	口縁部	Ⅰ群１類	SK39a			
16図11	9	深鉢	底部	Ⅰ群	SK39a			底径8.7cm
16図12	9	浅鉢	胴部	Ⅳ群	SK43	1層		
16図13	9	深鉢	口縁部	Ⅳ群	SK43	1層		
16図14	9	深鉢	口縁～胴部	Ⅱ群Ⅰ６類	SK53			縄文：単節RL横
16図15	9	深鉢	胴部	Ⅱ群１類	SK53			縄文：単節LR横
16図16	9	深鉢	口縁部	Ⅰ群１類	SK54	2層		
16図17	9	深鉢	胴部	Ⅰ群１類	SK54		RP01下	縄文：単節RL縦
16図18	9	深鉢	底部	Ⅰ群？	SK54		RP01	底径8.2cm
17図1	9	深鉢	胴部	Ⅱ群	SK56			
17図2	9	深鉢	口縁部	Ⅱ群７類	SK56			縄文：単節LR横
17図3	9	小型	口縁～底部	Ⅴ群	SK56			口径2.8・底径0.8・器高1.8cm　鉢形
17図4	9	壺？	胴部	Ⅱ群	SK57			
17図5	9	注口	注口部	Ⅱ群？	SK67			
17図6	9	深鉢	胴部	Ⅳ群	SK71 SK43		RP01	縄文：単節LR横(末端結節)
17図7	9	深鉢	胴部	Ⅳ群	SK83			縄文：単節LR横
17図8	9	深鉢	胴部	Ⅱ群１類	SK88			縄文：単節LR横
17図9	9	深鉢	胴部	Ⅱ群３類	SK130			縄文：単節LR横
17図10	9	深鉢	口縁部	Ⅱ群１類	SK156a			縄文：単節LR横
17図11	9	深鉢	胴部	Ⅱ群１類	SK156a			縄文：単節RL横
17図12	9	深鉢	口縁部	Ⅱ群１類	SK164			縄文：単節LR横
17図13	9	深鉢	口縁部	Ⅱ群６類	SK164			縄文：単節LR横
17図14	9	深鉢	胴部	Ⅰ群２類	SK214		RP06	縄文：単節LR縦
17図15	9	深鉢	口縁部	Ⅰ群２類	SK214		RP02	縄文：単節RL横
17図16	9	深鉢	胴部	Ⅰ群１類	SK214		RP05	縄文：単節RL縦
17図17	9	深鉢	口縁部	Ⅱ群Ⅰ５類	SK243	1層		縄文：単節LR・RL　非結束羽状　入組帯状文内充填
17図18	9	深鉢	胴部	Ⅱ群１類	SK243	1層		縄文：単節LR横
17図19	9	深鉢	口縁部	Ⅱ群７類	SK243	1層		縄文：単節LR横　補修孔あり
17図20	9	深鉢	口縁部	Ⅱ群７類	SK243	1層		縄文：単節LR横
17図21	9	深鉢	口縁部	Ⅱ群５類	SK243	1層		縄文：単節LR・RL横　非結束羽状
17図22	9	注口？	胴部	Ⅱ群	SK243	1層		
17図23	9	深鉢	口縁部	Ⅱ群１類	SK244	1層		縄文：単節LR横
17図24	9	深鉢	胴部	Ⅱ群４類	SK244	1層		縄文：単節RL横
17図25	9	深鉢	口縁部	Ⅱ群４類	SK244	1層		縄文：単節LR横
17図26	9	深鉢	口縁部	Ⅱ群１類	SK244	1層		縄文：単節LR横
17図27	9	浅鉢	口縁部	Ⅱ群	SK244	1層		縄文：単節LR横　補修孔あり
17図28	9	浅鉢	口縁～底部	Ⅱ群	SK244	1層		口径(16.1)・底径(5.4)・器高8.8cm
18図1	10	深鉢	口縁部	Ⅱ群４類	SK245	1層		縄文：単節RL横
18図2	10	深鉢	口縁部	Ⅱ群５類	SK245	1層		縄文：単節LR・RL横　非結束羽状
18図3	10	深鉢	胴部	Ⅱ群３類	SK251	1層		縄文：単節LR横
18図4	10	壺？	胴部	Ⅱ群	SK251	1層		縄文：単節LR横　外面赤彩
18図5	10	深鉢	胴部	Ⅱ群８類	SK251	1層		櫛歯状工具
18図6	10	深鉢	口縁部	Ⅱ群１類	SK252	1層		縄文：単節RL横
18図7	10	深鉢	胴部	Ⅱ群１類	SK252	1層		縄文：単節LR横
18図8	10	深鉢	胴部	Ⅱ群３類	SK252	1層		縄文：単節LR　区画内充填
18図9	10	深鉢	胴部	Ⅰ群２類	SK284	1層		縄文：単節RL横
18図10	10	深鉢	口縁部	Ⅱ群７類	SK284	1層		縄文：単節LR横
18図11	10	浅鉢	口縁部	Ⅳ群	SKP01	2層		
18図12	10	深鉢	口縁部	Ⅳ群	SKP01	1層		縄文：単節LR横(末端結節)
18図13	10	深鉢	口縁部	Ⅲ群	SKP03			縄文：単節RL横　口縁部小突起あり
18図14	10	深鉢	口縁部	Ⅳ群	SKP04			
18図15	10	深鉢	口縁部	Ⅳ群	SKP04			口縁部突起
18図16	10	深鉢	胴部	Ⅱ群３類	SKP05			縄文：単節LR　区画内充填
18図17	10	深鉢	口縁部	Ⅳ群	SKP06			
18図18	10	深鉢	胴部	Ⅳ群	SKP26		RP03	縄文：単節RL横
18図19	10	深鉢	胴部	Ⅳ群	SKP27a			縄文：単節LR横
18図20	10	深鉢	胴部	Ⅲ群	SKP29			沈線間にコブ貼付
18図21	10	壺	肩～胴部	Ⅲ群	SKP38 SKP216			櫛歯状工具
18図22	10	深鉢	底部	Ⅱ群７類	SKP40			縄文：単節LR横　底面敷物圧痕
18図23	10	深鉢	胴部	Ⅱ群７類	SKP40	3層		縄文：単節LR横
19図1	10	深鉢	口縁部	Ⅱ群６類	SKP40		RP01	縄文：単節LR横
19図2	10	深鉢	底部	Ⅱ群？	SKP40	3層	RP04	底面網代痕
19図3	10	鉢	口縁部	Ⅳ群	SKP42			縄文：単節RL横　口唇部刻み
19図4	10	注口	肩部	Ⅳ群	SKP47	2層		縄文：単節LR横
19図5	10	注口	肩部	Ⅳ群	SKP47	2層 3層	RP07	外面赤彩
19図6	10	鉢	口縁部	Ⅱ群	SKP59			口径(13.1)cm　外面ミガキ
19図7	10	深鉢	口縁部	Ⅱ群１類	SKP59			縄文：単節LR横
19図8	10	深鉢	胴部	Ⅰ群２類	SKP61			縄文：単節LR横

第11表　遺構内出土土器・土製品一覧（２）

挿図番号	図版番号	器種	部位	分類	出土遺構	出土層位	取上番号	備考(サイズ・施文原体・敷物圧痕・付着物等)
19図9	10	浅鉢？	胴部	Ⅳ群	SKP63			
19図10	10	深鉢	胴部	Ⅰ群２類	SKP64			縄文：単節LR横？
19図11	10	小型	口縁～底部	Ⅴ群	SKP64			口径6.3・底径4.0・器高5.2㎝　台付鉢形
19図12	10	深鉢	胴部	Ⅱ群３類	SKP65	1層		縄文：単節LR横
19図13	10	深鉢	胴部	Ⅱ群１類	SKP65	1層		縄文：単節LR横
19図14	10	深鉢	胴部	Ⅰ群１類	SKP78			撚糸文：単軸絡条体第１類無節Ｌ縦
19図15	10	深鉢	口縁部	Ⅱ群１類	SKP79			内外面摩滅著しい
19図16	10	深鉢	胴部	Ⅱ群８類	SKP80			櫛歯状工具
19図17	10	深鉢	胴部	Ⅱ群１類	SKP81	1層		縄文：単節RL横
19図18	10	深鉢	口縁部	Ⅳ群	SKP82			縄文：単節LR横
19図19	10	深鉢	口縁部	Ⅱ群３類	SKP84	1層		縄文：単節LR横
19図20	10	深鉢	口縁部	Ⅱ群６類	SKP84			縄文：単節LR横
19図21	10	深鉢	胴部	Ⅰ群１類	SKP86			縄文：単節LR横
19図22	10	深鉢	口縁部	Ⅱ群１類	SKP109			縄文：単節LR横
19図23	10	深鉢	口縁部	Ⅳ群	SKP137			縄文：単節RL横・斜　小波状口縁
19図24	10	香炉	胴部	Ⅲ群	SKP144			縄文：単節LR
19図25	10	壺	胴部	Ⅱ群	SKP154 SKP202			縄文：単節LR
19図26	10	深鉢	胴部	Ⅱ群６類	SKP170			縄文：単節RL横
19図27	11	壺	口縁部	Ⅱ群	SKP170 MA55c	Ⅱ層		縄文：単節RL
19図28	11	台付鉢？	高台部	Ⅱ群？	SKP170			底径(8.1)㎝
19図29	11	深鉢	胴部	Ⅰ群１類	SKP185			
19図30	11	深鉢	胴部	Ⅱ群８類	SKP193			櫛歯状工具
20図1	11	深鉢	口縁部	Ⅱ群１類	SKP200			縄文：単節LR横
20図2	11	壺	肩部	Ⅱ群	SKP200			縄文：単節LR・RL横　非結束羽状
20図3	11	深鉢	胴部	Ⅳ群	SKP211			縄文：単節RL横
20図4	11	深鉢	胴部	Ⅱ群６類	SKP216			
20図5	11	深鉢	胴部	Ⅱ群６類	SKP237b			
20図6	11	深鉢	胴部	Ⅱ群１類	SKP241			縄文：単節LR横
20図7	11	壺	肩部	Ⅰ群	SKP255	1層		縄文：単節LR横
20図8	11	深鉢	口縁部	Ⅱ群？	SKP256	1層		縄文：単節LR横
20図9	11	鉢	口縁部	Ⅱ群？	SKP267	1層		無文
20図10	11	深鉢	口縁部	Ⅱ群８類	SKP270	1層		櫛歯状工具
20図11	11	深鉢	胴部	Ⅱ群１類	SKP271	1層		縄文：単節LR横
20図12	11	深鉢	胴部	Ⅰ群１類	SKP271	1層		縄文：単節LR横
20図13	11	深鉢	胴部	Ⅱ群３類	SKP271	1層		縄文：単節RL横
20図14	11	深鉢	口縁部	Ⅱ群３類	SKP278	1層		縄文：単節LR横
20図15	11	深鉢	胴部	Ⅰ群２類	SKP294	1層		縄文：単節RL横
20図16	11	土器片円盤			SK24	上位		周縁部ミガキ　Ⅳ群(晩期)土器転用
20図17	11	土製耳飾			SKP107			直径(4.2)・最大厚1.5㎝　赤彩

第12表　遺構内出土石器・石製品一覧

挿図番号	図版番号	器種	分類	出土遺構	出土層位	取上番号	最大長(㎜)	最大幅(㎜)	最大厚(㎜)	重量(ｇ)	備考(付着物等)
20図18	11	残核	A類	SK11			31	45	23	30.5	
20図19	11	不定形石器	Ｂ３a類	SK12	2層		46	51	12	21.0	
20図20	11	残核	B類	SK12	2層		47	40	23	43.8	
20図21	11	楔形石器		SK14a			27	17	8	4.6	
20図22	11	石錐	C類	SK14a	1層		41	24	8	7.0	
20図23	11	不定形石器	Ｂ８d類	SK14a			60	40	17	31.8	
21図1	11	石鏃	Ｂ２類	SK15	1層		30	25	6	2.9	
21図2	11	不定形石器	Ｃ９d類	SK30a			18	16	4	0.7	
21図3	11	残核	B類	SK30a			27	44	18	14.1	
21図4	11	不定形石器	Ａ３a類	SK43			46	33	17	22.8	
21図5	11	不定形石器	B類	SK54	底部		26	46	10	6.9	
21図6	11	残核	C類	SK54	2層		34	54	26	47.1	
21図7	11	不定形石器	Ａ３a類	SK88			86	55	25	111.2	
21図8	11	残核	A類	SKP06			46	39	26	46.4	
21図9	12	残核	A類	SKP25			49	42	24	54.3	
21図10	12	石鏃	Ｂ２類	SKP29			23	17	5	1.2	
21図11	12	石匙	Ａ６類	SKP49	下位		54	37	11	14.8	
21図12	12	不定形石器	Ｂ３a類	SKP51			37	33	12	10.4	
21図13	12	不定形石器	C10c類	SKP63			39	35	17	26.7	
22図1	12	石匙	Ａ６類	SKP84	1層		75	24	12	14.8	
22図2	12	残核	A類	SKP216			46	60	39	120.8	
22図3	12	礫器	B類	SK30	1層	RQ10	164	74	33	575.3	
22図4	12	磨・凹石類	C類	SK53			118	77	42	284.8	砥石転用
22図5	12	石皿	Ａ１類	SK53		RQ05	174	164	70	3230.0	
22図6	12	磨・凹石類	Ａ３類	SK53	確認面	RQ02	149	99	41	785.3	
22図7	12	磨・凹石類	Ａ１類	SK53		RQ04	98	85	56	628.6	
22図8	12	石皿	Ａ２類	SQ52		RQ15	212	129	29	944.0	
22図9	12	磨・凹石類	Ｂ３類	SK54		RQ05	13	49	45	433.1	
22図10	12	石錘	A類	SKP63			102	102	21	272.5	
22図11	12	石棒	Ｂ２類	SK54			49	18	12	14.0	
22図12	12	有孔石製品		SKP267	1層		30	20	14	3.9	

第３節　出土遺物

２か年の調査により、容量約18リットルのコンテナに換算して土器類が125箱、石器類が152箱分出土した。遺物の大部分は48ライン以北の遺物包含層中から出土している。なお表土中から江戸時代以降の陶磁器と銭貨もわずかに出土しているが、当該期の遺構は検出しておらず、様相が不明確であるため、今回の報告では割愛する。掲載遺物の詳細については第17～21表に示した。

１　縄文土器

縄文土器は後期前葉～晩期中葉に属するものが出土した。これらの土器は時期によってⅠ～Ⅴ群に大別し、器種ごとに器形や文様などから分類した。特に一定量出土した深鉢については、器形の分類にアルファベット、文様表出手法の分類にアラビア数字を用い、各分類項目を組み合わせて例えばＡ１類のように細分した。器形の不明なものは文様のみで判断し、例えば１類のように細分した。

掲載土器は遺構内出土分に関しては時期判定の可能なものを、遺構外出土分に関しては器形や文様構成の判別できるものを選定し、時期および器種ごとに順次掲載した。文様や胎土などから同一個体と判断した土器には、挿図中で10a・10bのように数字とアルファベットを組み合わせて付してある。なお遺構外出土分の縄文土器については、グリッド毎の重量分布を第53図に示した。縄文土器破片の全てを時期ごとに分類・計量することは時間的な制約から困難であったが、出土位置の傾向をある程度把握するため、掲載分の土器について時期別の数量分布を第54図に示した。

（１）Ⅰ群：後期前葉

後期前葉の土器は、器種として深鉢・浅鉢・壺が認められた。出土量は全体に対して比較的多い。

深鉢（第23～29図・第30図１、図版13～17）

Ａ類：小波状口縁をなし、口縁部が若干内湾気味に立ち上がるもの。

Ｂ類：小波状口縁をなし、口縁部が直線的に立ち上がるもの。

Ｃ類：小波状口縁をなして頸部にくびれを有し、胴部が張る器形をなすもの。

Ｄ類：平口縁もしくは平口縁にごく低い山形突起をもち、口縁部が緩やかに立ち上がるもの。

１類：縄文や撚糸文を地文とし、波頂部や波底部を起点として垂下する沈線文を描くもの。垂下沈線文は単純に緩い弧線が対向するもの（25図１など）と蛇行しながら交差するもの（23図３など）が多く、垂直線と円文を組み合わせた例は１点のみ（23図４）確認された。垂下沈線文は口縁直下を起点とするものと、頸部以下に施文されるものがあり、器形との相関性が強い。

２類：２本もしくは３本一組の沈線により巴文やクランク文など横位展開する文様構成をとるもの。多くは沈線間に縄文を充填している。

３類：縄文のみ施文するもので、いわゆる粗製深鉢形土器も含む。29図12は頸部に無文帯を有し、胴部全体に縄文が施されている。30図１は粗製深鉢形土器と考えられ、頸部無文帯の下端に縄の側面圧痕が横位に巡り、縄圧痕文以下には全体に縄文が施されている。これと同様の文様構成をもつ深鉢は多数認められ、精製深鉢Ｃ類に類似した器形や頸部に無文帯を有するといった特徴から、後期前葉に帰属する可能性が高いものと考えられる。

浅鉢（第30図２、図版17）

１点のみ確認した。全体形状は不明であるが、平口縁で口唇部が若干外反し、胴部で屈曲する器形をなす。縄文が充填された２～３条一組の平行沈線によって横位展開する文様構成をなし、屈曲部以下には縄文が施されている。

壺（第30図３～８、図版17）

全体形状が復元できた個体は確認されなかったが、頸部が細長く垂直気味に立ち上がり胴部が強く張るもの（30図３～６）と、頸部が幅広く垂直気味に短く立ち上がり胴部の張りが弱いもの（30図７・８）が認められる。文様は縄文を充填した平行沈線により巴文や矩形文など、横位展開の構成をとる。

（２）Ⅱ群：後期中葉

後期中葉の土器は、器種として深鉢のほか鉢・浅鉢・壺・注口・単孔・蓋・多孔底・香炉が認められた。全体に対する出土量は最も多く、器種も豊富である。

深鉢（第31～39図、図版18～22）

Ａ類：大波状口縁をなし、口縁部に突起をもたないもの。

Ｂ類：大波状口縁をなし、口縁部に突起をもつもの。

Ｃ類：波状口縁をなし、頸部が強く屈曲するもの。

Ｄ類：波状口縁をなし、頸部に屈曲をもたないもの。

Ｅ類：平口縁で頸部に屈曲をもたず、口縁部に突起をもたないもの。

Ｆ類：平口縁で頸部に屈曲をもたず、口縁部に突起をもつもの。

Ｇ類：平口縁で頸部に屈曲をもつもの。

Ｈ類：波状口縁をなし、口縁部が内湾気味に立ち上がり、口唇部が肥厚するもの。

Ｉ類：平口縁で口縁部が内湾気味に立ち上がり、口唇部が肥厚するもの。

１類：多重平行沈線文を施すもの。施文位置としては口縁下に無文部をおいてほぼ水平に巡るもの（31図１など）と、口縁直下に波状口縁に沿って施すもの（32図３など）があり、前者の方が圧倒的に多く見受けられる。平行沈線間は波頂部や波底部に対応した位置に蛇行沈線が垂下し、地文として縄文が施される。

２類：幅広い平行沈線間に地文縄文を施し、沈線で鋸歯状や格子状の文様を表出するもの（33図２など）。

３類：沈線による幅広の区画文を有するもの（35図１など）。

４類：多重平行沈線文や大区画沈線文に刺突を伴うもの（37図３など）。

５類：羽状縄文を施すもの。少数ではあるが、37図11は口縁部直下に羽状縄文を地文とし、平行沈線により弧線文を描く。37図17は沈線による大区画曲線文内に羽状縄文を充填している。

６類：上記のほか、沈線による文様構成をもつもの。36図12は胴部で屈曲する器形をなし、屈曲部に巡る平行沈線文以下には底部下端まで縄文を充填した縦展開の弧線文が描かれている。

７類：縄文のみ施文するもの。いわゆる粗製深鉢形土器は相当数出土しているが、器形の復元可能な代表例のみ掲載した。39図１は胴部下半に沈線文を伴う。

８類：櫛歯状工具により施文されたもの。沈線文内部に充填するもの（39図５・６）や、外面全体に

ランダムに施文するもの(39図２・４)、入り組み状の文様を描くもの(39図３)が認められる。本類は後期後葉に帰属する可能性もある。

鉢・浅鉢(第40図、図版23)

器形としては口縁部の立ち上がりに特徴があり、内湾気味に立ち上がるもの(１・２・４・７～９)、直線的に開くもの(３・５)、屈曲して口縁が直立気味に立ち上がるもの(６)、底部から短く立ち上がる皿状のもの(10)、片口状の注口部を伴うもの(11)が認められる。文様構成は深鉢１・２類と共通する多重沈線文(１・２・６)や格子状文(３・４・11)のほか、破片資料ではあるが内面に多重沈線を施すもの(５)があり、無文で内外面にミガキ調整のみ施すもの(７～10)も認められる。

台付鉢(第41図１～６、図版23)

１は台部が失われているが若干内湾気味に立ち上がる器形をなし、縄文の充填された平行沈線文が横位に巡る。２は施文された台部で、２条一組の沈線によりクランク状の文様が描かれている。３～６は台付鉢の台部と考えられるものである。

壺・注口(第41図７～17・第42図１～11、図版23・24)

壺と注口はどちらか判別の付かない場合もあるため、ここでは一括して取り扱うことにする。全体形状を知り得る個体は少ないが比較的小型のものが主体で、器形としては胴部が丸味を帯びて口縁部が直線的に立ち上がるもの(41図７など)、口縁部が大きな波状を呈するもの(41図14など)、胴部が強く張り算盤玉状をなすもの(42図８など)、口縁部に段をもつもの(42図５など)、台部を伴うもの(42図10)が認められる。なお、42図11は片口状を呈する注口部の破片である。文様構成は、沈線による入り組み文(41図８など)、幅の広い区画文(43図10など)、縄文の充填された平行沈線による区画文(41図12など)、区画内に異方向に多重沈線文を施すもの(41図15など)、肉彫りによる曲線文(42図７)などがあり、精製深鉢と共通する文様構成をもつものも少なくない。

単孔(第42図12～15、図版24)

12は筒状を呈する胴部に椀状の口縁部が付く器形をなし、縄文を充填した入り組み文が横位多段に展開する。15は底部が丸味を帯びた器形をなし、沈線区画内に櫛歯状工具による施文が認められる。13・14は単孔部を伴っていないが、筒状の器形を呈することから単孔土器の可能性が高い。13には縄文を充填した方形区画文、14には曲線的な入り組み文が施されている。

蓋(第42図16、図版24)

１点のみの出土である。山形の器形で上端部は上から見ると楕円形の摘みとなっており、下端部に沿って平行沈線が横位に巡る。帰属時期は不明確である。

多孔底(第42図17・18、図版24)

全体の器形が復元できた例は無いが、確認されたものは全て高台を伴い、椀状を呈するものと考えられる。後期後葉に帰属する可能性もある。

香炉(第42図19・20、図版24)

全体形状の推定可能な例は確認されなかったが、香炉形土器の可能性あるものを掲載した。19は三角形の透かしをもつ。20は高台部で隆帯に刻みが施され、高台に三角形状の切り込みが付いている。

その他(第42図21、図版24)

把手が付き内外面に沈線文を伴うもので、椀状の器形をなすと考えられるが、詳細は不明である。

（３）Ⅲ群：後期後葉

後期後葉の土器は、器種として深鉢・鉢・壺・注口・香炉が認められた。後期前・中葉の土器と比べて出土量は少なく、器種も少ない。

深鉢（第43図、図版25）

１は平口縁に小突起が付き、頸部が括れて胴部が丸い器形をなす。胴部下半には幅の広い入組帯状文が一段横位に展開している。２は大波状口縁深鉢の波頂部に付く突起で、小さな貼瘤が付く。３・４は大波状口縁深鉢の波頂部にあたり、口縁部は縄文で縁取られている。５は平口縁で胴部が緩く括れる器形をなし、上半には平行沈線文が横位展開し、貼瘤が多用される。６～８も沈線文に貼瘤を多用するものである。９・10は平行沈線間に刻みが施されている。11～13は幅の狭い入組帯状文が多段に横位展開するもので、12・13は平口縁に小突起を伴う器形をなす。

鉢（第44図１、図版25）

鉢は１点のみ確認した。底面がわずかに窪み、口縁が内湾気味に立ち上がる器形をなす。文様は縄文が充填された入組文にスリットが伴う。

壺・注口（第44図２～８、図版25）

サイズは小型のものが中心で、器形は全体に丸味を帯び、底面に浅い窪みをもつもの（２）が認められる。３は大型の壺形土器と考えられる。文様は沈線文による入組帯状文に大きな瘤状突起が付くもの（２など）のほか、刻みの施された平行沈線に小さな貼瘤が伴うもの（４・５）も見られる。６は平口縁に大小の突起がつくもので、注口土器の口縁部破片と考えられる。

香炉（第44図９、図版25）

香炉形土器の可能性あるものは１点のみ確認された。太い隆帯が横位に巡り、刻みの伴う平行沈線文が施されたもので、上半部の破片と考えられる。

（４）Ⅳ群：晩期

晩期は大洞Ｂ・ＢＣ・Ｃ１式期に属するものが出土しており、ここでは大きく晩期として括る。器種は深鉢・鉢・浅鉢・壺・注口が認められる。出土量は他時期の資料と比べて非常に少ない。

深鉢（第44図10～12・45図１、図版26）

44図10・11は頸部が緩く括れる器形をなし、多段に施された入組帯状文の間に連続する短沈線が横位に巡る。12は小波状口縁で若干内湾気味に立ち上がる器形をなし、波底部を起点とした沈線により、弧線文と円文が描かれる。45図１は小波状口縁で丸みを帯びた器形をなし、口縁部直下に横位展開する縄文帯が、胴部下半全体に縄文が施されている。

鉢・浅鉢（第45図２～６、図版26）

２・３・４は鉢の口縁部破片で、口縁直下の平行沈線間に刺突が加えられている。５・６は浅鉢の口縁部破片で、雲形文が施されている。

壺・注口（第45図７～９、図版26）

７は注口土器の上半部破片で、平行沈線間に刻みが施される。８はほぼ完形に復元可能な大型の壺形土器で、口縁部は無文で頸部のわずかな段差以下に縄文が施されている。９は小型壺の口縁部破片である。

（５）Ｖ群：小型土器（第45図10～14、図版26）

時期判定の困難な小型の土器を一括した。器形の判断できる個体のみ掲載している。10は頸部に括れをもつ深鉢、11は口の窄まる壺、12は５単位の緩やかな波状口縁をもつ浅鉢、13は高台付の鉢、14は注口を模したミニチュアと考えられる。

２　石器

石器は剥片石器類と礫石器類に大別し、器種ごとに形状や加工、使用痕跡等の特徴から分類した。石器個々の帰属時期は明確でないが、大部分は出土土器と同じ後期前葉もしくは中葉に含まれるものと考えられる。石器石材については石質鑑定を実施していないため詳細は不明であるが、剥片石器類の石材には夾雑物が多く貫入するやや質の悪い頁岩が多用され、黒曜石や鉄石英・玉髄質の石材がわずかに含まれる。そのほか、搬入礫として硅化木が多量に持ち込まれているのが特徴である。黒曜石は出土全点について産地同定分析を実施しており、その結果は第５章第２節に掲載した。掲載石器は各器種・各分類に従って選定に努めたが、分類項目によっては重複・欠如したものもある。器種別の出土点数は第13表に、器種ごとの分類別出土点数は第14表に、各器種の遺構外出土分布図は第55～59図に示した。

（１）剥片石器類（第46～49図、図版27・28）

剥離調整の認められる石器とその残滓を、剥片石器類として一括する。遺構外では4,645点、遺構内出土分を合わせると総点数4,833点が出土した。器種組成は石鏃、石錐、石匙、箆状石器、楔形石器、異形石器ほか、スクレイパーや二次加工剥片を含む不定形石器、そして残滓である剥片及び残核で構成される（第13表）。

石鏃（第46図１～11）

遺構内外から68点出土した。茎の有無と基部平面形状に加え、未製品や破損品も含め以下のＡ～Ｅ類に分類した。

Ａ類：茎をもたず基部が湾曲した、いわゆる凹基無茎鏃（46図１）。

Ｂ類：茎をもつ有茎鏃である。基部形状から以下の１～４類に細分した。

１類：基部が内湾する凹基有茎鏃（46図２）。

２類：基部が平坦な平基有茎鏃（46図３・４・６・７）。

３類：基部が突出する凸基有茎鏃で、最大幅を器体中心にもつもの（46図５・８）。

４類：基部と茎の境界が不明瞭な柳葉形石鏃（46図９）。

Ｃ類：茎をもたず基部が丸味を帯びた、いわゆる円基無茎鏃。

Ｄ類：石鏃未製品もしくはその失敗品。小型剥片を素材として両面調整を施し石鏃状の平面形態を呈するもののうち、大きさに比べて特に分厚いものや、左右もしくは表裏が非対称な例について本類に分類した（46図10・11）。

Ｅ類：先端部のみの破損品。

出土位置で比較すると遺構内66点、遺構外２点で、遺構内での出土例は非常に少なく、偶然に混入した可能性が高いと考えられる。遺構外での分布傾向を見ると、若干北寄りに集中する箇所が認めら

れるが、特に偏りは無く全面的に出土している。

分類群ごとの比較では、Ｂ類が36点で主体をなし、Ａ・Ｃ類は１点ずつと極めて少なく、有茎鏃が圧倒的に多いと言える。またＤ類が25点と比較的多く出土しており、後述する不定形石器の中には石鏃の未成品もしくは失敗品と推測される両面加工石器が少なからず認められることから、遺跡内で石鏃の生産が行われていた可能性が高いと推察される。

石錐（第46図12～14）

遺構内外から36点出土した。基部の有無や基部形態に加え、転用品と破損品も含め以下のＡ～Ｅ類に分類した。

Ａ類：基部を伴わず、全体を棒状に整形したもの（46図12・13）。

Ｂ類：周縁加工を施した明瞭な基部をもつもの。

Ｃ類：錐部と基部の境界が不明瞭なもの（46図14）。

Ｄ類：他器種からの転用品と考えられるもの。

Ｅ類：錐部のみの破片。

出土位置で比較すると遺構内１点、遺構外35点で、石鏃同様に遺構内での出土例は少ない。遺構外についても、特定箇所に集中する傾向は認められない。

分類群ごとの比較では、Ｃ類が22点と主体をなし、Ａ類（７点）がこれに続き、Ｂ類（３点）・Ｄ類（１点）は非常に少ない。

石匙（第46図15～21）

石匙は遺構内外から46点出土した。つまみと主要刃部のなす角度によって、Ａ類（縦型）・Ｂ類（斜型）・Ｃ類（横型）に大別し、さらに刃部平面形態等から以下のように細分した。

Ａ１類：両側縁が平行し、先端部にほとんど調整加工の施されないもの。

Ａ２類：両側縁が平行し、先端部に急斜度調整が施されるもの。

Ａ３類：両側縁が先端に向かって収束し、先端部が尖るもの（46図17・18）。

Ａ４類：両側縁が先端に向かって収束し、先端部が丸みを帯びるもの。

Ａ５類：つまみのみ作出し、刃部を形成する剥離調整が極端に少ないもの。

Ａ６類：つまみ部分のみの破片で、全体形状が不明のもの。

Ｂ１類：刃部平面形が直線的で、角をもつもの（46図16）。

Ｂ２類：刃部平面形が曲線的で、角をもつもの（46図15）。

Ｂ３類：刃部平面形が曲線的で、角を持たず全体が丸いもの。

Ｂ４類：つまみのみ作出し、刃部を形成する剥離調整が極端に少ないもの。

Ｃ１類：刃部が直線的で、角をもつもの。

Ｃ２類：刃部が曲線的で、角をもつもの。

Ｃ３類：刃部が曲線的で、角を持たず全体が楕円形を呈するもの（46図20）。

Ｃ４類：縦横比の差が少なく、刃部が直線的なもの。

Ｃ５類：縦横比の差が少なく、刃部からつまみにかけて平面形が丸いもの。

Ｃ６類：つまみを２つもつもの（46図21）。

Ｃ７類：つまみのみ作出し、刃部を形成する剥離調整が極端に少ないもの。

出土位置で比較すると遺構内２点、遺構外44点で、遺構内に伴う例はわずかである。遺構外ではＬＱ45区に７点が集中するほかは、全面的に出土している。

分類群について大別ごとに比較すると、Ａ類が19点と最も多く、次いでＣ類18点、Ｂ類９点となっており差は少ないと言える。特定の平面形態に偏重する傾向が認められない現象は、素材形状への拘りが少なく、不定形剥片から石匙加工に適した素材を無作為に選択していることを示すのかもしれない。また、Ａ５・Ｂ４・Ｃ７類のように刃部形成の意図が希薄な資料が少ないながら認められ、これらについては素材の鋭利な縁辺をそのまま使用した可能性もあろう。

箆状石器（第46図22）

箆状の平面形態を伴う両面調整石器で、遺構外から２点出土した。他の定形石器と比べて極端に少なく、当該時期においては主要器種構成から外れたイレギュラーなものと推測される。46図に示した22は剥離面が粗い両面調整のみで構成され、特に刃部形成を示す調整加工は認められない。他の両面調整石器未製品や残核の可能性もあろう。

２点とも他の剥片石器類が多く出土する地区付近に分布する。

楔形石器（第47図１）

両極剥離の認められる石器で、遺構内外から19点出土した。これらの楔形石器には、特に顕著な縁辺の潰れは確認されておらず、骨角器や木器などの割断に使用された利器としての可否は判断し難い。剥片石器類全体を見ると、残核にサイズの小さいものが比較的多く見られることから、小原石を対象とした両極打法による剥片剥離技術の産物である可能性が高いと考える。

出土位置で比較すると遺構内１点、遺構外18点である。遺構内に伴う例はわずか１点で、偶然に混入した可能性が高いと推測する。遺構外でも特に集中する地点は認められず、全面的に出土している。

異形石器ほか（第47図２～７）

いわゆる異形石器のほか、定形石器には含まれないが丁寧な調整加工により意図的な形態に仕上げた剥片石器を含めた。遺構内外から８点出土している。47図７は異形石器で１点のみの出土である。硬質で透明な石材を素材として、三叉状の平面形態に仕上げている。５は丁寧な両面調整により槍状の平面形態をなし、一端につまみが作出されている。１点のみの出土である。６は厚手剥片を素材として一端に両面調整による棒状の突出部を、一端に急斜度調整による丸い刃部を作出したもので、破損品を含めて３点出土している。２～４はいわゆる嘴状石器で、３点出土した。

全て遺構外からの出土であり、特に集中する地点は認められない。

不定形石器（第47図９～14、48図１～12）

前述した剥片石器類に含まれない、二次加工や微細剥離を伴うものを不定形石器として一括した。遺構内外から549点出土している。これらについては、縦長剥片素材のものをＡ類、横長剥片素材のものをＢ類、調整加工により素材形状が不明なものをＣ類、破損により全体形状が不明なものをＤ類とし、さらに二次加工の様相から以下に分類した。

１類：素材縁辺に刃こぼれ状の剥離が認められるもの。いわゆるUFである。

２類：素材縁辺のごく狭い範囲に片面加工による連続した小規模剥離が認められるもの（47図８）。

３類：素材縁辺の広範囲に片面加工による小規模剥離が連続するもの。調整加工の及ぶ範囲によって、以下のように細分した。

a類：一側縁もしくは側縁から端部にかけて加工が施されるもの(47図10～14)。

b類：全周に加工が施されるもの(47図９)。

４類：素材の一端に片面加工による急斜度の刃部を作出したもの(48図１～３)。

５類：素材縁辺に鋸歯状の刃部を作出したもの(48図４)。

６類：素材縁辺の一部に急斜度調整による抉りを付けたもの。

７類：素材縁辺の広範囲に両面加工による小規模剥離が連続するもの。

８類：片面加工による比較的粗い調整剥離を伴うもの。調整の施される部位や、他の二次加工との重複により以下のように細分した。

a類：縁辺の一部にのみ粗い片面加工を施すもの。

b類：素材の打瘤付近にのみ粗い片面加工を施すもの。

c類：分厚い剥片を素材として、半周から全周にわたり粗い調整加工を施すもの。

d類：素材の主要剥離面側に粗い調整加工を施し、連続する丁寧な片面加工によって刃部を形成するもの。

ｅ類：素材背面側に連続する粗い両面加工を施し、同じ箇所に連続する丁寧な片面加工によって刃部を形成するもの。

９類：両面加工を伴うもの。調整の施される部位や加工の精粗、他の二次加工との重複により以下のように細分した。

a類：縁辺の一部にのみ粗い両面加工を施すもの。

b類：素材の打瘤付近にのみ粗い両面加工を施すもの。

c類：分厚い剥片を素材として、半周から全周にわたり粗い両面加工を施すもの(48図５・７・８)。

d類：薄い小型剥片を素材とし、半周から全周にわたり比較的丁寧な両面加工を施すもの(48図６)。

ｅ類：厚手の剥片を素材として打瘤や分厚い箇所に粗い両面加工を施し、薄い縁辺部に連続する丁寧な片面加工によって刃部を形成するもの(48図10)。

ｆ類：厚手の剥片を素材として粗い両面加工と丁寧な調整加工を施し、一端が尖る断面凸レンズ状の形態に仕上げるもの。

10類：意図的な折り取り加工の認められるもの。折れの状況や折り取り後の加工状況から以下に細分した。

a類：厚手剥片に折り取り加工のみ認められるもの。素材背面側からの加圧による折れや、折れ面が複数切り合うものを抽出した。

b類：厚手剥片の折れ面に連続する小剥離調整を施すもの。

c類：厚手剥片の折れ面を打面として粗い調整剥離を施すもの。

d類：薄手小形剥片の側縁に丁寧な両面加工を施し、折れ面を打面として調整剥離を施すもの。

11類：素材全周に丁寧な両面加工を施し、平面形態を左右対称の木葉形に仕上げるもの(48図11)。

出土位置で比較すると遺構内27点、遺構外522点で、遺構内に伴う例がある程度認められる。多くの場合は偶然の混入と推測されるが、ＳＫ13のように複数点出土したものについては、遺構内に意図的に残置した可能性もある。遺構外で特に集中した地区は認められず、剥片石器類全体と同様な出土傾向を示している。

分類群ごとに出土点数を比較すると、１類46点・２類38点・３類121点・４類26点・５類21点・６類15点・７類25点・８類47点・９類164点・10類43点・11類３点となる。出土点数では３類のような片面加工の刃部をもつ石器と、９類のような両面加工石器が主体をなすと言える。特に小型剥片を素材とした９d類や10d類については、石鏃の未成品・失敗品である可能性が高い。折れ面から調整剥離を施す10c類についても、石鏃など小型石器の未成品と推測される。

剥離調整の対象箇所としては、素材打瘤付近に加工が集中するもの（８b類・９b類・９e類）が一定量認められる。これらは打瘤の除去により、器体の薄手化を意図したものと考えられる。

剥片

剥片および砕片は遺構内外から3,938点出土した。剥片のサイズは比較的小型のものが多く、形状はばらつきが大きい。特に定形的な剥片を連続的に生産した可能性は低いものと推測される。

出土位置で比較すると遺構内145点、遺構外3,793点で、遺構に伴う多量出土例は認められず、大部分が偶然に混入したものと推測される。遺構外で特に集中した地区は認められず、剥片石器類全体と同様の出土傾向を示している。

残核（第48図14、49図１～６）

残核は遺構内外から167点出土した。特に作業面の位置関係から以下のように分類した。

Ａ類：分割礫などを素材とし、特に作業面を固定せずランダムな位置で剥片剥離を行うもの（48図14、49図２・３・６）。

Ｂ類：分割礫もしくは大型剥片を素材とし、割れ面や主要剥離面を作業面に固定して、ランダムな方向で剥片剥離を行うもの（49図４）。

Ｃ類：分割礫もしくは大型剥片を素材とし、作業面と打面を入れ替えながら剥片剥離を行うもの（第49図１）。

Ｄ類：分厚い大型剥片を素材とし、素材主要剥離面を打面として剥片剥離を行うもの。

Ｅ類：薄い板状礫や剥片を素材とし、折れ面を打面として剥片剥離を行うもの（49図５）。

出土位置で比較すると遺構内10点、遺構外157点で、遺構内に伴う例は少なく、偶然に混入したものと推測される。遺構外でも特に集中した地区は認められず、剥片石器類全体の出土傾向と調和的である。

分類群ごとに出土点数を比較すると、Ａ類70点・Ｂ類60点・Ｃ類22点・Ｄ類８点・Ｅ類７点となる。分割礫の割れ面を作業面とするＢ類が比較的多いのは、表面の風化した部分を避けて剥片を獲得する意図があったものと推測する。また、Ｅ類のような薄手の原石も剥片生産の対象とすることから、大型原石の獲得が困難な石器石材環境にあったと考えられる。

（２）礫石器類（第50・51図、図版28・29）

礫素材を直接使用したものや軽微な加工を施したものに石斧類を加え、礫石器類として一括する。遺構外では807点、遺構内出土分を合わせると総点数961点が出土した。器種組成は磨製石斧、打製石斧、石皿、砥石、磨・凹石類、敲石、礫器、石錘で構成される（第13表）。

磨製石斧（第50図１～５）

遺構内外から24点出土した。おおよそのサイズを基準として再加工品や未成品を加えてＡ～Ｄ類に、基部形状により１～３類に分類し、各分類項目を組み合わせて細分した。

Ａ類：長さ約13㎝を超える大型品（50図１）。

Ｂ類：長さ約９～11㎝の中型品（50図２）。

Ｃ類：長さ５㎝以下の小型・極小型品（50図４・５）。

Ｄ類：再加工品・未成品（50図３）。

１類：基部平面形が尖るもの（50図１）。

２類：基部平面形が丸みを帯びるもの（50図５）。

３類：基部平面形が平坦なもの（50図２・４）。

出土位置で比較すると遺構内２点、遺構外22点で、遺構に伴う例が若干認められる。遺構外では特に集中した箇所は認められない。

サイズ別に見ると中型品のＢ類が14点と最も多く、次いでＡ類（５点）、Ｃ類（３点）、Ｄ類（２点）となる。数は少ないが、Ｃ類のような小型品を組成する点が特徴と言える。50図３は未製品と考えられ、細長い礫素材の側面から剥離調整が施され、側縁には敲打痕が顕著に認められる。

打製石斧（第50図６）

遺構外から２点のみ出土した。50図６は完形品で比較的大型の礫剥片に両面調整を施して撥形の平面形態とし、刃部平面形は丸みを帯びている。刃部に対する使用痕は肉眼で確認できない。基部の抉れた部分には側縁に顕著な敲打痕が認められる。残りの１点は基部の破片で全体形状は不明であるが、側縁に同様の敲打痕が観察できる。

２点のみの出土であるが、ともに調査区南側に分布しており、他の石器とは傾向を異にする。

石皿（第50図７、51図１・２）

大型で比較的硬質な礫素材に研磨使用痕が認められるものを石皿とする。遺構内外から247点出土した。素材礫の形状および残存状況からＡ～Ｄ類に、使用面の形状から１・２類に分類した。

Ａ類：大型の扁平礫を素材とし、そのまま使用するもの。使用面を上に置くと据わりが良く、安定している（50図７）。

Ｂ類：大型の分厚い円礫を素材とし、そのまま使用するもの。使用面を上に置くと据わりが悪く、不安定である（51図１）。

Ｃ類：大型の扁平礫を素材とし、敲打整形により縁を作り出したもの（50図２）。

Ｄ類：使用面のみ観察される素材形状不明の破片。

１類：使用面が比較的平坦なもの（51図１）。

２類：使用面が深く窪んでいるもの（50図７・51図２）。

出土位置で比較すると、遺構内55点、遺構外192点と遺構内からも多く出土していることが分かる。特に礫群を伴う土坑や配石遺構などに含まれる場合が多く、意図的に礫群中に組み込まれた可能性が高い。遺構外では特に51ライン以北の調査区北側に濃密に分布している。

素材礫形状で比較すると、扁平なＡ類が113点と多く、Ｂ類が72点、Ｃ類が２点と続く。縁を作り出したＣ類は非常に少ない。使用面の形状では平坦な１類が圧倒的に多い。

砥石（第51図11・12）

小型で比較的軟質な礫素材に溝状・擦痕状の研磨使用痕が認められるものを砥石とした。遺構外から22点出土している。使用石材と使用痕の状況から以下Ａ・Ｂ類に分類した。

Ａ類：砂岩など、脆く軟質な石材が使用されているもの。使用痕の状況から以下に細分した。

１類：幅５～10㎜程度の幅広く深い溝状の研磨痕が認められるもの（50図11）。溝の断面は丸みを帯びている。

２類：面的に研磨され細かい擦痕が認められるもの。全て小破片であり、本来は溝状研磨痕を伴うものの一部であった可能性が高い。

Ｂ類：凝灰岩など、緻密で軟質な石材が使用され、細かい擦痕が認められるもの（50図12）。

Ａ類は玉類の製作に使用されたもの、Ｂ類は石棒や磨製石斧などの研磨作業に使用された可能性があろう。

全て遺構外から出土しており分布範囲は散っているが、特定地区に集中する傾向が認められる。

磨・凹石類（第51図３～７）

小型の礫素材に研磨や敲打使用痕が認められるものを磨・凹石類とした。遺構内外から631点出土している。素材礫の形状によりＡ～Ｃ類、使用痕により１～３類に分類した。

Ａ類：円礫を素材とするもの（51図３・４）。

Ｂ類：細長い礫を素材とするもの（51図５・６）。

Ｃ類：石皿など、他器種から転用したもの（51図７）。

１類：摩耗痕のみ認められるもの。

２類：素材の中央に敲打による凹みのみ認められるもの（51図３）。

３類：摩耗痕と敲打による凹みが双方認められるもの（51図４）。

出土位置で比較すると、遺構内91点、遺構外540点と遺構内からも多く出土していることが分かる。石皿と同様に、意図的に土坑や配石遺構の礫群中に組み込まれた可能性が高い。遺構外では特に51ライン以北の調査区北側に濃密に分布しており、石皿の分布傾向と調和的である。

素材礫形状で比較すると、円礫Ａ類が578点と圧倒的に多く、Ｂ類が50点、Ｃ類が３点と続く。使用痕では研磨使用のみの１類が414点と多く、次いで凹みのみの２類が125点、摩耗と凹みを伴う３類が92点と続く。３類が一定量出土していることから、摩耗痕と凹みを形成する研磨作業と敲打作業はそれぞれ独立した無関係なものではなく、相関する一連の作業であった可能性が高いと考えられる。

敲石（第48図13、51図８・９）

素材礫の稜部や端部を敲打使用したもの。遺構外から11点出土した。素材形状から以下Ａ～Ｃ類に分類した。

Ａ類：円礫を素材とするもの（51図９）。

Ｂ類：細長い礫を素材とするもの（51図８）。

Ｃ類：剥片石器類を転用したもの（48図13）。

出土点数は少ないものの、分布は調査区北側に若干の偏りが認められる。

素材礫形状で比較すると、円礫のＡ類が７点と多く、Ｂ・Ｃ類がそれぞれ２点ある。これらは剥片石器類の打割に使用された可能性が考えられるが、剥片石器類と比べて出土量が少なく不明確である。

礫器（第51図10）

素材礫の側縁や端部に両面剥離調整を施したもの。遺構内外から17点出土した。素材形状から以下のＡ・Ｂ類に分類した。

Ａ類：扁平な円礫を素材とするもの（51図10）。

Ｂ類：細長い礫を素材とするもの。

出土位置で比較すると、遺構内６点、遺構外11点で特に土坑からの出土例が多く確認されており、意図的に土坑中に埋納された可能性が高い。遺構外での分布には特に偏りは認められない。

素材礫形状を比較すると、扁平な円礫のＡ類の方が多い。

石錘（第51図13）

礫素材の対向する辺に窪みをつけたもの。遺構内外から８点出土した。窪みの付け方によって、以下のＡ・Ｂ類に分類した。

Ａ類：礫素材の両端に打ち欠きによる窪みを付けたもの。

Ｂ類：素材の両端に擦切りによる切れ目を付けたもの（51図13）。いわゆる切目石錘である。

出土位置で比較すると、遺構内１点、遺構外７点で遺構内からの出土例はわずかである。出土点数は少ないが、遺構外では他の礫石器と同様の分布傾向が認められる。

分類別の比較では、Ａ類５点・Ｂ類３点でほぼ同じ程度である。

硅化木（第13表）

特に使用痕の認められる礫ではないが、硅化木が遺構内外から多量に出土しており、遺構外では合計54,682.3ｇ出土している。遺構出土例では礫群を伴う土坑や配石遺構の一部に目印のように組み込まれている場合があり、搬入礫として遺跡に持ち込まれ、積極的に利用されたことは疑いない。

３　土製品（第52図、図版30）

土製品は遺構内外から60点出土した。種別としては土製耳飾・土偶・土器片円盤・その他の土製品が出土している（第15表）。

土製耳飾（52図１～３）

遺構内外から６点出土した。遺構内から出土した20図17はいわゆる滑車形の耳飾りで、沈線による文様が部分的に観察される。沈線内には赤色顔料が残存しており、本来は全体に朱彩が施されていたようである。52図１・２も滑車型の耳飾りで、両面が窪んで中心に穿孔があり、全体に朱彩が施されている。３は環状を呈する耳飾りである。

土偶（第52図４～10）

遺構外から22点出土した。全て破片であり、全体形状を復元できる個体は確認されなかった。部位別の内訳は頭部５点、胴部９点、腕部４点、脚部４点である。土偶は全て中実で、縄文時代後期前葉・中葉に帰属するものが含まれている。４は頭部破片で、顔の表現は剥落のため観察できないが、逆三角形状の形態から後期前葉に属すると考えられる。一部にアスファルトと思われる付着物が認められる。５も頭部破片で、頭部形状に特徴が見られ、後期中葉に属すると考えられる。６は胴部破片で、細身で扁平な形状を呈する。７は腕部破片で全体に刺突が施されている。９は脚部破片で付け根に穿孔が認められる。10も脚部で、下端部が張った形状をなす。

土器片円盤（第52図15～17）

土器片の周囲に打ち欠きや摩耗痕の見られるものを土器片円盤とした。遺構内外から27点出土している。文様構成の確認できる資料は少ないが、15・16など後期前葉の土器片利用例が認められる。

その他の土製品（第52図11～14）

上記以外の土製品は遺構外から５点出土した。11は表面の摩滅が著しく不明瞭であるが、四足動物を模したと推測される土製品で、口の表現とみられる穿孔が認められる。12は分銅形土製品で括れた部分に穿孔を伴う。13は楕円形を呈する土製品の破片で、両面に沈線文が描かれ側面にも沈線が巡る。14は小型椀状の土製品である。

４　石製品（第52図、図版30）

石製品は遺構内外から32点出土した。種別としては石棒、有孔石製品、円盤状石製品、その他の石製品が出土している（第16表）。

石棒（第52図18～21）

遺構内外から18点出土した。サイズによりＡ・Ｂ類に大別し、小型のＢ類については断面形状から細分した。

Ａ類：大型の石棒である。18は先端部破片と考えられ、全体を丁寧に研磨している。

Ｂ類：小型の石棒である。断面形状から以下に細分した。

１類：断面形が楕円形を呈するもの（19・20）。

２類：一端もしくは両端が尖るもの。

３類：断面形状が判別できない破片。

４類：未成品と考えられるもの。１点のみの出土であるが、21は両面に調整剥離が施され、一部に研磨痕が観察できる。

サイズごとに比較すると、大型のＡ類は１点のみで、小型のＢ類が主体をなす。Ｂ類のうち断面形状の判断できる資料は少ないが、判別可能なものに限ると楕円形を呈する１類が多い。

有孔石製品（第52図23）

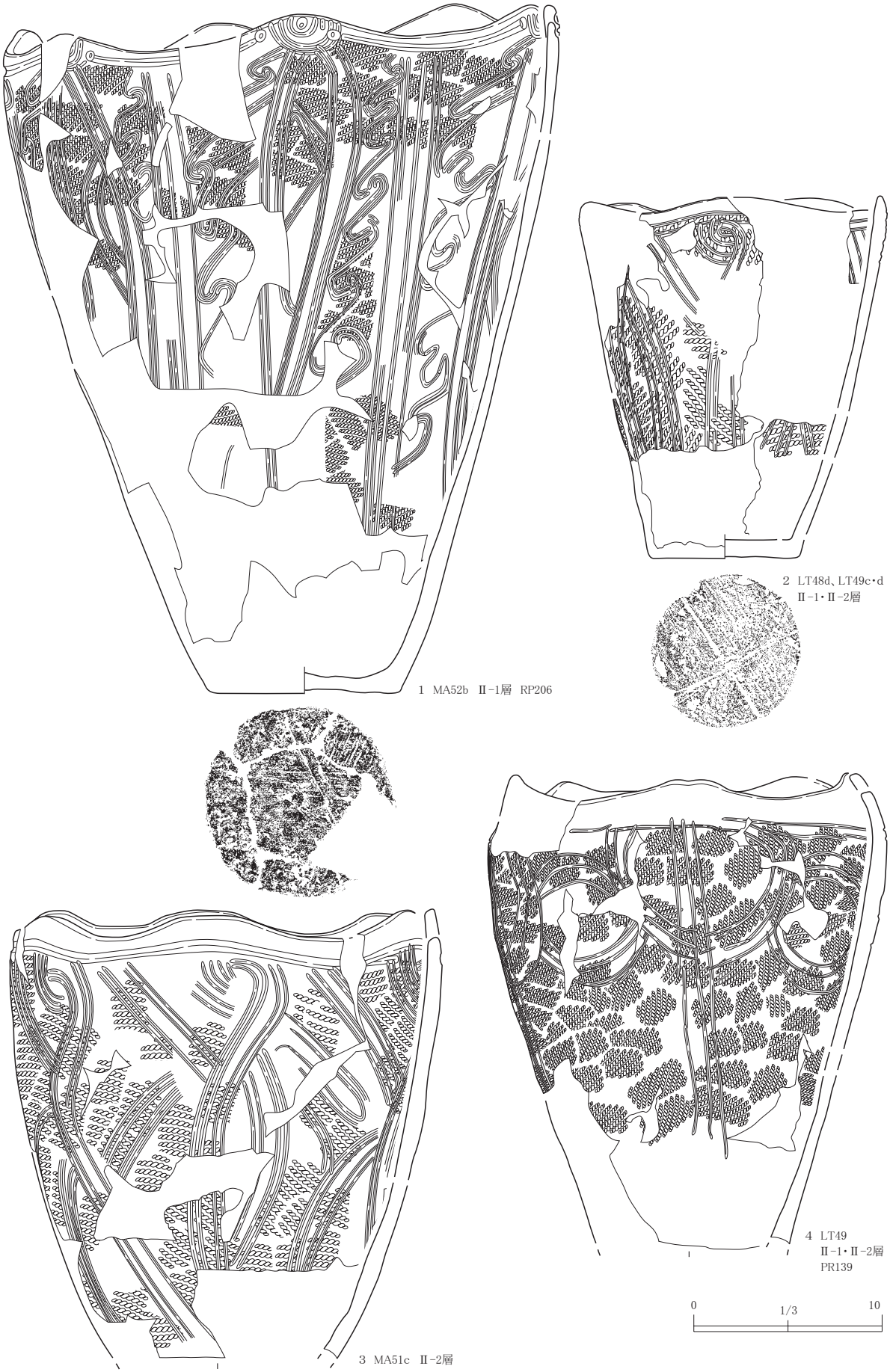
遺構内外から３点出土した。遺構内出土の22図12は分厚く軟質な礫を素材として、中央に穿孔が認められる。52図23は破片であるが、硬質な扁平礫を素材として２か所に両面から穿孔が施されている。

円盤状石製品（第52図22）

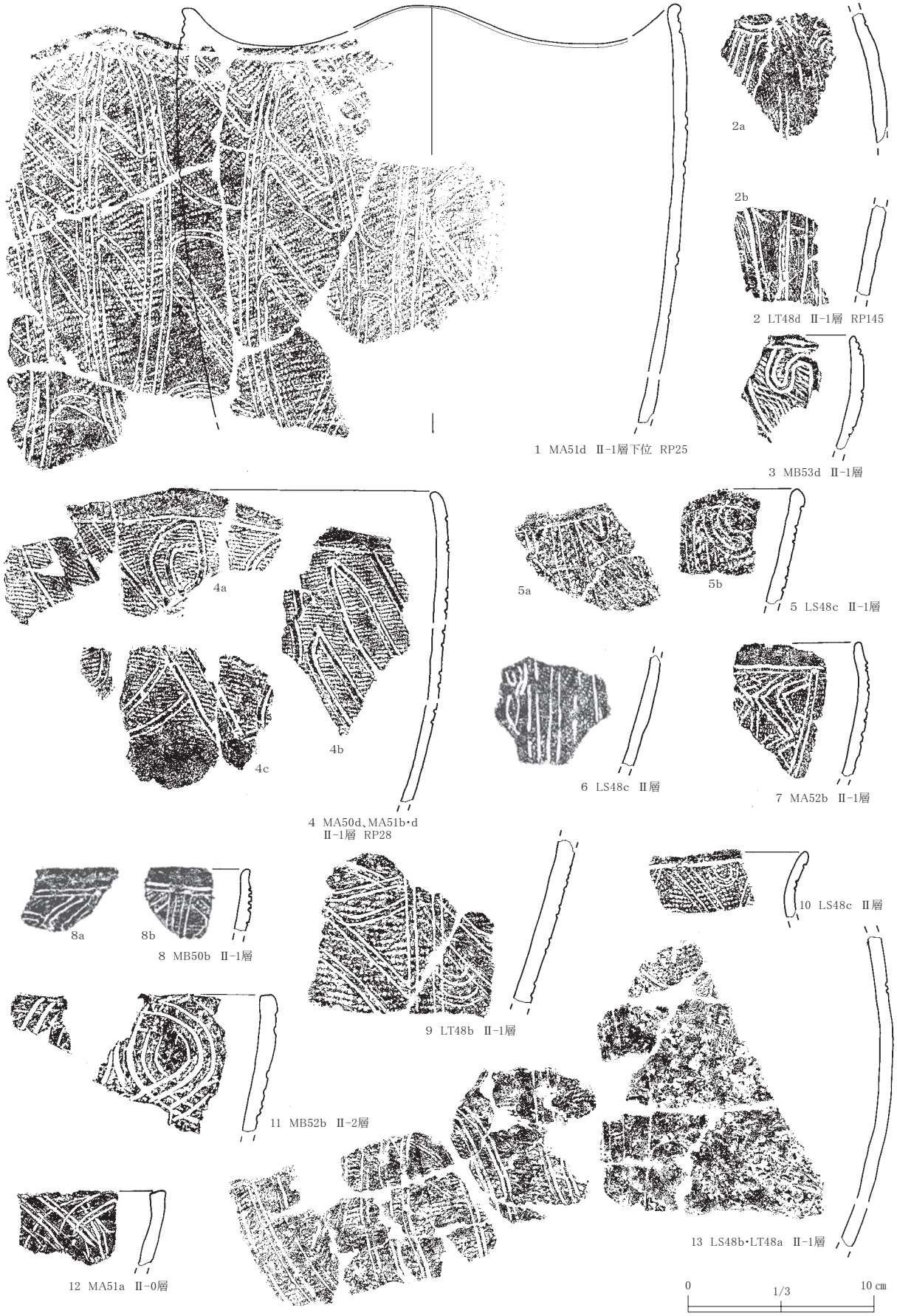
扁平礫の周縁に打ち欠きや擦痕が認められるものである。遺構外から９点出土した。22は薄い板状礫を素材として周縁を打ち欠き、全体を円形に仕上げている。

その他の石製品（第52図24）

上記以外の石製品は遺構外から２点出土した。24は分厚い小型の円礫を素材として、細い溝が半周している。素材礫のサイズ一回り小さくて分厚く、側縁の溝が対向していない点で、いわゆる切目石錘とは様相が異なる。

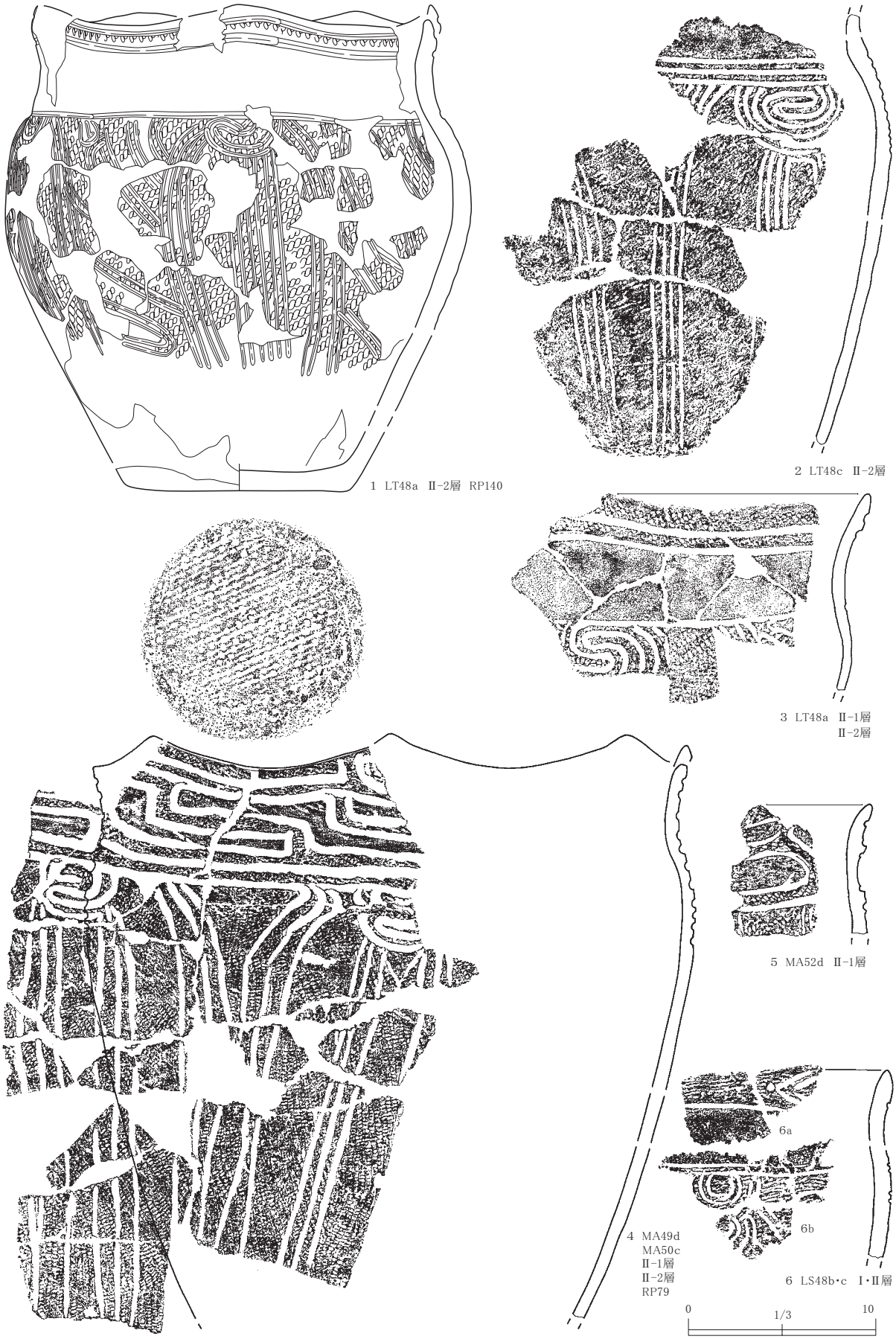


第23図　遺構外出土縄文土器（１）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢



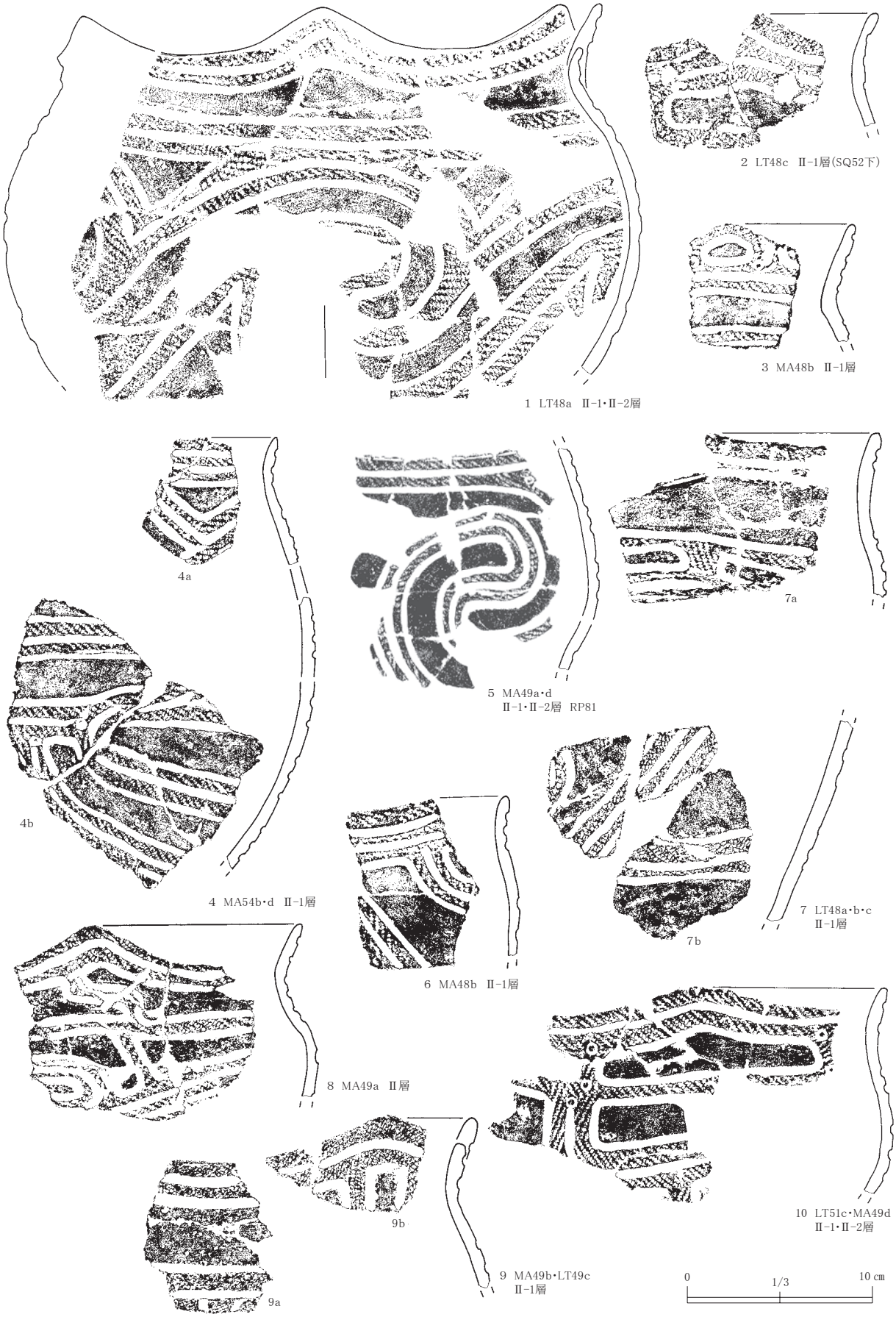
第24図　遺構外出土縄文土器（２）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢

第25図　遺構外出土縄文土器（３）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢

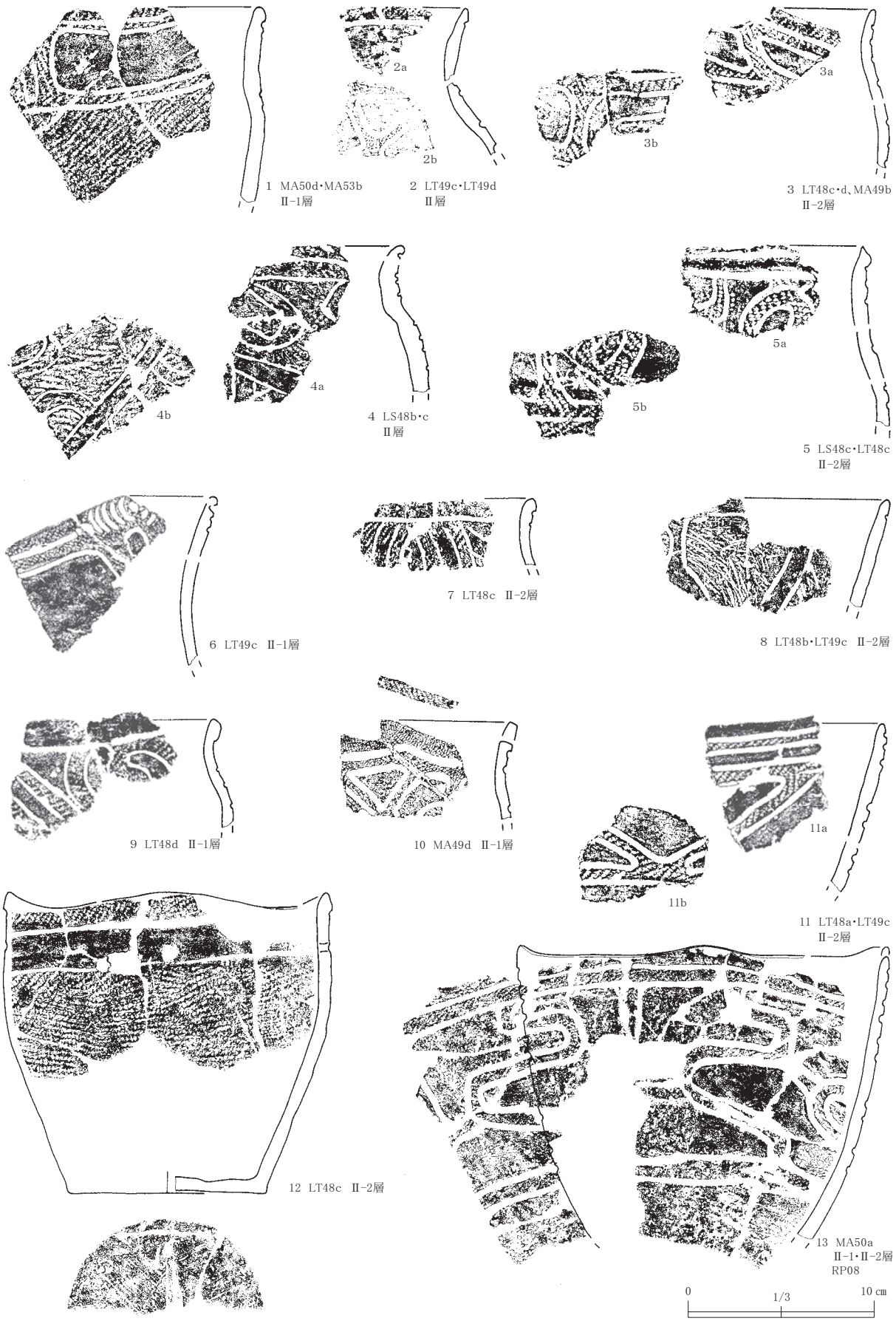


第26図　遺構外出土縄文土器（４）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢

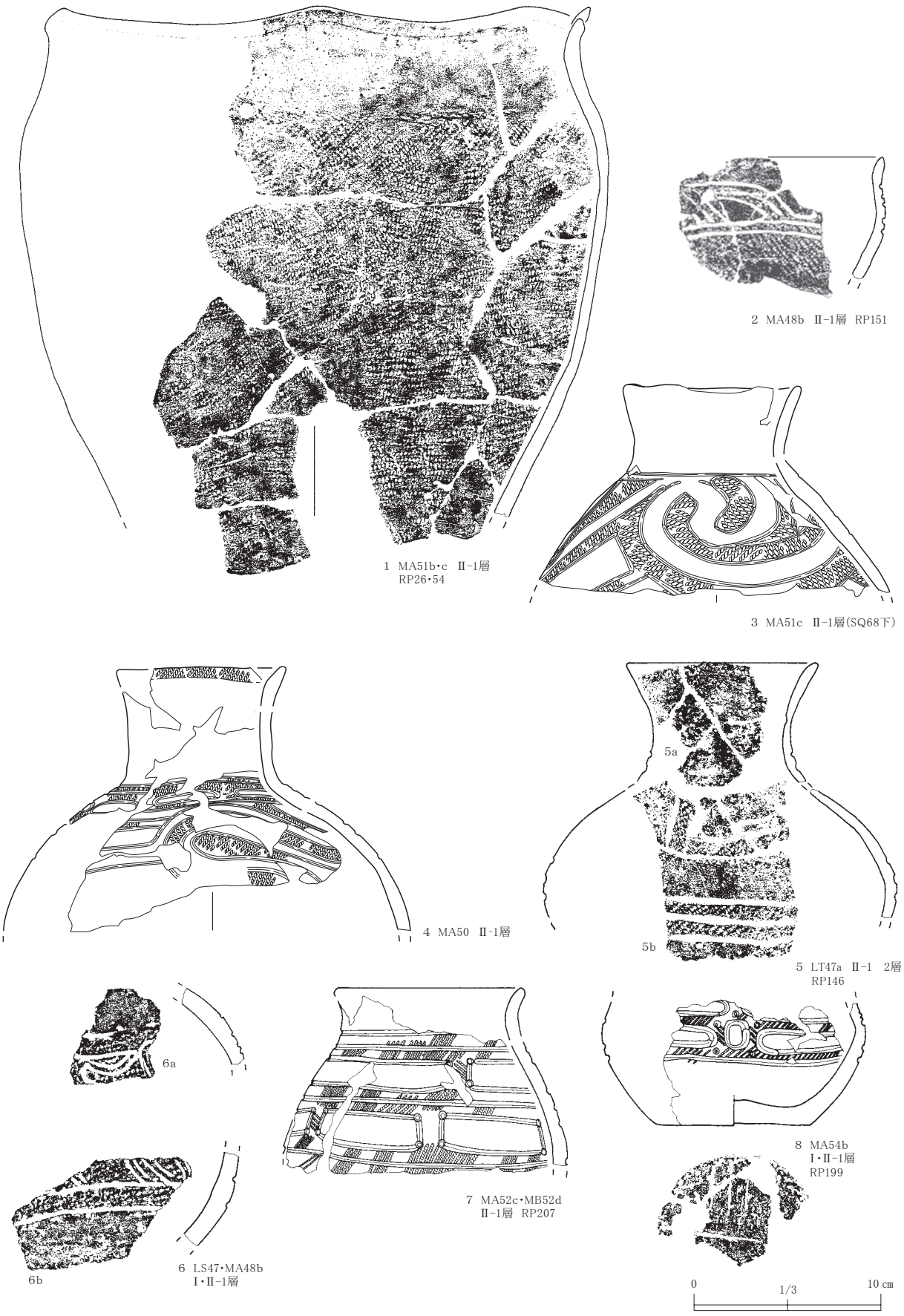
第27図　遺構外出土縄文土器（５）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢



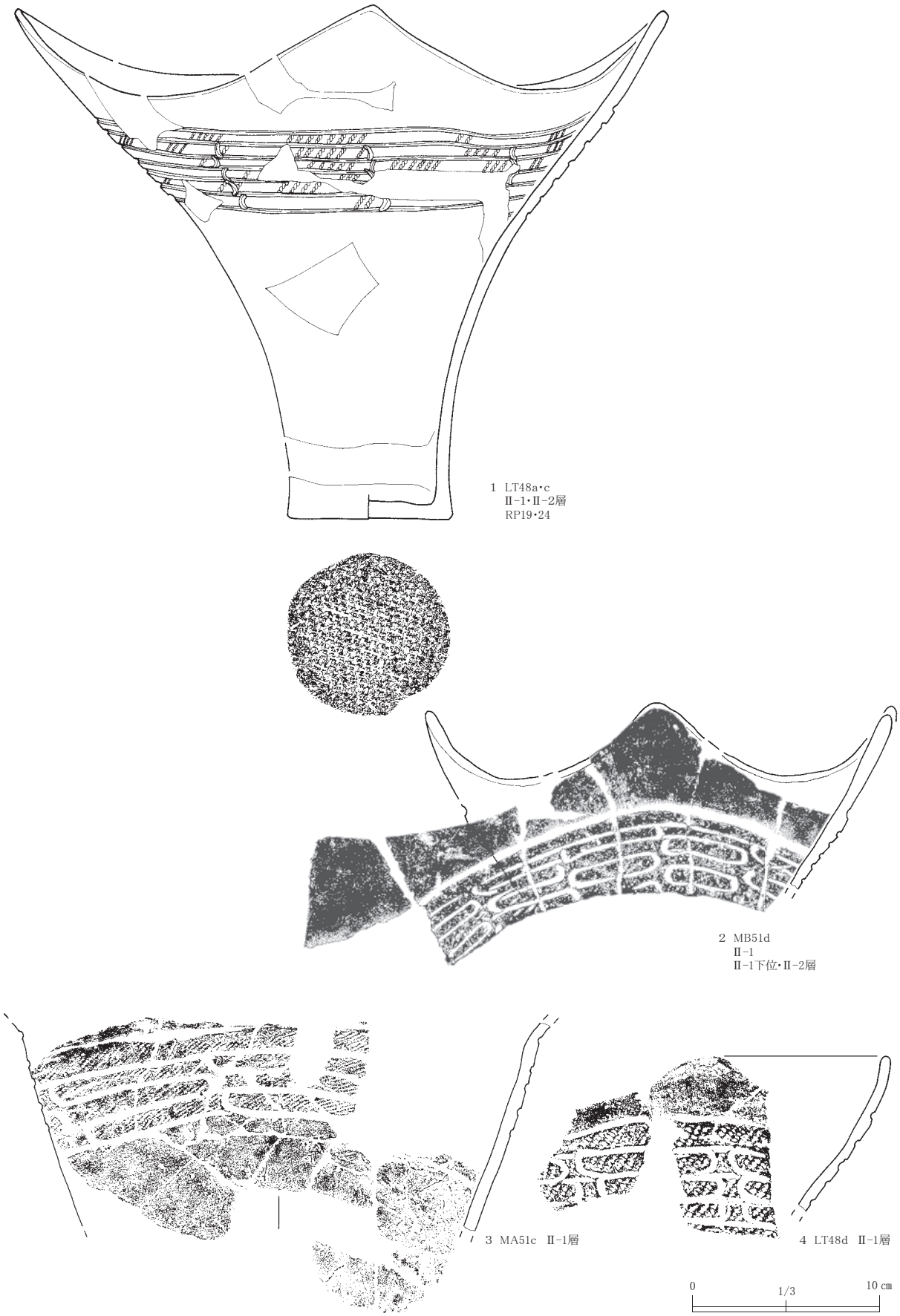
第28図　遺構外出土縄文土器（６）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢



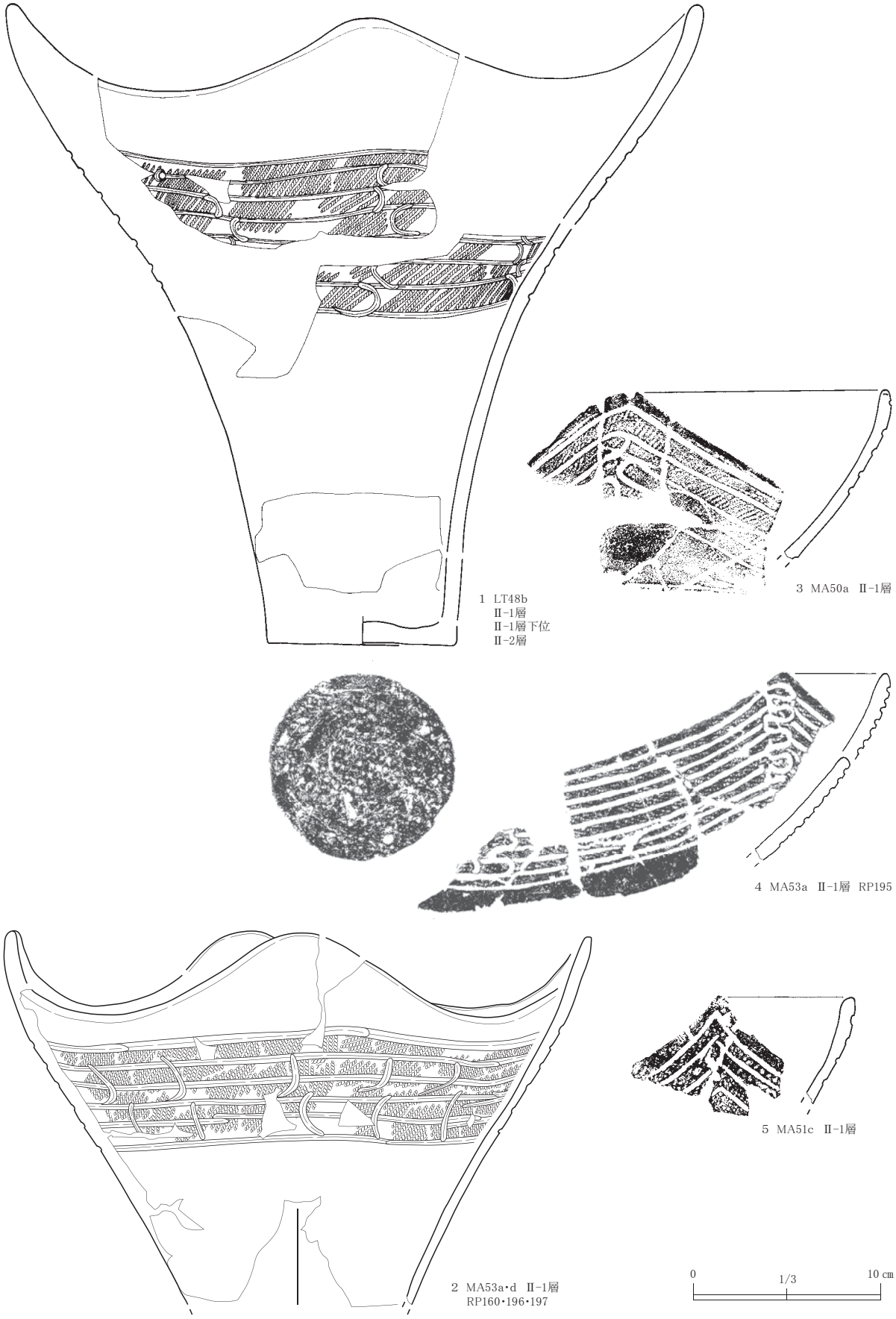
第29図　遺構外出土縄文土器（７）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢



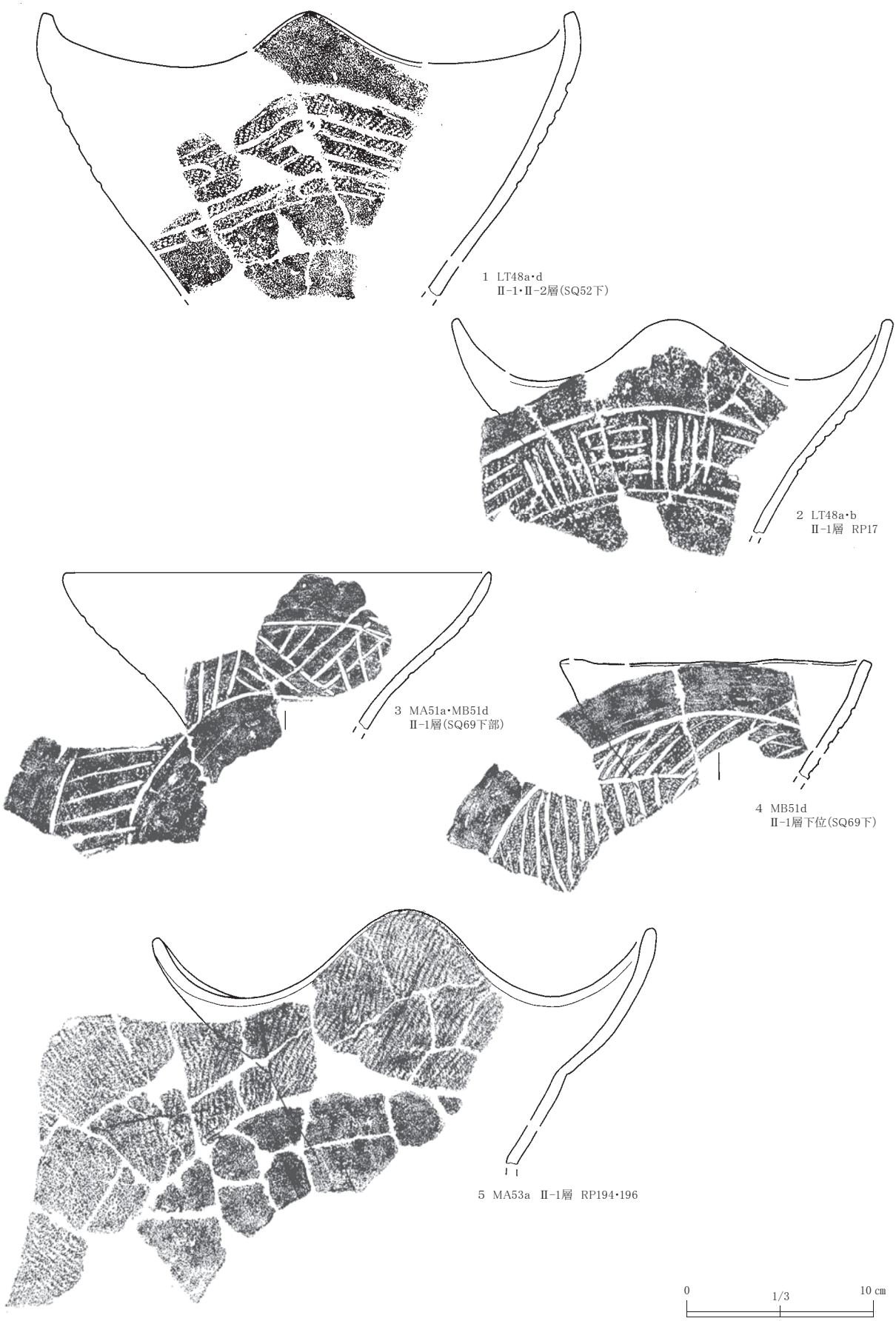
第30図　遺構外出土縄文土器（８）　Ⅰ群（後期前葉）深鉢、浅鉢、壺



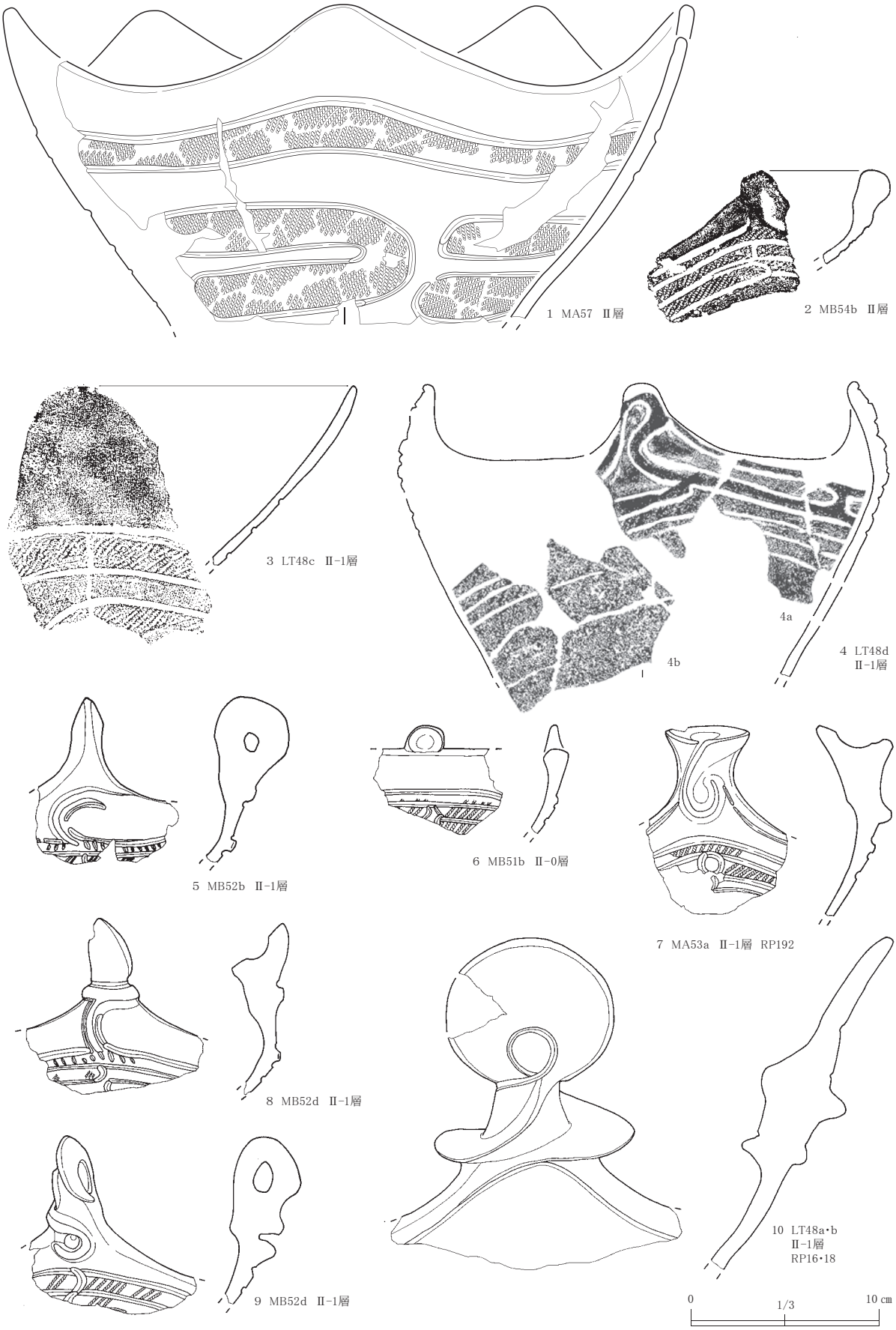
第31図　遺構外出土縄文土器（９）　Ⅱ群（後期中葉）深鉢



第32図　遺構外出土縄文土器(10)　Ⅱ群(後期中葉)深鉢

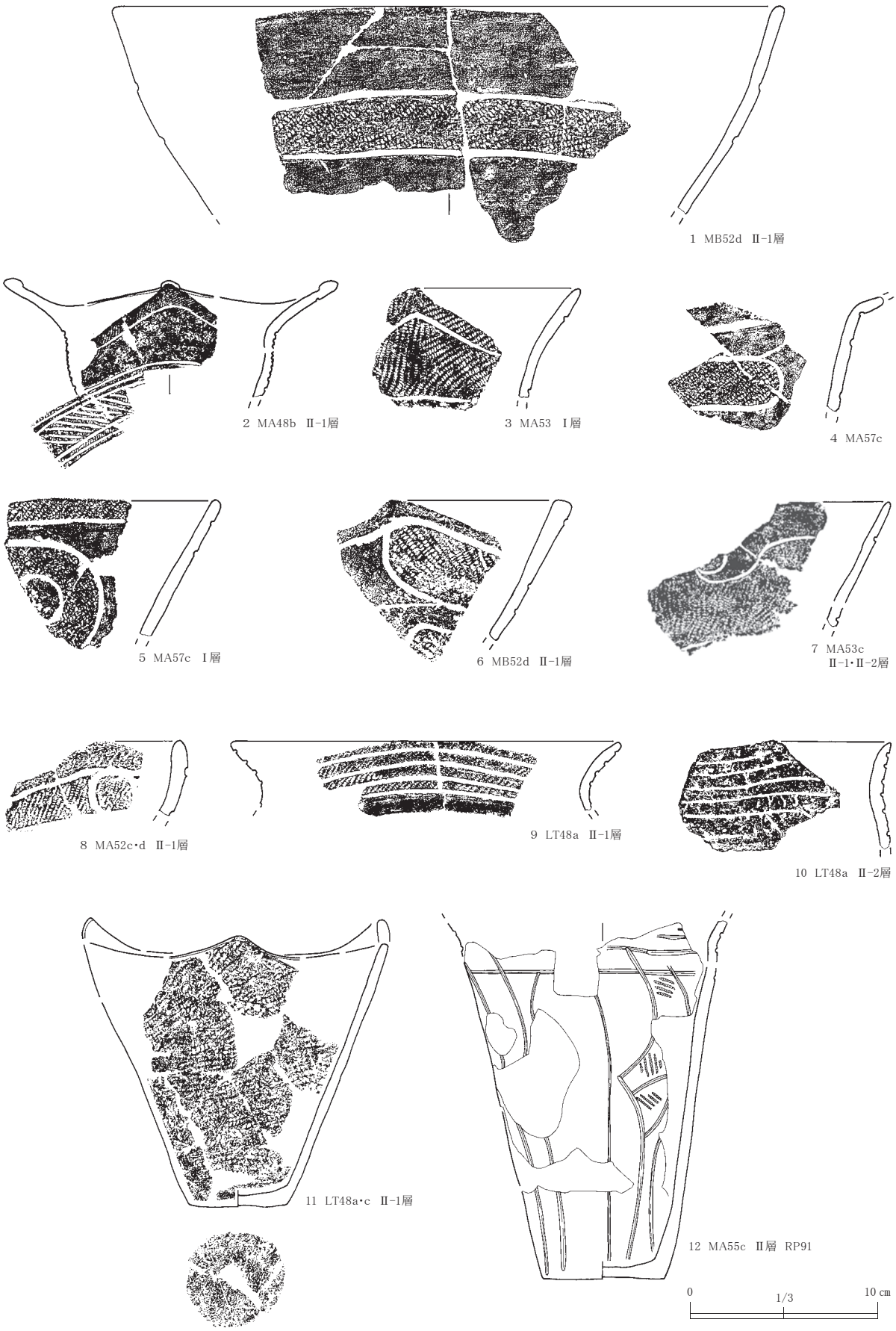


第33図　遺構外出土縄文土器(11)　Ⅱ群(後期中葉)深鉢

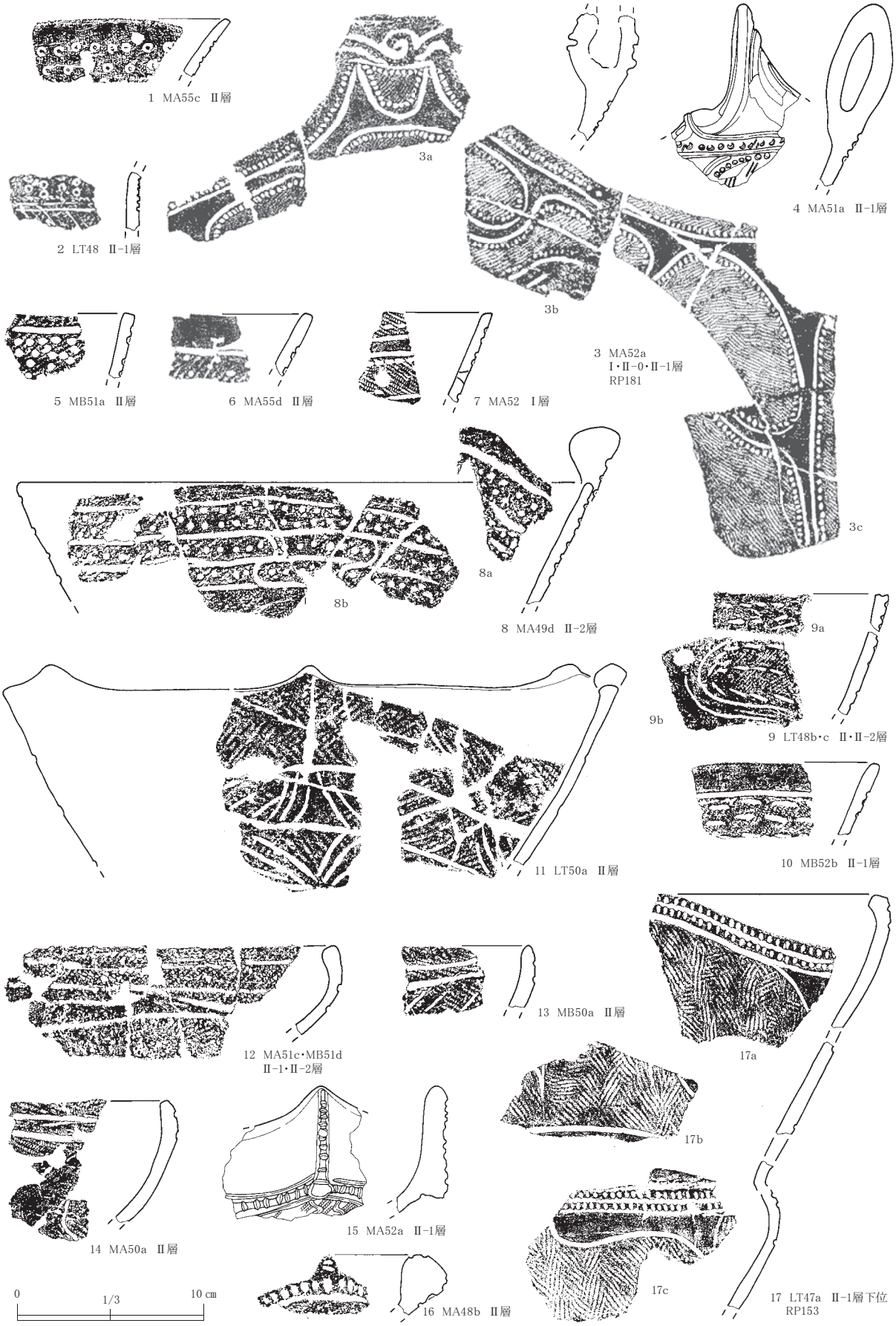


第34図　遺構外出土縄文土器(12)　Ⅱ群(後期中葉)深鉢

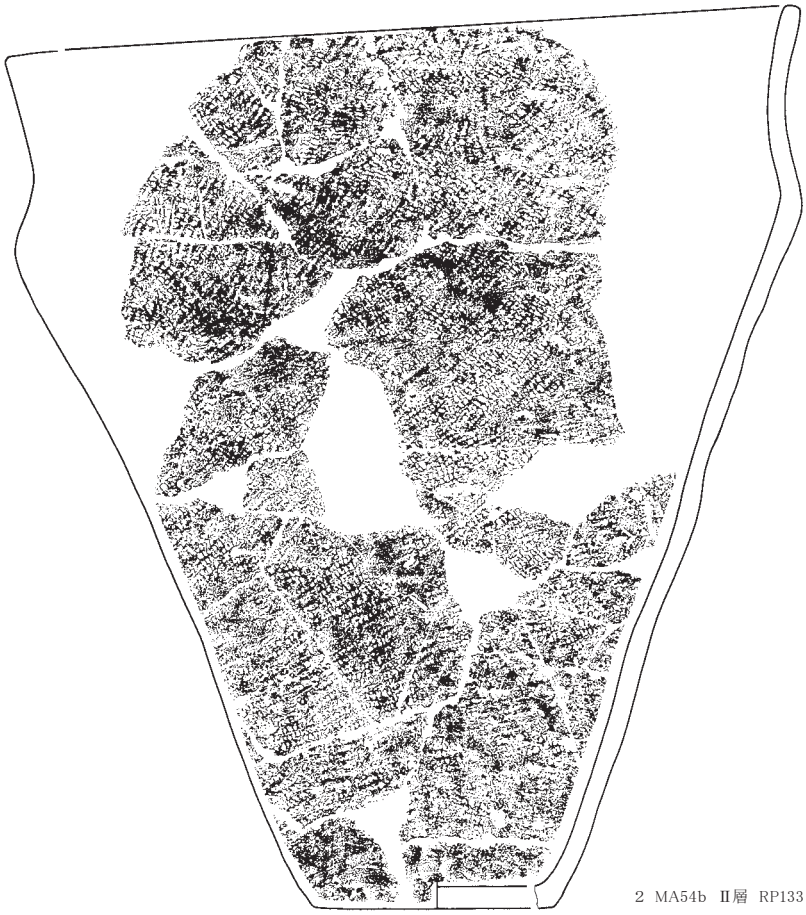
第35図　遺構外出土縄文土器(13)　Ⅱ群(後期中葉)深鉢

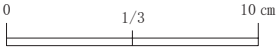


第36図　遺構外出土縄文土器(14)　Ⅱ群(後期中葉)深鉢

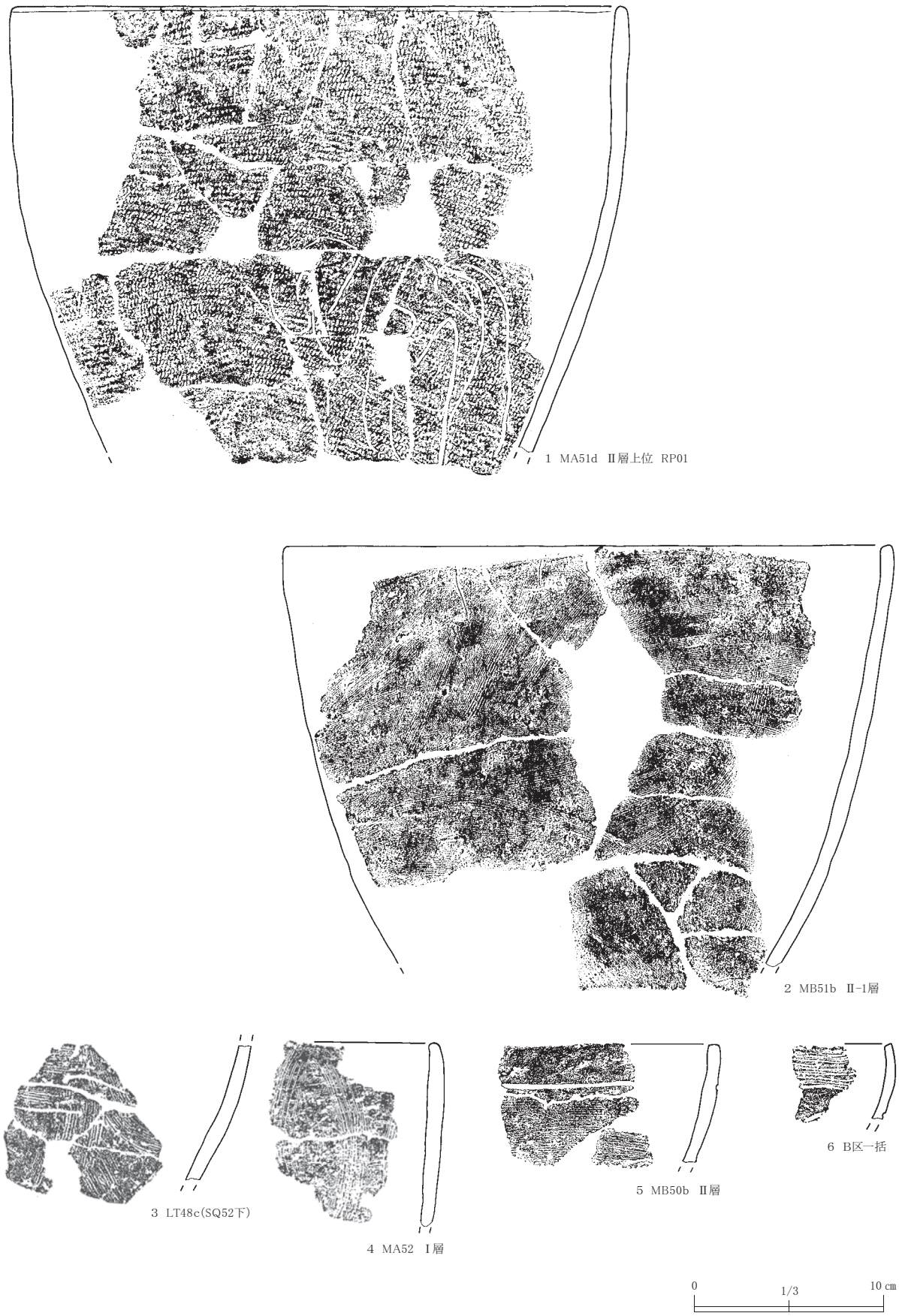


第37図　遺構外出土縄文土器(15)　Ⅱ群(後期中葉)深鉢

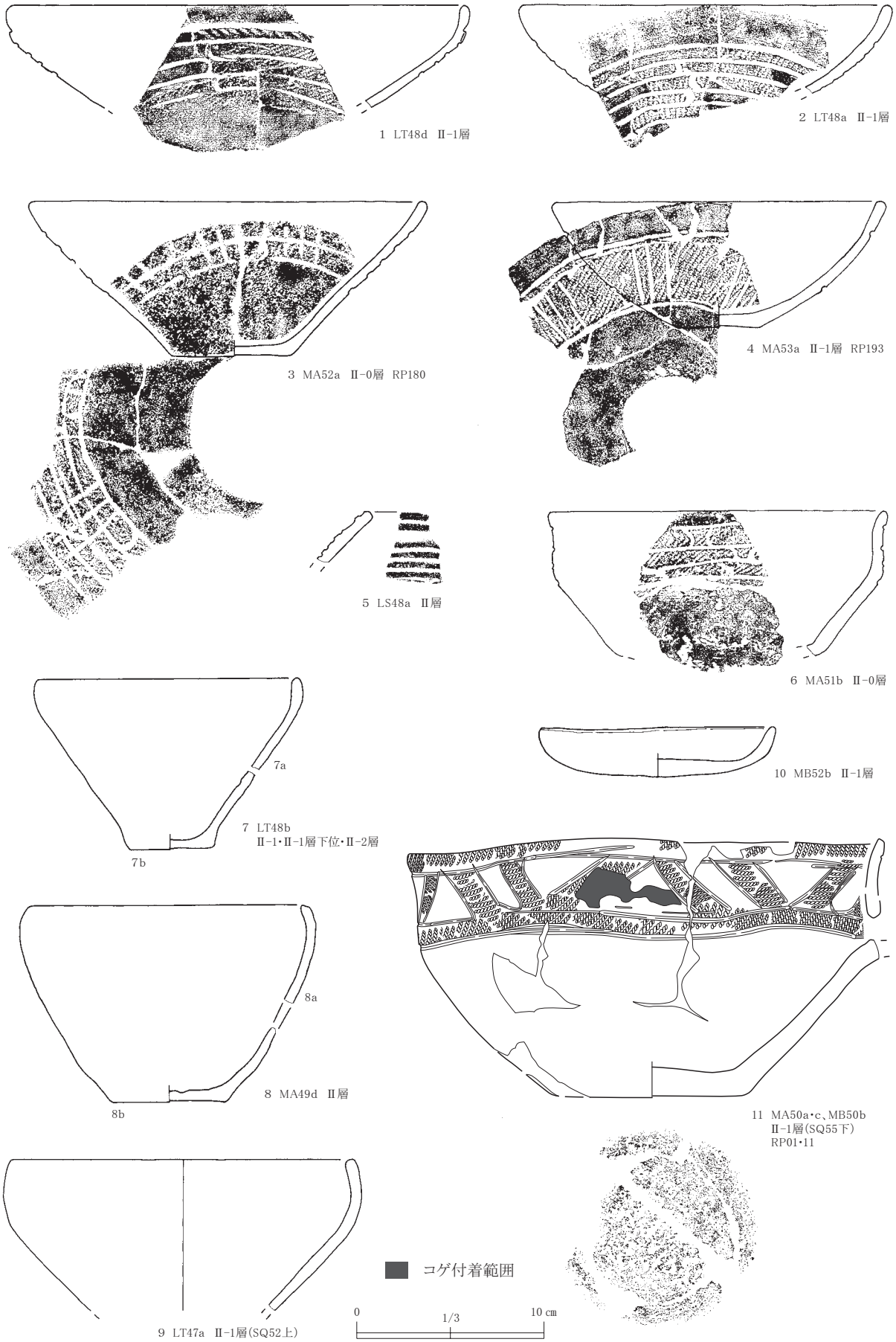




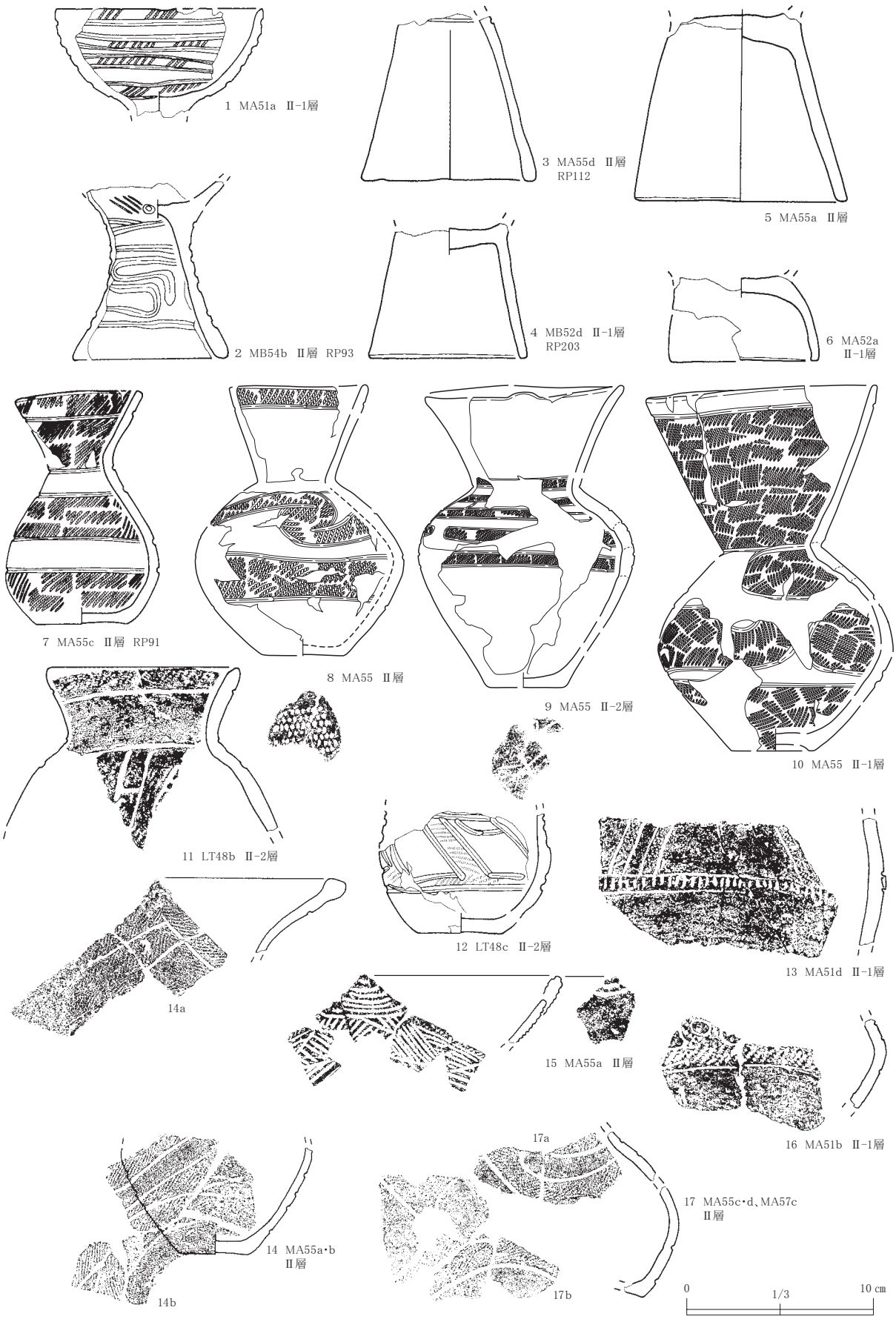
第38図　遺構外出土縄文土器(16)　Ⅱ群(後期中葉)深鉢



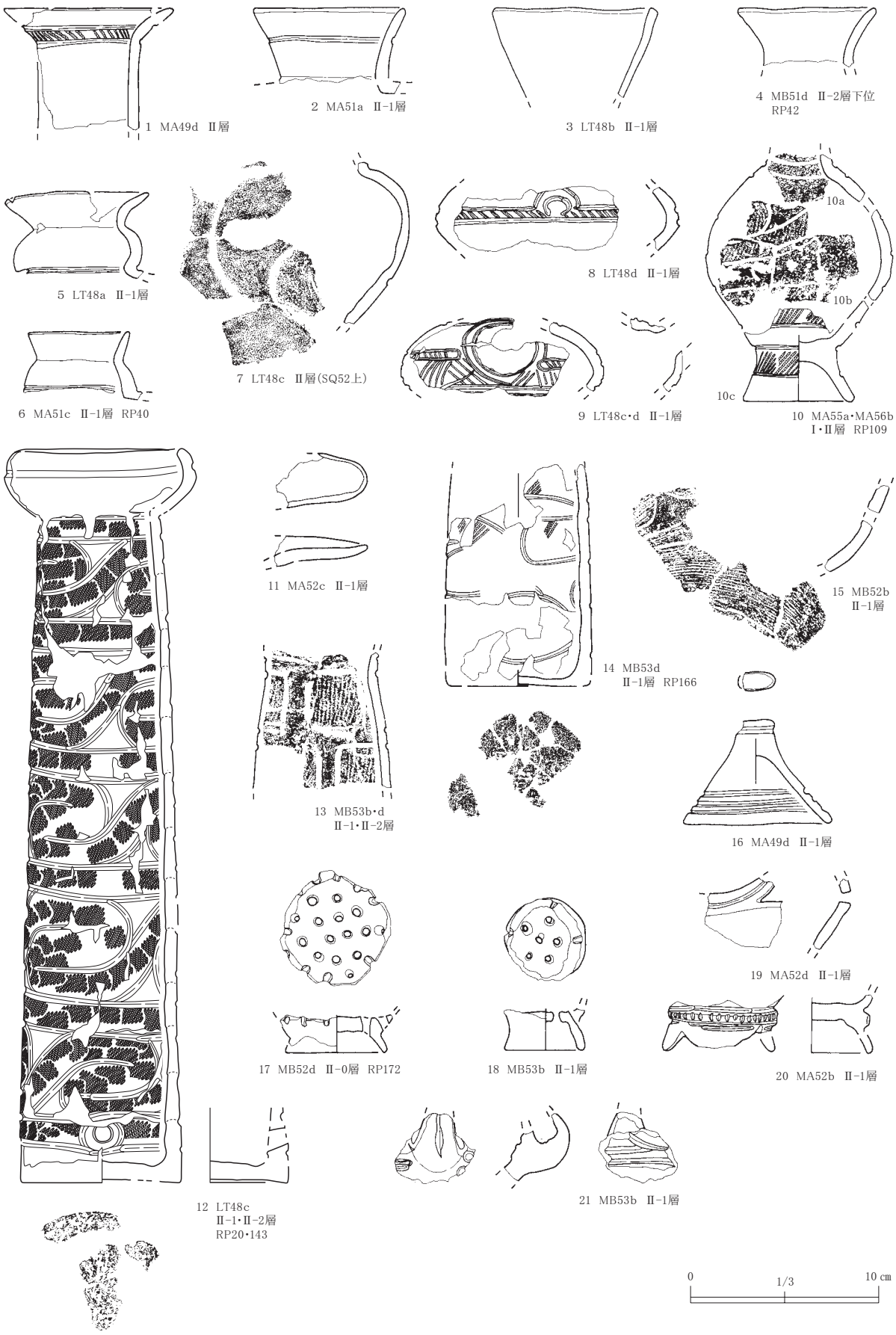
第39図　遺構外出土縄文土器(17)　Ⅱ群(後期中葉)深鉢



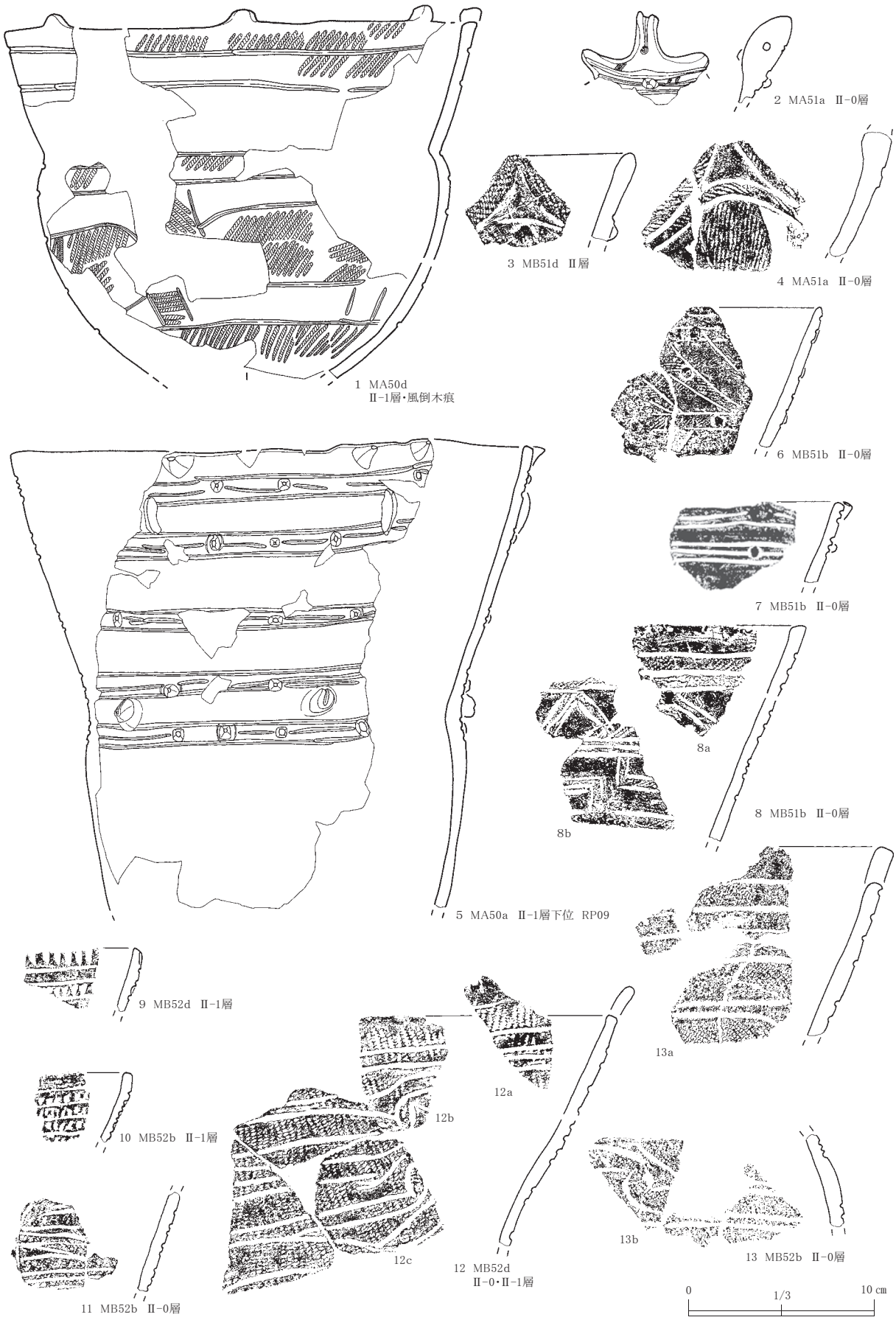
第40図　遺構外出土縄文土器(18)　Ⅱ群(後期中葉)鉢、浅鉢



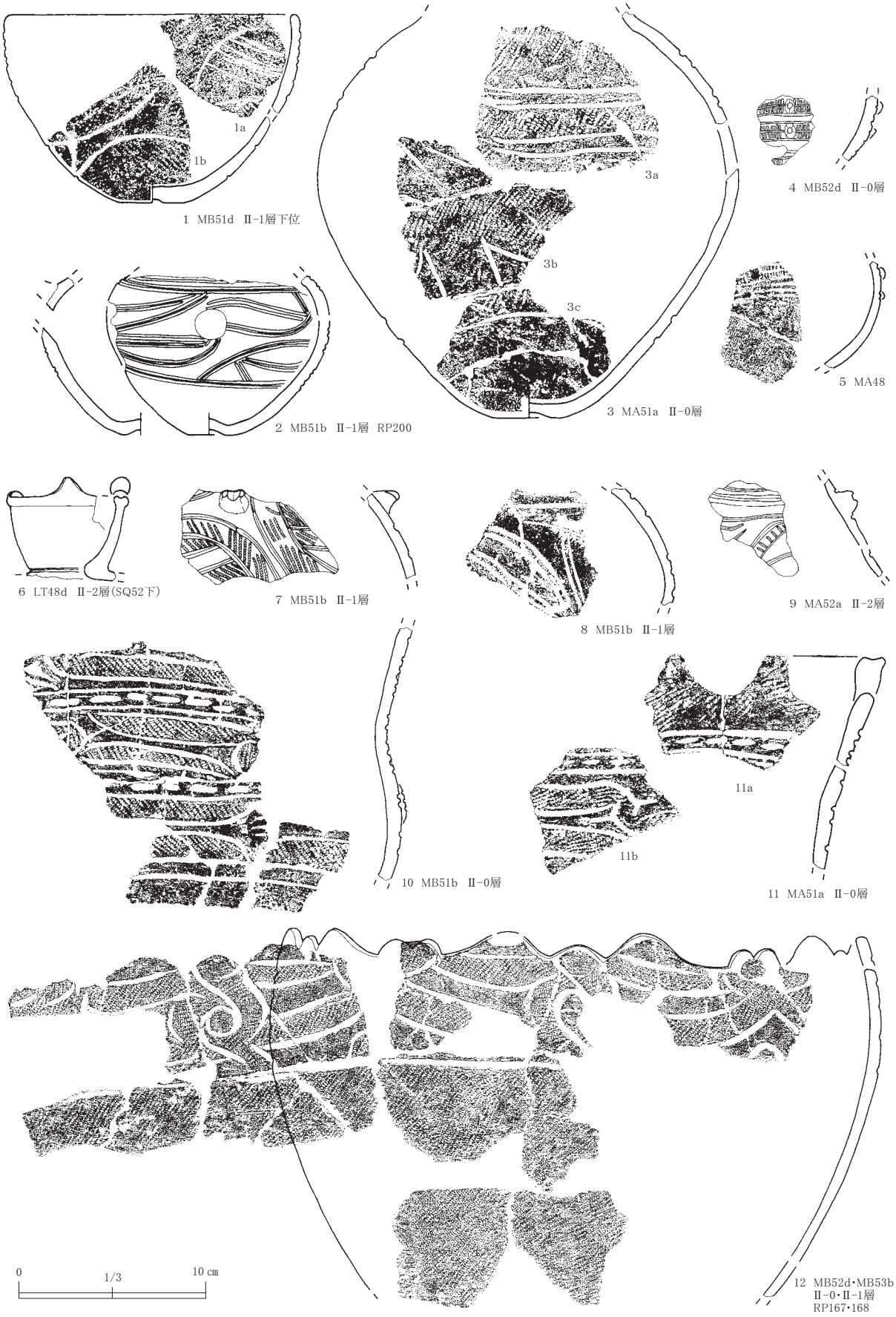
第41図　遺構外出土縄文土器(19)　Ⅱ群(後期中葉)台付鉢、壺



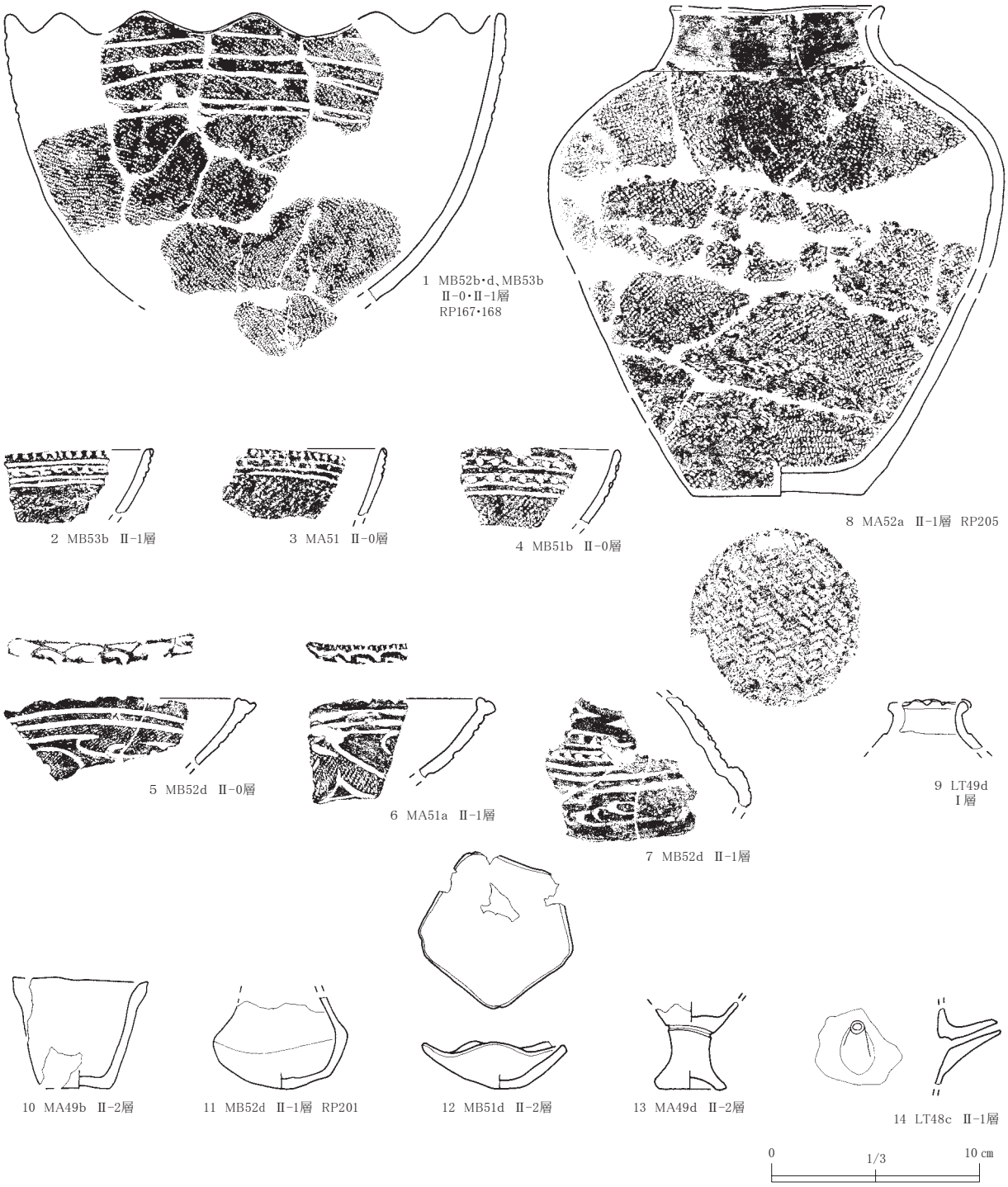
第42図　遺構外出土縄文土器(20)　Ⅱ群(後期中葉)壺、注口、単孔、蓋、多孔底、香炉



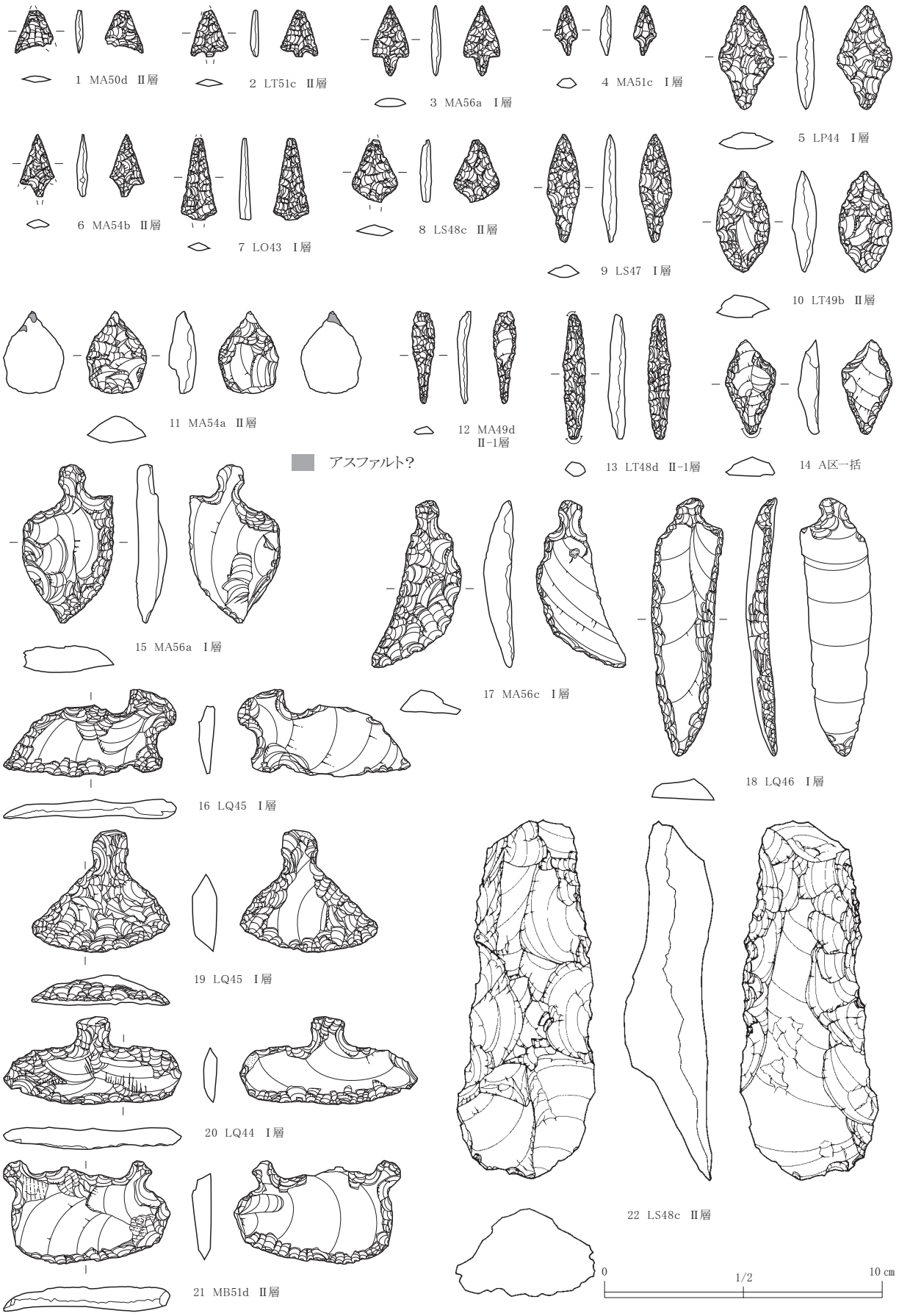
第43図　遺構外出土縄文土器(21)　Ⅲ群(後期後葉)深鉢



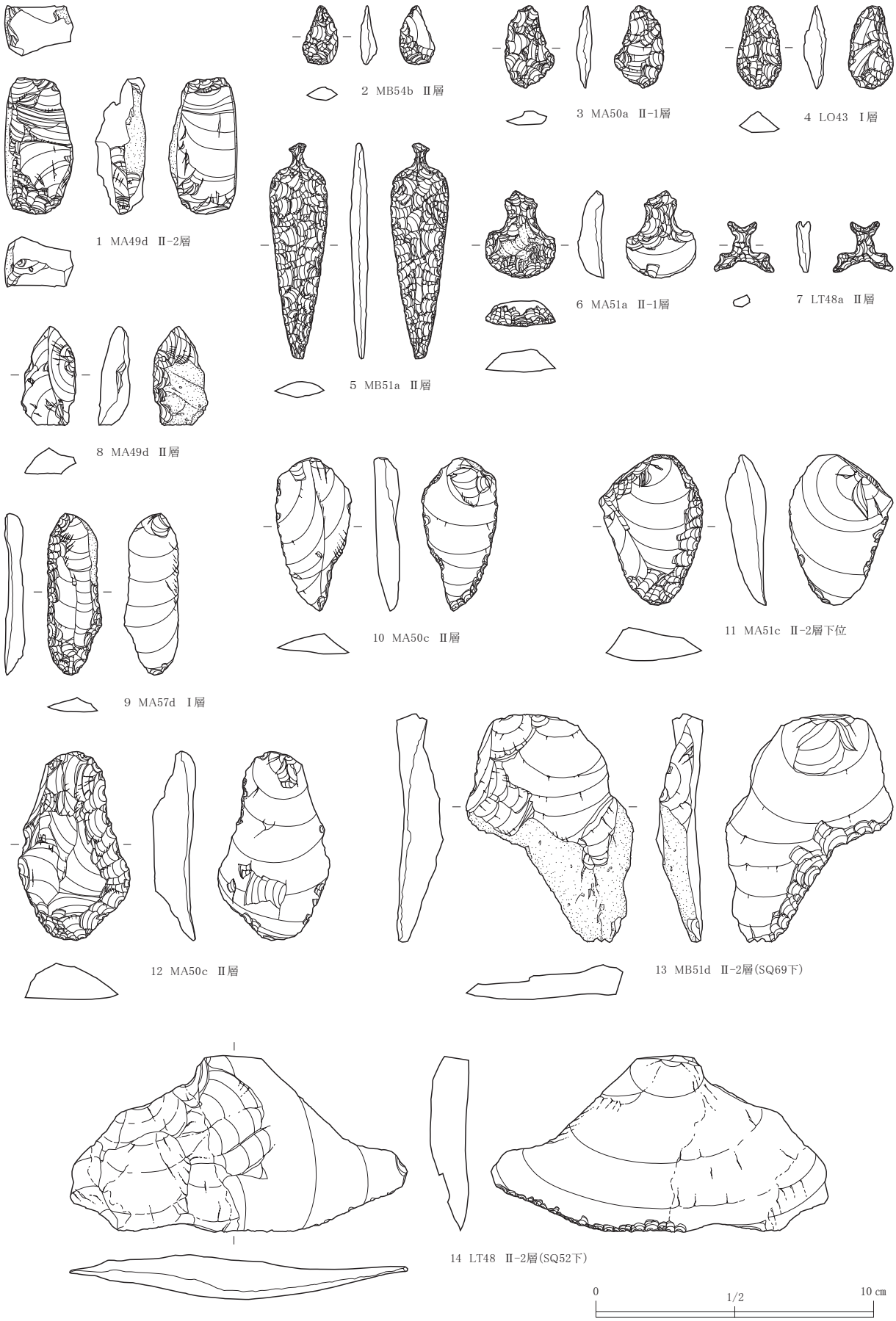
第44図　遺構外出土縄文土器(22)　Ⅲ群(後期後葉)鉢、壺、注口　Ⅳ群(晩期)深鉢



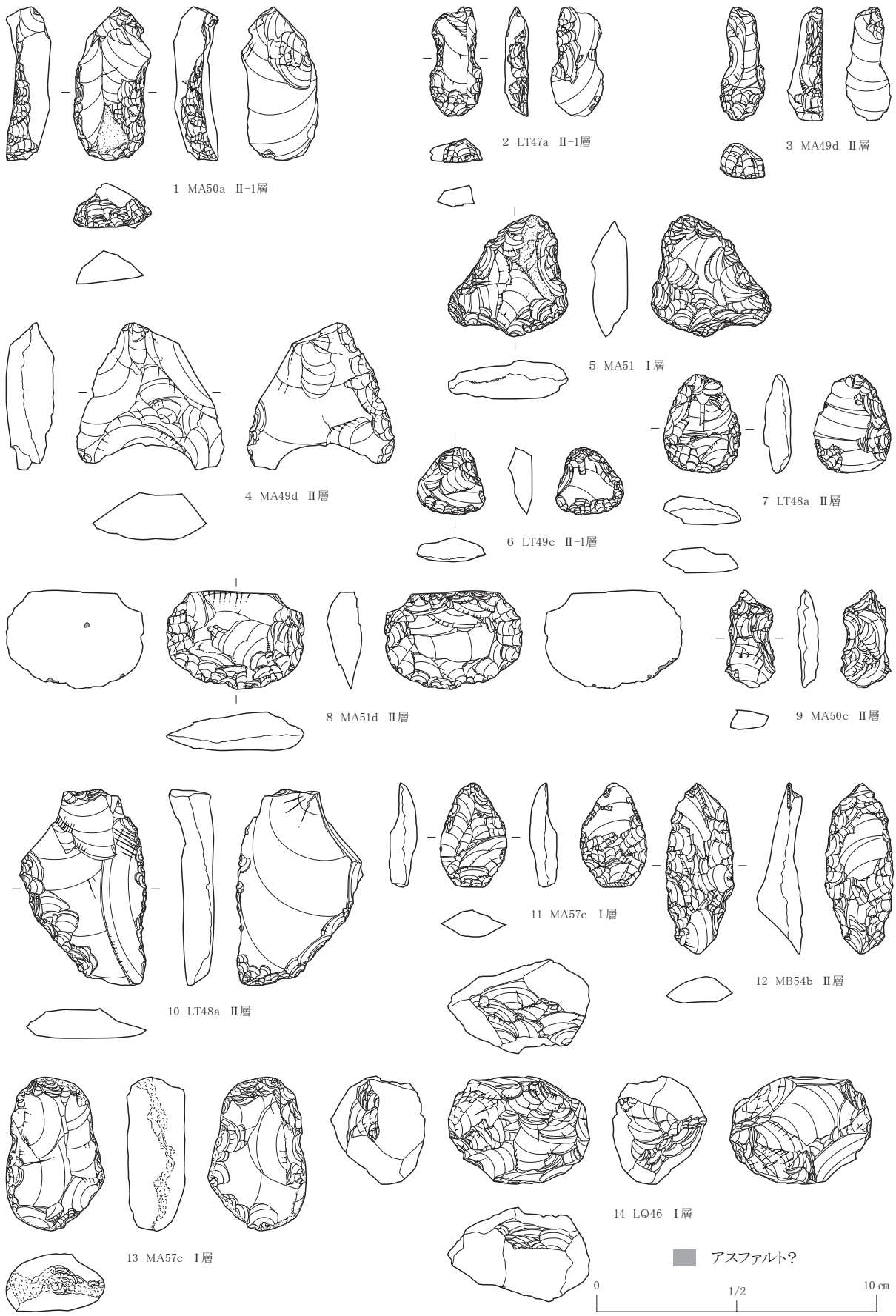
第45図　遺構外出土縄文土器(23)　Ⅳ群(晩期)深鉢、鉢、浅鉢、壺、注口　Ⅴ群(小型土器)



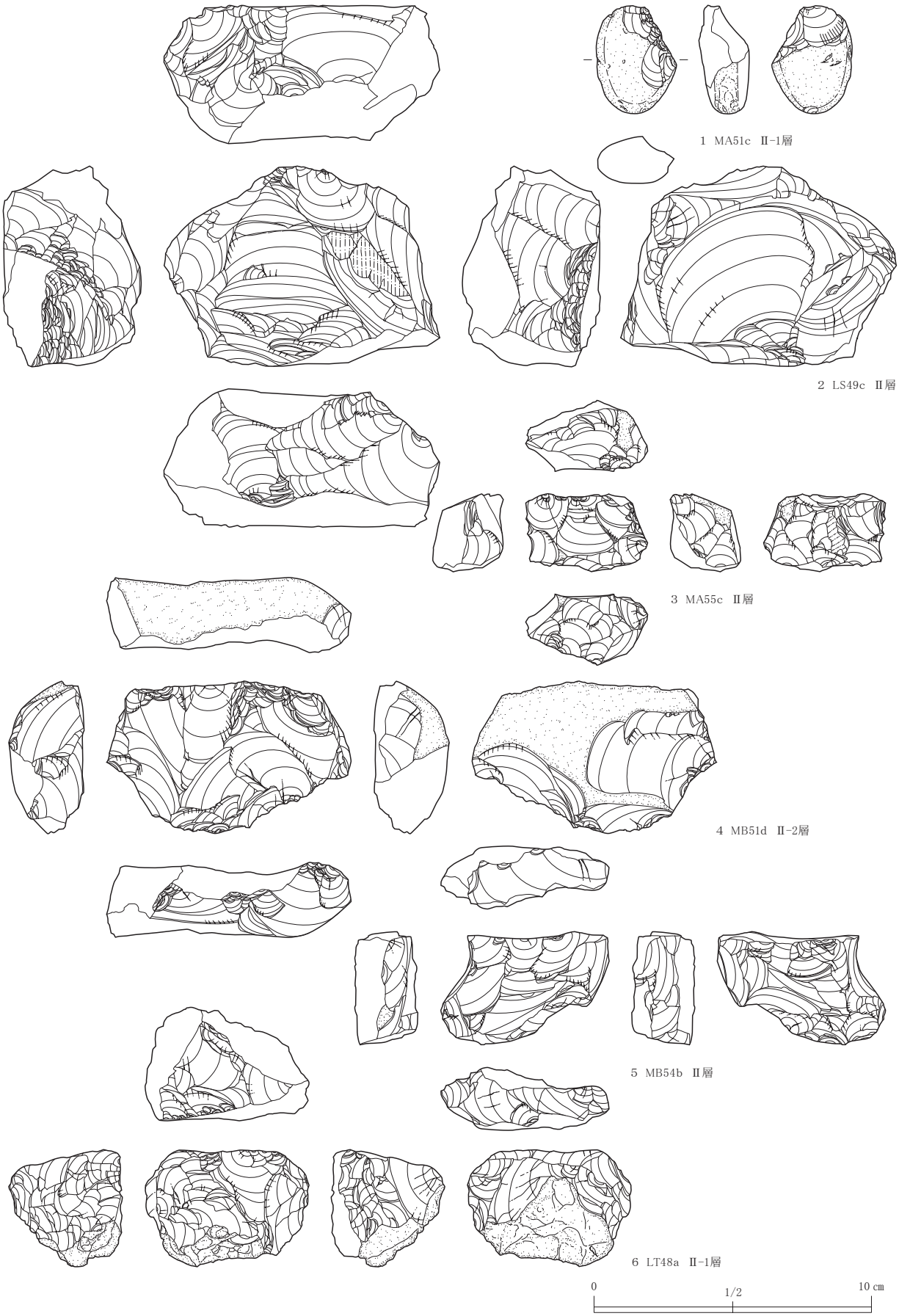
第46図　遺構外出土剥片石器類（１）　石鏃、石錐、石匙、箆状石器



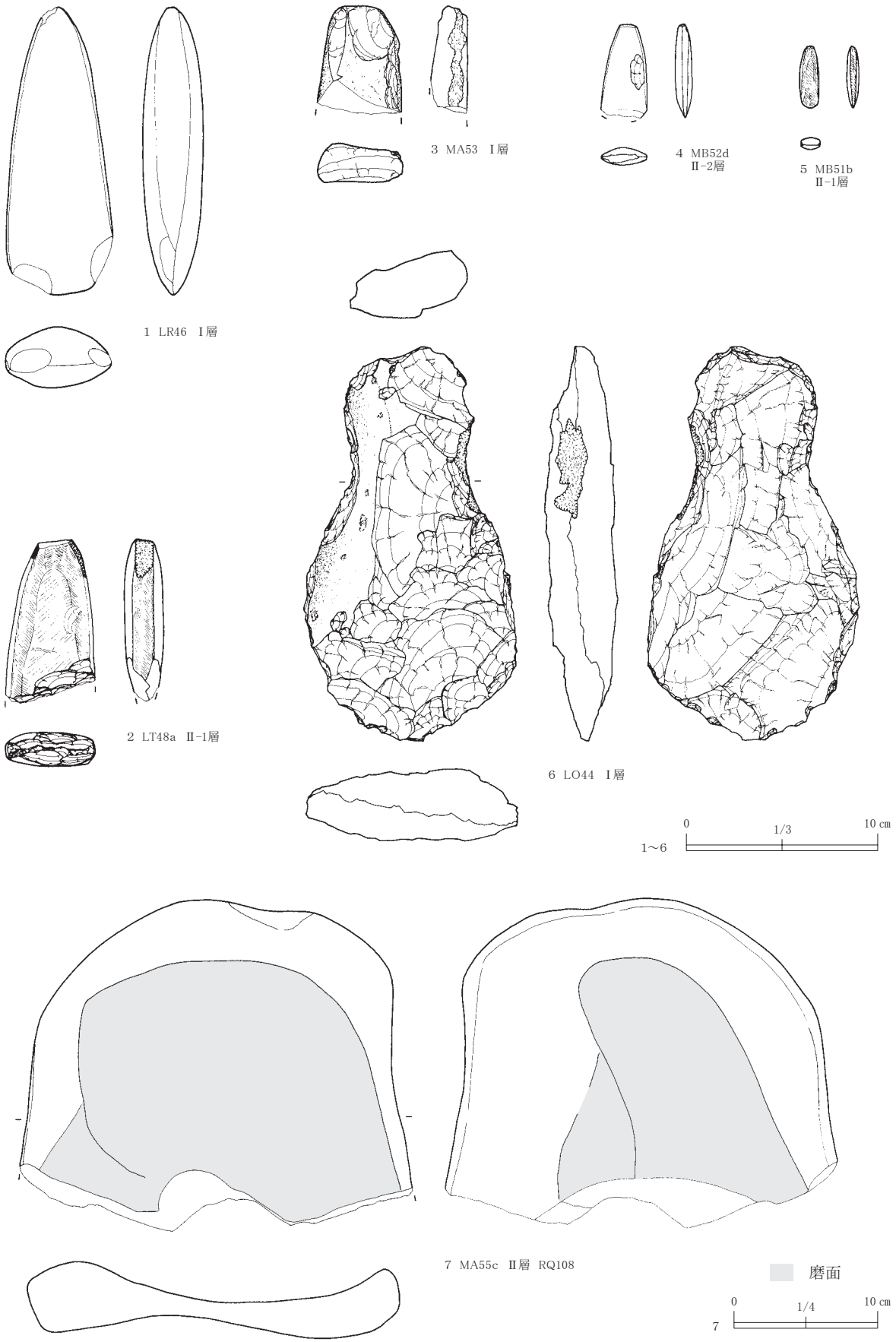
第47図　遺構外出土剥片石器類（２）　楔形石器、嘴状石器、異形石器ほか、不定形石器



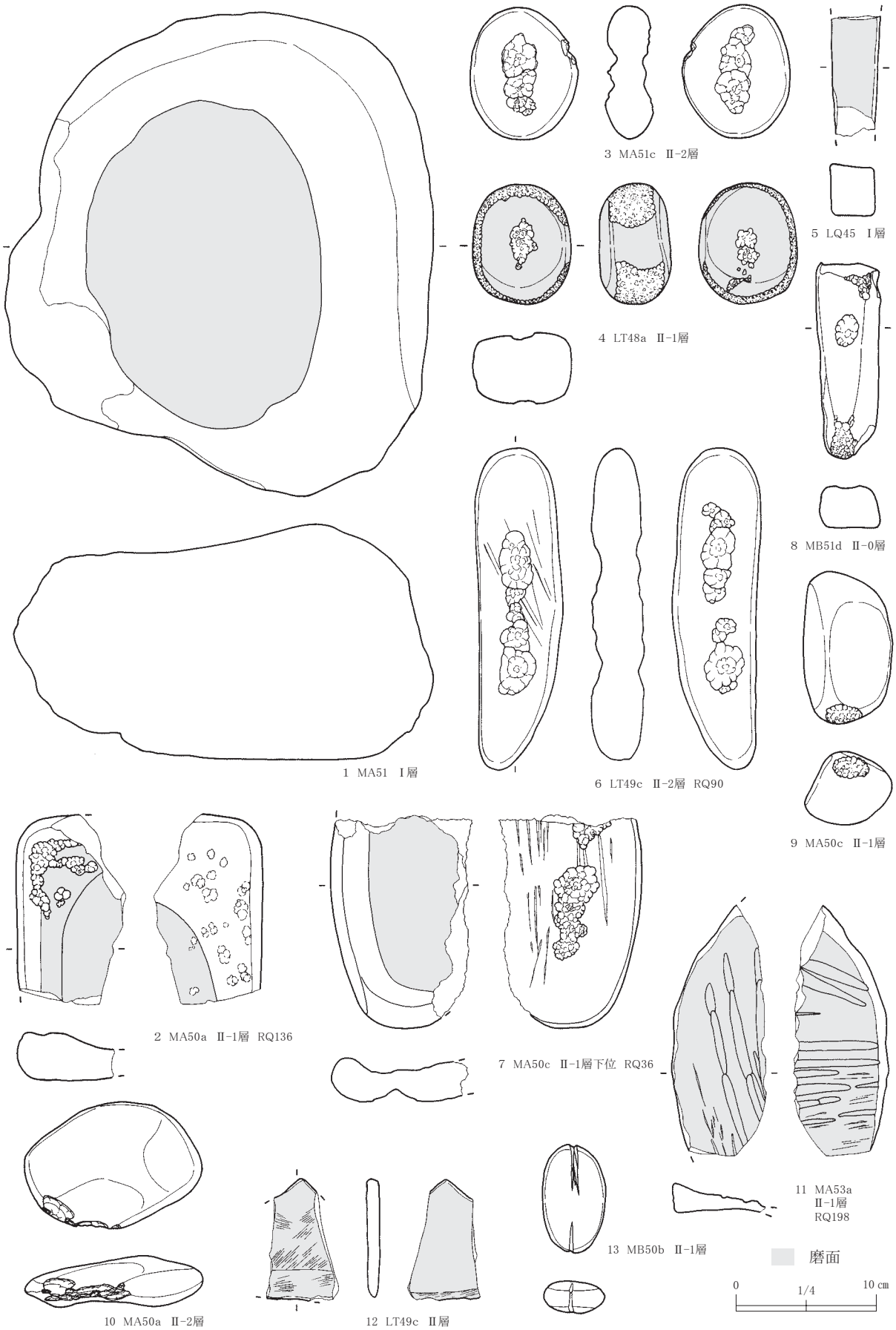
第48図　遺構外出土剥片石器類（３）　不定形石器、残核



第49図　遺構外出土剥片石器類（４）　残核



第50図　遺構外出土礫石器類（１）　磨製石斧、打製石斧、石皿



第51図　遺構外出土礫石器類（２）　石皿、砥石、磨・凹石類、敲石、礫器、石錘

第52図　遺構外出土土製品・石製品

第13表　石器の器種別出土点数

剥片石器類	石鏃	石錐	石匙	篦状石器	楔形石器	不定形石器	異形石器他	剥片	残核	総計
遺構外	66	35	44	2	18	522	8	3793	157	4645
遺構内	2	1	2	0	1	27	0	145	10	188
合計	68	36	46	2	19	549	8	3938	167	4833

礫石器類	打製石斧	磨製石斧	石皿	砥石	磨・凹石類	敲石	礫器	石錘	総計	硅化木
遺構外	2	22	192	22	540	11	11	7	807	803
遺構内	0	2	55	0	91	0	6	0	154	50
合計	2	24	247	22	631	11	17	7	961	853

第14表　石器の分類別出土点数

石鏃	A類	B１類	B２類	B３類	B４類	C類	D類	E類	総計
遺構外	1	5	16	8	5	1	25	5	66
遺構内	0	0	2	0	0	0	0	0	2
合計	1	5	18	8	5	1	25	5	68

石錐	A類	B類	C類	D類	E類	総計
遺構外	7	3	21	1	3	35
遺構内	0	0	1	0	0	1
合計	7	3	22	1	3	36

石匙	A１類	A２類	A３類	A４類	A５類	A６類	B１類	B２類	B３類	B４類	C１類	C２類	C３類	C４類	C５類	C６類	C７類	総計
遺構外	2	2	6	1	1	5	2	4	2	1	4	3	3	4	2	1	1	44
遺構内	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	2	2	6	1	1	7	2	4	2	1	4	3	3	4	2	1	1	46

不定形石器	A１類	B１類	D１類	A２類	B２類	C２類	D２類	A３a類	B３a類	D３a類	A３b類	A４類	B４類	D４類	A５類	B５類	D５類	A６類
遺構外	22	23	1	8	20	2	4	38	41	31	2	14	6	6	4	9	7	5
遺構内	0	0	0	0	4	0	0	2	4	3	0	0	0	0	1	0	0	0
合計	22	23	1	8	24	2	4	40	45	34	2	14	6	6	5	9	7	5

不定形石器	B６類	C６類	A７a類	B７a類	D７a類	A７b類	B７b類	D７b類	A８a類	B８a類	D８a類	A８b類	B８b類	D８b類	A８c類	C８c類	D８c類	A８d類
遺構外	7	3	13	6	1	2	2	0	3	2	2	1	10	0	2	8	6	4
遺構内	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0
合計	7	3	13	6	1	2	2	1	4	2	2	1	10	1	2	8	7	4

不定形石器	B８d類	D８d類	D８e類	B９a類	D９a類	A９b類	B９b類	A９c類	B９c類	C９c類	D９c類	A９d類	B９d類	C９d類	D９d類	A９e類	B９e類	D９e類
遺構外	0	1	4	2	1	2	8	3	23	44	16	8	8	26	3	2	10	2
遺構内	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0
合計	1	1	4	2	1	2	8	3	23	44	16	9	8	29	3	2	10	2

不定形石器	D９f類	D10a類	C10b類	C10c類	C10d類	B11類	C11類	総計
遺構外	2	4	10	21	4	2	1	522
遺構内	0	0	1	2	1	0	0	27
合計	2	4	11	23	5	2	1	549

礫器	A類	B類	総計
遺構外	10	1	11
遺構内	4	2	6
合計	14	3	17

石錘	A類	B類	総計
遺構外	4	3	7
遺構内	1	0	1
合計	5	3	8

磨製石斧	A類	A１類	A２類	B類	B１類	B３類	C２類	C３類	D類	総計
遺構外	2	1	1	3	8	2	1	2	2	22
遺構内	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
合計	3	1	1	3	9	2	1	2	2	24

残核	A類	B類	C類	D類	E類	総計
遺構外	64	58	21	8	6	157
遺構内	6	2	1	0	1	10
合計	70	60	22	8	7	167

石皿	A１類	A２類	B１類	C２類	D類	総計
遺構外	77	5	58	2	50	192
遺構内	29	2	14	0	10	55
合計	106	7	72	2	60	247

砥石	A１類	A２類	B類	総計
遺構外	3	13	6	22
遺構内	0	0	0	0
合計	3	13	6	22

敲石	A類	B類	C類	総計
遺構外	7	2	2	11
遺構内	0	0	0	0
合計	7	2	2	11

磨・凹石類	A１類	A２類	A３類	B１類	B２類	B３類	C２類	C３類	総計
遺構外	349	77	71	10	27	4	1	1	540
遺構内	52	15	14	3	4	2	1	0	91
合計	401	92	85	13	31	6	2	1	631

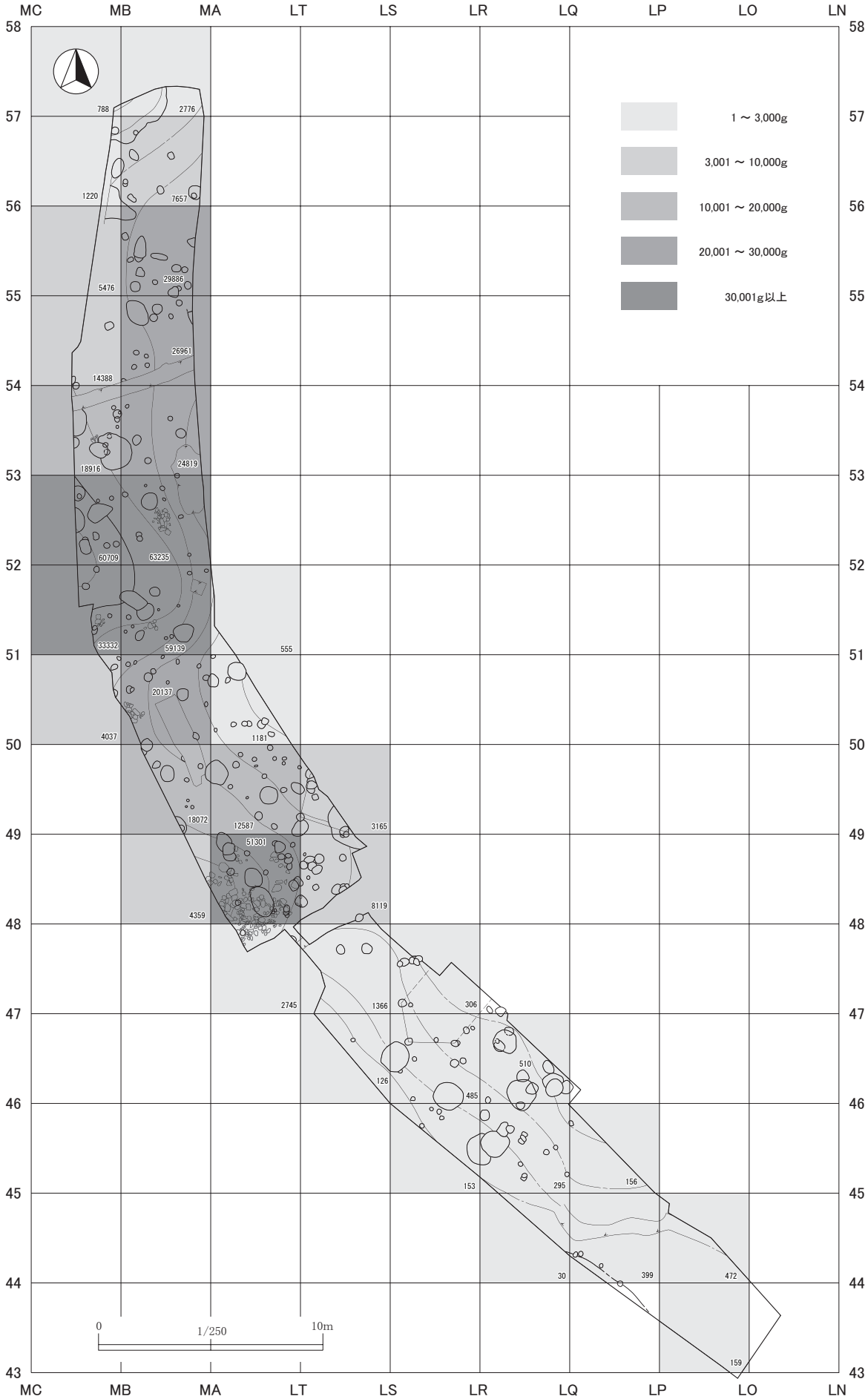
石棒	A類	B１類	B２類	B３類	B４類	総計
遺構外	1	5	1	7	1	15
遺構内	0	0	1	2	0	3
合計	1	5	2	9	1	18

第15表　土製品の器種別出土点数

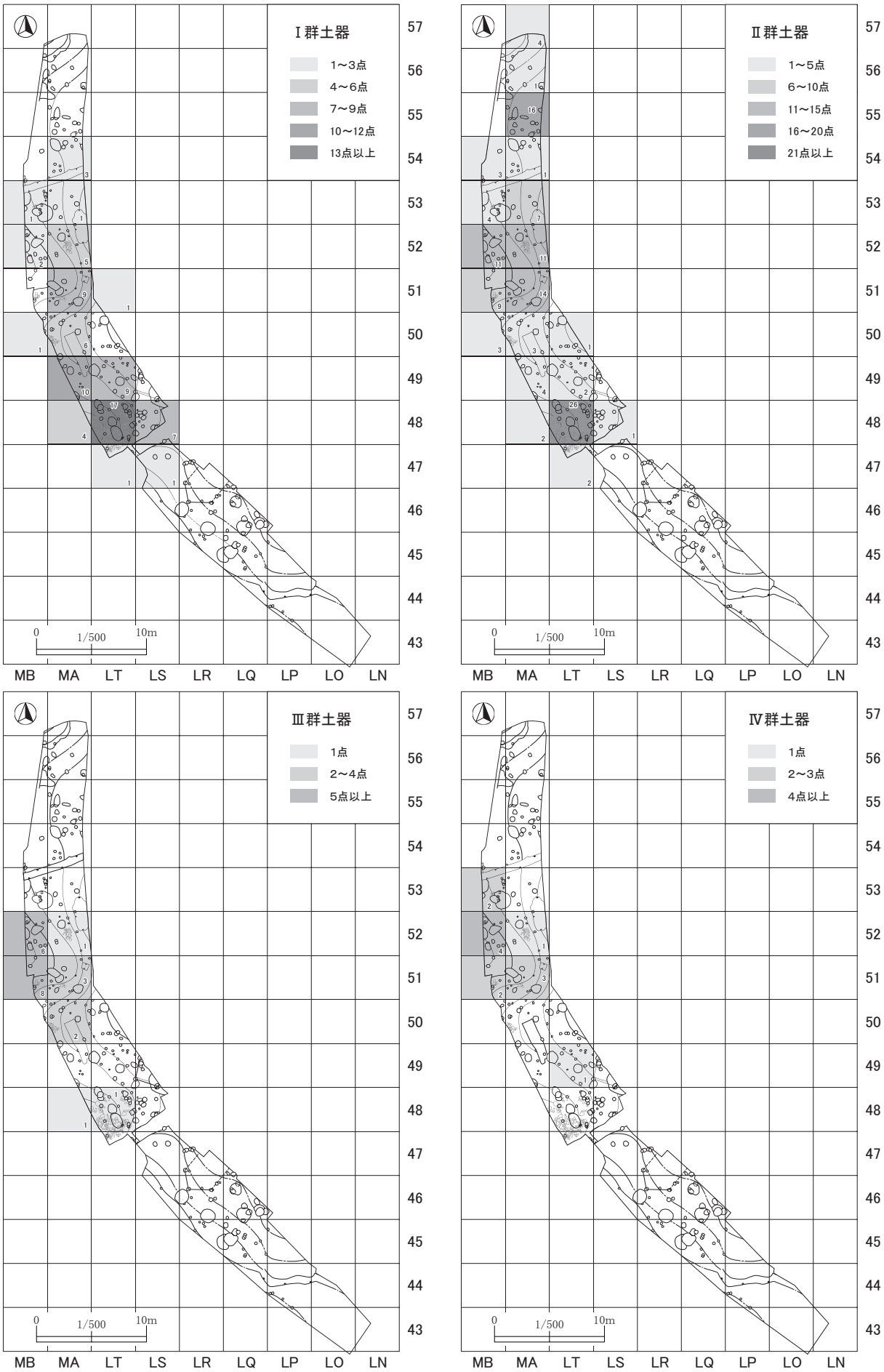
	土製耳飾	土偶	土器片円盤	その他	合計
遺構外	5	22	26	5	58
遺構内	1	0	1	0	2
合計	6	22	27	5	60

第16表　石製品の器種別出土点数

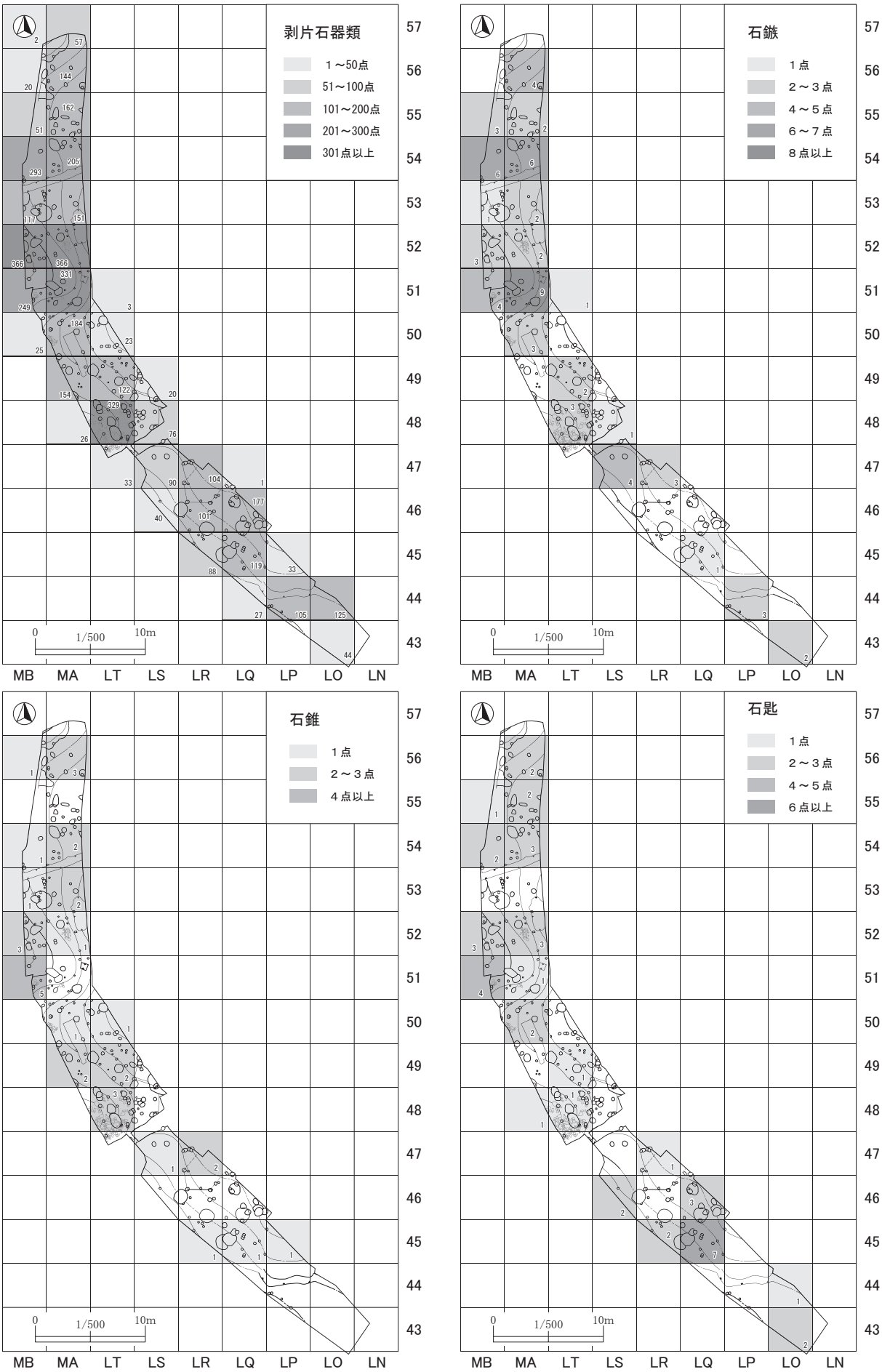
	石棒	円盤状石製品	有孔石製品	その他	合計
遺構外	15	9	2	2	28
遺構内	3	0	1	0	4
合計	18	9	3	2	32



第53図　遺構外出土縄文土器重量分布図



第54図　遺構外出土縄文土器時期別分布図



第55図　遺構外出土石器分布図（１）　剥片石器類、石鏃、石錐、石匙